

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
日本社会変動史	1 年次・後期	2 単位 (選択)	浅野 慎一 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史		

〔授業概要・目的〕

「日本・日本人」の誕生から現代に至る日本の社会構造とその変動過程を学ぶ。前半では、とくに「日本・日本人」という民族・ネーション・エスニシティ（エトノス）の史的構築のプロセスを、古代以降、近現代に至る東アジアの越境的な政治・経済・社会・文化圏の変動史に位置づけて考察する。後半では、現代日本の学校教育・家族・企業社会など身近な生活・文化・社会意識の在り方を、歴史的な社会構造変動の視座から捉え直す。歴史を踏まえ、現代日本社会の解決課題を再考し、未来社会の創造の可能性を探る。

〔到達目標〕

- ① 日本社会の歴史的変動過程についての知識を得ることができる。
- ② 「日本・日本人」というネーション・エスニシティ（エトノス）の史的形成過程に関する知識を得ることができる。
- ③ 現代日本の社会構造や日常生活を、歴史的な社会変動に位置づけて認識できる。
- ④ 日本社会の歴史的変遷・変動を生み出した主体的な潜勢力について理解することができる。
- ⑤ これらの知識を、今後の日本社会の構造やその主体的再編について考えるために応用できるようになる。

〔授業方法〕

授業の一部は教員による講義の形式とするが、受講生どうしのディスカッション、およびプレゼンテーションが授業の中心となる。配付資料、パワーポイントを活用する。授業内容の理解を深めるため、コメント、リアクションペーパーを活用する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	「日本／日本人」とは何か	ガイダンスと授業計画・授業方法の説明、「あなたは何人?」、「nation（国家・国民・民族）」とは何か、「単一民族神話」の幻想と現実	事前：シラバスの理解、配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 2 回	「日本／日本人」の歴史的起源	古代：「日本・日本人」の起源、古代の東アジア世界、「日本・日本人」の固有性の構築、日本列島に住まう多様な人々	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 3 回	「日本／日本人」の多様性と史の変遷	中世・近世：「日本・日本人」の越境化・多様化、「天下」統一、「鎖国」・稲作、エトノスとしての「日本」、蝦夷と琉球	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 4 回	近代化と多民族帝国の「日本人」	大日本帝国と大東亜共栄圏、疑似的血統主義・「家」制度、アジア・サイズの「日本人」	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 5 回	ポスト・コロニアリズムと単一民族的島国の「日本人」	国民主権と民族解放、単一民族神話、東西冷戦、高度経済成長、労働力流動化、「島国」の発明	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 6 回	グローバル化と多民族社会・「日本」	グローバリゼーション、外国人労働者、移民の定住、国民主権と人権、ポスト・コロニアルの分断と共生	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 7 回	コロキウム 1. 日本の社会変動と現代：ネーションを越えて	受講生の発表、ディスカッション、教員による総括	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 8 回	学校教育にみる日本の社会変動 1	近代公教育の二面性、学歴社会と競争主義、メリトクラシー、管理主義、国民教育のナショナリズム、校則と同調圧力、エイジズム	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 9 回	学校教育にみる日本の社会変動 2	変わる学校、「教育改革」とその陥穽、多様なオルタナティブ教育、夜間中学校	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 10 回	家族にみる日本の社会変動 1	父系性・一夫一婦制、近代的家父長制、近代労働者家族、日本型家族、性別役割分業	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 11 回	家族にみる日本の社会変動 2	家族の多様化と衰退、少子化、血統と関係性、生殖と世代、未来の人類家族とは？	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 12 回	企業社会にみる日本の社会変動 1	日本型企业社会の起源と史的形成、高度経済成長、終身雇用、年功制、企業別労働組合	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習

第13回	企業社会にみる日本の社会変動 2	グローバリゼーション、非正規雇用・流動化、格差社会、外国人労働者、ワーカーズ・コープ	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第14回	コロキウム 2. 日本社会の変動と現代：学校・家族・企業社会の再生	受講生の発表、ディスカッション、教員による総括	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第15回	コロキウム 3. 日本社会の変動と現代：歴史を踏まえた未来の創造	受講生の発表、ディスカッション、教員による総括	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習、レポート提出
定期試験は実施しない			

〔評価方法（基準）〕

授業中の発表・ディスカッションの達成水準（20%）、事前のコメント、授業中のリアクションペーパー、事後のレポートなど提出物（80%）で評価し、60%以上で合格とする。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	日本社会の歴史(上・中・下)	網野善彦	岩波新書
参考書	単一民族神話の起源	小熊英二	新曜社
参考書	〈日本人〉の境界	小熊英二	新曜社
参考書	新版 現代日本社会の構造と転換	浅野慎一	大学教育出版
参考論文	日本社会における「単一民族神話」の構造と転換	浅野慎一	神戸大学発達科学部研究紀要・第1巻第1号

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
社会運動・ボランティア論	2 年次・前期	2 単位 (選択)	江口 怜 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史		

【授業概要・目的】

近代以降、人々は「社会問題」を発見し、その問題を解決するためのさまざまな営為が行なわれ、それらは「社会運動」や「ボランティア」と呼ばれるようになった。本授業では、近現代日本、とくに戦後日本の社会運動やボランティアの歴史を取り上げ、両者の違いよりも共通性に着目しながら、「社会を変える」ことを目指したさまざまな取り組みの概要や特徴を学ぶ。そのことにより、現代の社会運動やボランティアを社会科学的に認識・考察するための基本的視座を獲得することを目的とする。

【到達目標】

- ① 近現代日本における社会運動・ボランティアの歴史的展開過程の概要を理解する。
- ② さまざまな社会運動・ボランティアの共通点や違いを理解する。
- ③ 現代の社会運動・ボランティアに対して、社会科学的見地から自分なりの考察を行うことができる。

【授業方法】

配付資料、パワーポイント、板書などを用いた講義を基本とする。授業内容の理解を深めるために、概ね毎回の授業時に小レポート作成、討論などを行う。

【授業計画】

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	近代における社会問題と社会運動の誕生	近代社会において社会問題が発見され、社会運動が誕生した歴史的経緯を理解する	事前：シラバスの理解 事後：学習課題の学習
第 2 回	近代日本の社会運動とセツルメント	明治期以降の近代日本で社会運動やセツルメントが誕生した歴史的経緯を理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 3 回	戦後日本の社会運動とボランティア	第二次大戦後の日本の社会運動やボランティアの展開過程を理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 4 回	現代日本の社会運動とボランティア	現代日本の社会運動やボランティアの状況を理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 5 回	社会運動とボランティアの意義と可能性を考える	授業内で執筆した小レポートを活用しながら、社会運動やボランティアの意義と可能性について討論する	事前：討論の準備 事後：討論の振り返り
第 6 回	労働運動と政党政治	戦後日本の労働運動が政党政治とどのように結びついてきたのか理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 7 回	大学生の社会運動と政治運動	戦後日本の大学生による社会運動（ボランティアを含む）と政治運動の展開過程を理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 8 回	学校内外の教育運動	戦後日本における教職員組合運動（学校内）と市民による教育運動（学校外）の展開過程を理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 9 回	マイノリティによる反差別運動	戦後日本におけるマイノリティによる反差別運動の展開過程を理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 10 回	フェミニズム・ウーマンリブと女性の居場所	戦後日本における女性の解放や権利向上を目指した運動や女性による居場所づくりの実践について理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 11 回	障害者解放運動と共生の営み	戦後日本における障害者が差別から解放され、地域で共に生きることを目指した運動や実践について理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 12 回	反公害運動とエコロジカルな生活の模索	戦後日本における公害や環境問題に関わる運動とエコロジカルな生活を目指した実践について理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 13 回	反貧困運動と野宿者支援	戦後日本における反貧困を目指した運動や野宿者支援の実践について理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 14 回	反ヘイトスピーチ運動と在日外国人支援	戦後日本における外国人差別に反対する反ヘイトスピーチの運動や在日外国人支援の実践について理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 15 回	社会運動・ボランティアの現在	これまでの授業を振り返り、社会運動・ボランティアの現在について考察する	事前：授業全体の振り返り 事後：最終レポート作成
定期試験は実施しない			

【評価方法（基準）】

授業内小レポート（50%）と最終レポート（50%）で評価し、60%以上で合格とする。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	テキスト市民活動論 [第 2 版]	大阪ボランティア協会	大阪ボランティア協会
参考書	社会運動の社会学	大幡裕嗣ほか	有斐閣

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
社会構造変動史	2 年次・後期	2 単位 (選択)	浅野 慎一 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史		

〔授業概要・目的〕

人類が直面する「グローバル・イシュー（global issue）」、およびそれを克服し得る共生社会の創造の可能性を、人類史の視座から根底的（radical）に考察する。前半では、人類社会とそこで生じた諸問題の史の変遷、およびそれらを貫く内在論理を考察する。後半では、各時期の「グローバル・イシュー」の克服に向けて意識的または無意識的に生活・行為している越境的な主体による社会形成の歴史と現状を考察する。歴史を踏まえ、現代の人類社会における解決課題を再考し、未来社会の創造の可能性を探る。

〔到達目標〕

- ① 人類社会の歴史的変動過程についての知識を得ることができる。
- ② 現代の人類社会の構造や日常生活を、歴史的な社会変動に位置づけて理解できる。
- ③ 人類社会の歴史的変遷・変動を生み出した主体的な潜勢力について理解することができる。
- ④ 人類が直面する「グローバル・イシュー」とその歴史的背景に関する知識を身に付けることができる。
- ⑤ これらの知識を、今後の人類社会の構造やその主体的再編について考えるために応用できるようになる。

〔授業方法〕

授業の一部は教員による講義の形式とするが、受講生同士のディスカッション、およびプレゼンテーションが授業の中心となる。配付資料、パワーポイントを活用する。授業内容の理解を深めるため、コメント、リアクションペーパーを活用する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	人類社会の前提条件	ガイダンスと授業計画・授業方法の説明、宇宙・生命・ヒトの誕生、グローバル・イシューの成立基盤	事前：シラバスの理解、配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 2 回	農耕・牧畜の社会：「農業革命」の衝撃	余剰生産物、経済成長、市場、国家・官僚制、文字・数字、階級・格差、戦争・略奪・環境破壊	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 3 回	資本主義・帝国主義の社会：「近代」再考	ヨーロッパの覇権、植民地、市民革命・産業革命、労働者階級、賃金と社会保障、世界大戦、近代世界システム	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 4 回	ポスト・コロニアルの社会：世界システムの転換	民族解放・民族自決、国民主権と人権、南北格差と東西冷戦、移民労働者・多国籍企業、社会の分断、ポスト・コロニアリズム	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 5 回	グローバル・イシューの解決と未来の模索	グローバルな世界社会、AI、監視社会、サイボーグ、遺伝子操作、新たな生産様式と民主主義	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 6 回	コロキウム 1. 人類の歴史と未来	受講生の発表とディスカッション、教員による総括	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 7 回	18～19 世紀のアイランド人出稼ぎ・移民労働者	『イギリスにおける労働者階級の状態』、相対的過剰人口、産業革命、植民地支配、民族解放闘争、マルクス&エンゲルス	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 8 回	19 世紀のスラヴ人出稼ぎ・移民労働者	「農業労働制度研究」、国家理念と階級闘争、封建制と近代化、理解社会学、ウェーバー	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 9 回	19～20 世紀のアメリカ移民	『欧米におけるポーランド農民』、状況定義、マージナルマン、黒人奴隷、旧移民・新移民、シカゴ学派、トーマス&ズナニエツキ、パーク	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 10 回	20 世紀の日本人の満州移民・中国残留孤児	満州開拓移民、中国残留孤児、日中戦争・中国内戦・東西冷戦・国交正常化、ポスト・コロニアルの中国と日本	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 11 回	20 世紀の日本人の南米移民とデカセギ	南米移民の歴史、南米日系人のデカセギ、出入国管理法改正と労働市場、異文化接触・文化変容、リーマンショック	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 12 回	20 世紀の難民	難民とは何か、ベトナム戦争、民族解放、インドシナ難民、階級と民族、エスニック・コミュニティ	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 13 回	20 世紀の留学・技術移転	留学生、技能実習生、特定技能、学習と労働、在留資格の変遷、帰国と定住、知識と世界観	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 14 回	コロキウム 2. 越境する人々の社会形成史	受講生の発表とディスカッション、教員による総括	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習

第15回	コロキウム3.人類史を創ってきた人々から学ぶこと	受講生の発表とディスカッション、教員による総括	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習、レポート提出
定期試験は実施しない			

〔評価方法（基準）〕

授業中の発表・ディスカッションの達成水準（20%）、事前のコメント、授業中のリアクションペーパー、事後のレポートなど提出物（80%）で評価し、60%以上で合格とする。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	サピエンス全史（上・下）	ユヴァル・ノア・ハラリ（柴田裕之訳）	河出書房新社
参考書	資本論：経済学批判	カール・マルクス（中山元訳）	日系 BP 社
参考書	脱＝社会科学	イマニュエル・ウォーラーステイン（本多健吉・高橋章監訳）	藤原書店
参考書	新しい学	イマニュエル・ウォーラーステイン（山下範久訳）	藤原書店
参考書	世界変動と出稼・移民労働の社会理論	浅野慎一	大学教育出版
参考書	増補版 日本で学ぶアジア系外国人	浅野慎一	大学教育出版
参考書	異国の父母—中国残留孤児を育てた養父母の群像	浅野慎一・佟岩	岩波書店
参考書	中国残留日本人孤児の研究—ポスト・コロナルの東アジアを生きる	浅野慎一・佟岩	御茶の水書房
参考論文	ホモ・サピエンスの史的唯物論とグローバル・イシュー	浅野慎一	神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要・第11巻第2号

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
階層構造変動史	3 年次・前期	2 単位 (選択)	岩井 八郎 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史		

〔授業概要・目的〕

本授業は、20 世紀初頭から約 1 世紀にわたる日本の階層変動を、ライフコース研究の視点から読み解くことを目的とする。近代国家は地位の平等化を推し進めるが、ある程度の格差を正当化してきた。またかつて正当とみなされた格差が時代を経て不公正と批判の対象となる場合も多い。本授業では、出生年の異なる人々の性別、出身階層、学歴に注目して、人々が年齢とともに辿る職業経歴と家族経歴にどのような時代的影響があるかを明らかにする。とくに戦時体制、高度成長期、失われた 10 年といった時代状況の下で生じた男女の地位と経歴の変化を説明する。数量的な研究結果に加えて、事例としてライフヒストリーを用いるが、身近な父母や祖父母、知人のライフヒストリーを長期的な時代の変化の中に位置づける視点を学ぶ。

〔到達目標〕

- ① 近現代日本の社会史について階層構造の変動の観点から全体的な理解を深める。
- ② 個別のライフヒストリーを時代的文脈に位置づけて理解する方法を学ぶ。
- ③ 戦時期の戦後の日本社会への影響について男女の経歴の変化から理解を深める。
- ④ 少子高齢化が進む今後の日本社会について平等な機会と格差の正当化の観点から展望する。

〔授業方法〕

配付資料とパワーポイントによって授業を進める。授業内容の理解を深めるために、個別のライフヒストリーの分析を小レポートの課題とする（3 回程度）。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	ライフヒストリーの読み方	出生年・年齢・時代の関係からライフヒストリーを読む方法を解説し、授業の内容・計画を説明する	事前：シラバスの理解 事後：授業資料の学習
第 2 回	基本用語、概念の説明	不平等な地位の序列関係として社会階層を理解する。また社会階層研究の基本的関心と通説を説明する	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 3 回	統計データからみる日本の 100 年	マクロな統計データを用いて、人口構成、家族構成、教育機会、産業経済構造の長期的変化を理解する	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 4 回	帝国日本の経済と社会 (1)	1920 年代前後の農村の生活と都会の生活、都市下層の発見、労働者階級と中間階級について概説する	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 5 回	帝国日本の経済と社会 (2)	1930 年代、重化学工業の発展と教育機会の拡大、終身雇用制度の原型の登場を中心に階層構造の変化について説明する	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 6 回	戦時期 (1)	戦時体制における男性の経歴の流動化について軍需産業の雇用拡大や兵役の影響から説明する	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 7 回	戦時期 (2)	戦時体制における女子労働の変化について階層別の差異と共通点を説明し、当時の人口家族政策の影響も説明する	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 8 回	戦時体制の遺産	個人のライフヒストリーを紹介し、戦時期から戦後への変化を説明、戦時期の人材養成の戦後社会への影響を検討する	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 9 回	高度成長期 (1)	高度成長期における男性の学歴別の職業経歴の特徴について機会の平等化と経歴の流動化の観点から説明する	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 10 回	高度成長期 (2)	高度成長期における女性の就業パターンと主婦化について、階層別の差異に注目して説明する	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 11 回	戦後日本型人生パターンと階層	1970 年代から 90 年代にかけて定着した戦後日本型人生パターンについて、格差の固定化の観点から説明する	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 12 回	男女雇用均等法以後	女性の雇用機会の拡大が、階層構造に与えた影響について検討する	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 13 回	失われた 10 年以後 (1)	1990 年代半ば以降の非正規雇用の拡大と経歴の不安定化について検討する	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 14 回	失われた 10 年以後 (2)	少子高齢化の階層構造に及ぼす影響を検討する	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 15 回	平等と不平等の未来	機会の平等と格差の正当化のダイナミズムから、階層構造の将来を展望する	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
定期試験は実施しない			

〔評価方法（基準）〕

小レポート 3 回（60%）と最終レポート（40%）で評価し、60%以上で合格とする。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	日本の 200 年 (上) (下)	アンドリュー・ゴードン	みすず書房
参考書	学校と工場	猪木武徳	ちくま学芸文庫
参考書	昭和史 (上) (下)	中村隆英	東洋経済新報社
参考書	日本人の生き方	D.W. プラース	岩波書店
参考書	日本社会のしくみ	小熊英二	講談社現代新書

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
教育の歴史社会学	3 年次・後期	2 単位 (選択)	江口 怜 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史		

【授業概要・目的】

誰もが経験してきた「教育」は、歴史的にどのように変容しながら現在に至っているのだろうか。本授業の目的は、人類史における教育の発生の意味から、現代の学校教育が抱える問題まで通時的に学んでいくことを通して、歴史社会学的視点から教育現象を把握できる力を身に付けることである。とりわけ、近代以降に全世界的に広がった近代学校システムがもたらした社会的影響力に注目し、近現代日本において「周縁の学校」（夜間中学やフリースクールなど）の事例に焦点を当てながら、社会の中で学校が持つ意味や機能の変化を学ぶ。

【到達目標】

- ① 現代社会において欠かすことのできない「教育」に関わる事象について、社会学的視点から考察できるようになる。
- ② 異文化としての過去（歴史）と向き合うことで、現在を理解し、未来を見通すための歴史社会学的想像力を身に付ける。

【授業方法】

配付資料、パワーポイント、板書などを用いた講義を基本とする。授業内容の理解を深めるために、概ね毎回の授業時に小レポート作成、討論などを行う。

【授業計画】

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	歴史社会学の作法	授業の概要と授業方法を学び、「歴史社会学的視点」の意義を理解する	事前：シラバスの理解 事後：学習課題の学習
第 2 回	教育の発生	人類はなぜ「教育」という行為を必要とするようになったのか、歴史的経緯を理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 3 回	近代以前の人間形成	近代学校の誕生まで、人類が長く営んできた地域や家庭での人間形成システムについて理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 4 回	近代学校の成立－ヨーロッパの経験／日本の経験	近代学校システムがヨーロッパで誕生し、日本に波及して近代学校が成立していく過程を理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 5 回	近代日本の「周縁の学校」－貧民学校と自由学校	近代日本における「周縁の学校」の事例として貧民学校と自由学校を取り上げ、社会の中で果たした役割などを理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 6 回	植民地の学校－ナショナリズムとコロニアリズム	近代日本における植民地の学校を取り上げ、ナショナリズムやコロニアリズムと学校教育の関係について理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 7 回	総力戦体制から戦後型学校へ	総力戦体制がもたらした社会的変化が戦後型学校の形成にどのように影響したのかを理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 8 回	高度経済成長期における学校－地域関係の変容	戦後の高度経済成長期において学校と地域の関係がドラスティックに変容した過程とそこで生じた課題を理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 9 回	学校問題の時代－いじめ・校内暴力・登校拒否	1970 年代以降、いじめや登校拒否などの「学校問題」「教育問題」が噴出する時代状況とその社会的背景を理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 10 回	戦後型学校の揺らぎと現代の教育問題	1990 年代以降に戦後型学校システムが揺らぎ、学校の在り方が問い直される現代の教育問題について考察する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 11 回	「周縁の学校」から考える①－特別支援学校・学級の歴史と現在	「周縁の学校」の代表的事例として障害児の学ぶ特別支援学校・学級を取り上げ、その歴史と現在から学校システムの課題を考察する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 12 回	「周縁の学校」から考える②－夜間中学の歴史と現在	「周縁の学校」の代表的事例として不就学・長欠児や義務教育未修了者の学ぶ夜間中学を取り上げ、その歴史と現在から学校システムの課題を考察する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 13 回	「周縁の学校」から考える③－フリースクールの歴史と現在	「周縁の学校」の代表的事例として不登校の子どもの居場所・学びの場であるフリースクールを取り上げ、その歴史と現在から学校システムの課題を考察する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 14 回	「周縁の学校」から考える④－外国人学校の歴史と現在	「周縁の学校」の代表的事例として日本の中にある外国人学校（朝鮮学校・ブラジル人学校など）を取り上げ、その歴史と現在から学校システムの課題を考察する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 15 回	教育を歴史社会学することの意義	教育を歴史社会学することで得られた知見や視点について振り返り、考察を深める	事前：授業全体の振り返り 事後：最終レポート作成
定期試験は実施しない			

【評価方法（基準）】

授業内小レポート（50％）と最終レポート（50％）で評価し、60％以上で合格とする。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	教育言説の歴史社会学	広田照幸	名古屋大学出版会
参考書	境界線の学校史	木村元編	東京大学出版会

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
日本の歴史	1 年次・前期	2 単位 (必修)	赤澤春彦 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史		

〔授業概要・目的〕

歴史学は人々の営為を様々な角度から検証する学問です。その中でも「時間」と「空間」という視点は歴史学の大きな特徴といえるでしょう。政治、経済、宗教、生活、文化など様々な要素が、「時間」の流れの中で、互いに関係を持ちながらどう変化してゆくのか。ここに歴史学のおもしろさがあります。本講義では日本の歴史を「流れ」にそって理解することを目的とします。

〔到達目標〕

日本の歴史にかかる基本的な知識を習得し、政治、経済、宗教、文化など多角的な要素を複合的に叙述できる能力を養えます。

〔授業方法〕

対面で行います。
授業で使用する資料は Teams にアップします。授業が始まるまでに各自で印刷して用意しておいてください。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	時代区分論	日本史の時代区分について考えます。また、歴史を学ぶことに意義について考えます。	日本史の時代区分について書籍や web で予習・復習しておく。
第 2 回	古代国家の形成	ヤマト国家から律令国家形成までの歴史を学びます。	律令国家について書籍や web で予習・復習しておく。
第 3 回	摂関政治と貴族社会	平安時代の政治と社会の特質について、摂関政治、院政を中心に学びます。	摂関政治と院政について書籍や web で予習・復習しておく。
第 4 回	武士の登場と成長	中世以降の日本の歴史を考える上で鍵となる武士の登場、成長について学びます。	武士の誕生について書籍や web で予習・復習しておく。
第 5 回	鎌倉幕府	鎌倉幕府とは何か。成立にかかる歴史と特質について最新の学説を踏まえながら考えてみます。	鎌倉幕府について書籍や web で予習・復習しておく。
第 6 回	室町時代の政治と文化	室町時代の政治・文化の特質について、朝廷、幕府、民衆の視点から学びます。	室町時代の政治や文化について書籍や web で予習・復習しておく。
第 7 回	戦国時代と天下統一	戦国時代から織豊期までの動向と統一政権誕生の歴史的意義を学びます。	戦国時代にや戦国大名について書籍や web で予習・復習しておく。
第 8 回	古代・中世の宗教	神祇・仏教・道教などを素材に宗教と政治・社会の関係について学びます。	神祇や仏教について書籍や web で予習・復習しておく。
第 9 回	幕藩体制の成立	江戸時代の国家や地域社会の枠組みがどのように形成されたかについて学びます。	江戸幕府について書籍や web で予習・復習しておく。
第 10 回	近世社会と民衆	江戸時代の民衆の生活や文化について学びます。都市、農村、山村、漁村など様々な環境や生業に基づいて形成される生活について比較します。	江戸時代の百姓について書籍や web で予習・復習しておく。
第 11 回	近代国家への道	幕末から明治政府樹立までの歴史を学びます。日本の近代化がもたらした意識の変化にも注目します。	明治維新について書籍や web で予習・復習しておく。
第 12 回	近代の思想と文化	明治から昭和初期の文化や思想について学びます。国家に対する人々の自立、政治参加についても考えます。	大正デモクラシーについて書籍や web で予習・復習しておく。
第 13 回	戦争と国家	日清戦争、日露戦争、第一次大戦が与えた影響について世界史的視点も交えながら考えます。	日清戦争・日露戦争・第一次大戦について書籍や web で予習・復習しておく。
第 14 回	太平洋戦争	太平洋戦争における日本政府および軍の混乱・愚策・国民統制について考えます。	第二次大戦について書籍や web で予習・復習しておく。
第 15 回	戦後から現代へ	敗戦と戦後の日本の歴史について学び、私たちの「今」について考えます。	GHQ による戦後の日本統治、沖縄問題について書籍や Web で予習・復習しておく。
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

定期試験（80%）、毎回の授業後に提出するコメントシート（20%、Teams で回収）

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	なし（教材を Teams にて配布する）		
参考書	なし（適宜紹介する）		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
世界の歴史	1 年次・後期	2 単位 (必修)	加来奈奈 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・日本史・外国史		

〔授業概要・目的〕

本講義では、ヨーロッパの歴史を中心に、過去と現在の変化や諸地域における差異を検討し、現代世界の成り立ちを知るとともに、歴史を通じて現代社会の諸問題に対する批判的なまなざしを涵養することを目指す。そのために、世界の歴史の基礎的な知識を習得し、時代や地域の特徴と、現代社会の形成の過程を理解することを目的とする。

〔到達目標〕

世界の歴史の重要な特徴を説明でき、それを活かして現代社会の問題について能動的に考えることができるようにする。

〔授業方法〕

毎回パワーポイントにもとづいて授業を進め、適宜、資料を配布する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	イントロダクション（歴史とは何か）	世界の歴史を学ぶ上での世界各地の特性や歴史区分などについて学び、学問としての歴史学を理解する。	（事前）西洋の古代、中世、近世、近代、現代という時代がいつかを調べてくる。（事後）歴史区分や世界の地域の特徴について整理する。
第 2 回	ヨーロッパの歴史の始まり	ヨーロッパの古代から中世にかけて、ヨーロッパの基盤がどのようにできていったのかを学ぶ。	（事前）中世ヨーロッパのイメージを書きだす。（事後）中世の身分と宗教について整理する。
第 3 回	中 世 の 世 界 （1）	王権やキリスト教世界について学び、その発展や対立について考える。	（事前）15 世紀までのフランス王とイングランド王について調べてくる。（事後）中世英仏の年表を作って、これまでのことを整理する。
第 4 回	中 世 の 世 界 （2）	世界の交易について学び、ヨーロッパの都市の成立や社会について考える。	（事前）ヨーロッパの都市について調べてくる。（事後）中世ヨーロッパの都市の特徴を整理する。
第 5 回	宗教改革	宗教改革の過程とその広がりについて学ぶ。	（事前）カトリックとプロテスタントの違いについて、調べてくる。（事後）宗派について整理する。
第 6 回	近世の君主の台頭	イングランドやフランス、ハプスブルク家などの君主を中心とした戦争や統治の全体像について学ぶ。	（事前）絶対王政について調べてくる。（事後）各地域の支配の特徴を整理する。
第 7 回	近世の君主の統治と社会	イングランドやフランス、ハプスブルク家などの君主を中心とした統治の仕方とともに、当時の社会について理解する。	（事前）近世において有名な王（王女）について誰か選んで調べてくる。（事後）中世から近世にかけての内容を整理する。
第 8 回	啓蒙改革	啓蒙思想について学び、それに基づいた政治・社会の改革について考える。	（事前）啓蒙という言葉調べてくる。（事後）啓蒙改革について整理する。
第 9 回	フランス革命	フランス革命の原因や過程について理解し、当時の社会について考える。	（事前）フランス革命の重要事項を調べてくる。（事後）フランス革命の年表を作り、学んだことを整理する。
第10回	ナポレオンの時代	ナポレオンとその影響について学び、その後、ヨーロッパ全体がどうなったかについて考える。	（事前）ナポレオンについて調べてくる。（事後）ナポレオンの影響について整理する。
第11回	近代のヨーロッパ（1）	産業革命や植民地など、近代ヨーロッパの特徴を理解する。	（事前）「近代」という言葉について調べてくる。（事後）近代のヨーロッパと現代社会の繋がりについて考える。
第12回	近代ヨーロッパ（2）	国民国家について学ぶ。	（事前）ヨーロッパの各国のその国らしさについて考えてくる。（事後）国民国家について整理する。
第13回	第一次世界大戦	第一次世界大戦の経緯と、当時の社会について学ぶ。	（事前）第一次世界大戦の始まりについて調べる。（事後）年表を作り、内容を整理する。

第 14 回	第二次世界大戦	第二次世界大戦について学び、ナチス・ドイツについて考える。	(事前) ヒトラーについて調べてくる。(事後) 年表を作り、内容を整理する。
第 15 回	現代世界	これまで学んできた歴史を振り返りながら、現代の世界について考える	(事前) 全授業内容を復習しておく。 (事後) 歴史を通して、現在の社会を検討する。
定期試験			

[評価方法 (基準)]
授業中に課す小レポート 30%、期末試験 70%

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	なし		
参考書	西洋の歴史を読み解く	上田耕造ほか編	晃洋書房

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
環境社会学	1 年次・前期	2 単位 (選択)	稲生 勝 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。）		

【授業概要・目的】

人類存続の危機とも言われる環境危機について、現代社会の矛盾の現れとして把握していく。気候危機や生物多様性減少などの地球規模の環境問題をもたらす現代社会の問題を講義する。さらに、地球規模の環境問題と日本の公害問題の連続性を考察し、公害をめぐる 3 段階の似非科学論争が現代社会の問題として出現していることを講義する。また、公害反対運動が今日、環境問題への対応の基本原則となっている予防原則、製造者責任、汚染者不安原則などを創造したことを確認する。さらに、現在、国際的に盛り上がっている環境保全の運動も紹介する。その上で何をなすべきかを考えていく。

【到達目標】

- ① 地球規模の環境問題が現代社会の問題であることを理解する。
- ② 地球環境問題と日本の公害問題の連続性を理解する。
- ③ 公害問題時に現れた 3 段階の似非科学論争が地球環境問題でも出現していることを考える。
- ④ 環境保全の運動の盛り上がりを知り、何をなすべきかを考えるようになる。

【授業方法】

プリント、板書による講義を中心とするが、ビデオ視聴なども積極的に取り入れる。途中、キャンパスツアーを実施し、外来生物や北上している植物、昆虫などを観察し、気候危機などが身近な環境に現れていることを調べる。

【授業計画】

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	環境問題とは	全体のガイダンス、環境問題の深刻さ	事後：学習範囲の学習
第 2 回	気候危機	二酸化炭素汚染、正のフィードバック	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の学習
第 3 回	気候危機と原発、石炭火力発電	原子力発電は気候危機対策になるか？石炭火力発電	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の学習
第 4 回	気候危機の対策	国際的な交渉、気候変動枠組条約、京都議定書からパリ協定、IPCC	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の学習
第 5 回	生物多様性問題	生物多様性の 0 危機、種の多様性、遺伝的多様性、生態系の多様性、里山の生物多様性	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の学習
第 6 回	食料と環境問題	水、耕作不能地の拡大、工業的畜産の問題、パーム油、アブラヤシ、バナナ栽培	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の学習
第 7 回	プラスチック汚染	マイクロプラスチック問題、内分泌かく乱物質、人工化学物質	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の学習
第 8 回	水俣病	現在なお続く裁判、熊本水俣病、新潟水俣病、未認定患者、潜在患者、認定患者、水俣条約、第 3 水俣病	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の学習
第 9 回	イタイイタイ病	現在なお続く新規発生、疫学調査、解決策の妥当性	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の学習
第 10 回	大気汚染	四日市喘息、資料館建設の遅れ、大気汚染裁判、SOX、NOX、PM2.5	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の学習
第 11 回	公害輸出	温山病、ARE、途上国の公害と環境破壊、ODA、農業支配	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の学習
第 12 回	公害反対運動	地方都市の裁判、大都市の住民運動、その成果と現在の環境対策の基本理念（予防原則、製造者責任、汚染者負担原則）	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の学習
第 13 回	キャンパスツアー	身近に存在する環境問題を体感する	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の学習
第 14 回	気候危機への対策を求める国際的な運動	グレタ・トゥーンベリ、各種運動	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の学習
第 15 回	まとめ	なにをすべきかを討論	事前：学習範囲の予習 事後：学習範囲の学習
定期試験			

【評価方法（基準）】

定期試験（50％）と講義中のレポート、討論など（50％）で評価し、60％以上で合格とする。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	環境事典	日本科学者会議編	旬報社
参考書	気候危機・感染症・環境破壊を考える	稲生他	学習の友
参考書	グレタさんの訴えと水害列島日本	岩佐他	学習の友

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
地域福祉論	1 年次・後期	2 単位 (選択)	上野山 裕士 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。）		

【授業概要・目的】

地域に存在するさまざまな生きづらさを地域で暮らす、活動する、働く人々の手で解決するための手法を地域福祉の概念から検討する。本授業では、地域福祉および地域の課題解決に関する諸理論とともに、地域福祉の実践事例を紹介する。また、それらの理論と実践の知見を踏まえ、受講者自身が居住地域（出身地域）に存在する生きづらさとその解消方法について考える機会を設ける。これらの学びを通じて受講生は、地域福祉について理解するとともに、自分なりの地域との向き合い方を明確にすることが期待される。

【到達目標】

- ① 地域福祉の概念について、その基本を理解し、説明することができる。
- ② 地域が抱える課題を解決するための方法について、自分なりに説明することができる。
- ③ 地域の担い手としての自覚を持ち、自身と地域との今後の関わり方を具体的に描くことができる。
- ④ これからの地域、社会の担い手に求められる知識、技能、思考、態度を身に付ける。

【授業方法】

配付資料、パワーポイント、板書などによる講義と、教員と学生、学生間の活発な対話に基づき、授業を実施する。また、少人数でのプレゼンテーション、フィードバック、振り返りを積極的に取り入れ、学生は、これらの学びの機会に主体的に参画することが求められる。

【授業計画】

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第1回	地域福祉から考える現代社会	オリエンテーション・授業計画および授業方法の説明・地域を取り巻く状況について理解する	事前：シラバスの確認 事後：講義の振り返り
第2回	日本における地方分権と地域福祉の主流化	日本における地方分権および社会福祉の進展について概観し、地域福祉の主流化に至るプロセスを理解する	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
第3回	地域福祉の基本的理解	地域福祉の定義やステップ、キーワードなどを紹介し、地域福祉の基本を理解する	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
第4回	福祉コミュニティ論と自治型地域福祉論	地域福祉研究の視座を、福祉コミュニティ論（岡村重夫）および自治型地域福祉論（右田紀久恵）を中心に紹介する	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
第5回	地域福祉の《基本理念》	地域に存在する多様性について理解し、それらに向き合うための基本理念について考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
第6回	地域福祉の《出発点》	地域が抱える多様な課題の中から、優先して取り組むべき課題と発見し、それを共有するための方法を考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
第7回	地域福祉の《主体》	地域が抱える課題を誰が解決するのか、個々の主体の資質や主体間の関係性に着目して考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
第8回	地域福祉の《手法》	地域が抱える課題の解決について、その具体的な方法とその過程に存在する意思決定の在り方を中心に考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
第9回	地域福祉の《目標》	課題解決を通じて目指す地域のすがたについて、内発的發展論、地域共生社会などのキーワードを手掛かりに考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
第10回	地域福祉の実践事例①	日本における地域福祉の実践事例を紹介し、地域福祉についての理解を深める	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
第11回	地域福祉の実践事例②	外国における地域福祉の実践事例を紹介し、地域福祉についての理解を深める	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
第12回	地域における多様な生きづらさと向き合う	地域における多様な生きづらさを理解するために、高齢者福祉、障害者福祉、子ども家庭福祉の視点を紹介する	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
第13回	地域の課題解決／魅力磨きプロジェクト	ワークシートを用いて地域の課題解決（魅力磨き）の具体的な手法を考える	事前：ワークの準備 事後：講義の振り返り
第14回	地域の担い手として大学生にできること	地域福祉を推進していくために大学生という立場でなにができるかを考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
第15回	地域共生社会の実現にむけて	本講義の内容を振り返るとともに、よりよい地域のために私たちにできることを考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
定期試験は実施しない			

【評価方法（基準）】

期末レポート（40％）とワーク成果物（15％）、毎回の小レポート（45％）で評価し、60％以上で合格とする。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	新装版 地域福祉論	岡村重夫	光生館
参考書	自治型地域福祉の理論	右田紀久恵	ミネルヴァ書房
参考書	コレクション鶴見和子曼荼羅Ⅸ 環の巻 内発 的発展論によるパラダイム転換	鶴見和子	藤原書店

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
地域社会学	1 年次・後期	2 単位 (選択)	藤井 和佐 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。）		

〔授業概要・目的〕

「地域社会」は、私たちにとって当たり前のものだろうか。公園を掃除する人、子どもたちを横断歩道で見守る人、お祭りの準備をする人。その人たちは、何故それをやっているのだろうか。それは何を意味するのだろうか。自明であると思われるようなことがらをあらためて考えるためのひとつの方法として社会学はある。普段は考えることのないような地域社会や地方社会に目を向け、多角的にアプローチするために地域社会学における概念や方法論、理論を学び新たな認識の視座を獲得する。

〔到達目標〕

- ① 抽象的概念と適切な具体的事例との往復的思考ができる。
- ② 地域社会という対象／方法論の意味・意義を把握する。
- ③ 地域社会学の基本的概念・理論についての知識を獲得する。
- ④ 地域社会をめぐる現象や問題について説明することができる。

〔授業方法〕

資料（Moodle で事前配付）、パワーポイント（要点の提示）、板書を用いる。授業は、大きく 2 種類のフレームによって進行する。〔フレーム 1〕教科書における指定した項目に関する事前学習（Moodle に投稿）、教員側からの問いかけとそれに対する学生の発言内容を深める形での講義、先行研究を踏まえ講義テーマに関する問いを考えてくる事後学習（Moodle に投稿）。〔フレーム 2〕2～4 回の各テーマにおいて事後学習で考えた問いの中から 1 つを選び（Moodle に投稿）、根拠を提示しながら問いの答えを説明する事前学習、授業におけるグループディスカッションと発表、教員からのフィードバックコメント、フィードバックコメントを踏まえさらに根拠資料を探索する事後学習（Moodle に投稿）。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	地域を社会学で考える	・ガイダンス：授業内容、成績評価の方法、教科書の使い方、事前・事後学習課題の意味、グループディスカッションの方法、(演習の復習) 情報探索・資料収集法について ・講義キーワード：「考える」とは（演習の復習）	事前：シラバス、教科書の「はじめに」・目次・索引部分の確認 事後：教科書全体に書かれている項目を把握する
第 2 回	1.1 地域とは何か	（フレーム 1） ・講義キーワード：町内会、NPO、地域、社会、コミュニティ	事前：教科書 pp.88-89 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出と問いの背景の整理
第 3 回	1.2 コミュニティとは何か	（フレーム 1） ・講義キーワード：世代、WEB コミュニティ・ネットコミュニティ、バーチャルコミュニティ、地域コミュニティ、共同体	事前：教科書 pp.89-91 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出と問いの背景の整理
第 4 回	1.3 地域とコミュニティで考える	（フレーム 2） ・グループディスカッション ・発表 ・フィードバックコメント	事前：根拠資料の探索と問いの答えの導出 事後：根拠資料の探索
第 5 回	2.1 行政によるコミュニティづくり	（フレーム 1） ・講義キーワード：高度経済成長、都市化、過疎・過密、離農・離村、兼業農家、ライフスタイル、昼夜間人口差、ベッドタウン	事前：教科書 pp.91-92 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出と問いの背景の整理
第 6 回	2.2 コミュニティとアソシエーション	（フレーム 1） ・講義キーワード：地域コミュニティ、サブ・コミュニティ、地域住民組織、地域資源	事前：教科書 pp.92-94 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出と問いの背景の整理
第 7 回	2.3 日本におけるコミュニティを考える	（フレーム 2） ・グループディスカッション ・発表 ・フィードバックコメント	事前：根拠資料の探索と問いの答えの導出 事後：根拠資料の探索
第 8 回	3.1 町内会の範域	（フレーム 1） ・講義キーワード：政治的支持調達、利益誘導、地縁組織、連合町内会、まちづくり協議会・コミュニティ協議会、地区公民館	事前：教科書 pp.94-95 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出と問いの背景の整理
第 9 回	3.2 町内会の役割と特徴	（フレーム 1） ・講義キーワード：自治、寄り合い、共同管理、行政末端機構	事前：教科書 pp.95-96 を読み、用語の意味・定義を調べてくる 事後：問いの導出と問いの背景の整理

第10回	3.3 町内会の課題	(フレーム1) ・講義キーワード：協働、パートナーシップ、男女共同参画	事前：教科書 pp.96-97 を読み、用語の意味・定義を調べる 事後：問いの導出と問いの背景の整理
第11回	3.4 町内会を考える	(フレーム2) ・グループディスカッション ・発表 ・フィードバックコメント	事前：根拠資料の探索と問いの答えの導出 事後：根拠資料の探索
第12回	4.1 平成の大合併	(フレーム1) ・講義キーワード：地方分権、地域間格差、テーマ型コミュニティ、エリア型コミュニティ、フォーラム型組織、「新しい公共」宣言	事前：教科書 pp.97-99 を読み、用語の意味・定義を調べる 事後：問いの導出と問いの背景の整理
第13回	4.2 限界集落化する中山間地域	(フレーム1) ・講義キーワード：高齢化、条件不利地域、字・区、共有財産、移住者、I ターン・J ターン・U ターン	事前：教科書 pp.99-100 を読み、用語の意味・定義を調べる 事後：問いの導出と問いの背景の整理
第14回	4.3 ソーシャルキャピタル	(フレーム1) ・講義キーワード：定住者、二地域居住、関係人口、ネットワーク、弱い紐帯	事前：教科書 pp.100-101 を読み、用語の意味・定義を調べる 事後：問いの導出と問いの背景の整理
第15回	4.4 地域社会をめぐる問題とその背景	(フレーム2) ・グループディスカッション ・発表 ・フィードバックコメント	事前：根拠資料の探索と問いの答えの導出 事後：根拠資料の探索・これまでの事後課題の振り返り
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

発言内容、グループディスカッション貢献度（30%）と課題への取り組み状況（30%）、定期試験（40%）で評価し、60%以上で合格とする。

〔教材〕

教材の区分	書名	著者名	出版社名
教科書	『社会学と社会システム』	(一社)日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版
参考書	授業中に指示する		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
地域社会形成論	3 年次・前期	2 単位 (選択)	藤井 和佐 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。）		

〔授業概要・目的〕

地域社会の現状・問題・将来像について考えるために、現在の地域社会（地域コミュニティ）の原型をたどりながら、地域社会の成りたちについて時間軸（歴史）、空間軸（範域）、社会軸（担い手）によって把握・理解する。それを手がかりに、現代における日本社会・地方社会について考えていく。社会調査やフィールドワークなどで地域に入る場合の専門知識、地域社会を研究対象とする場合の歴史的・空間的視座を獲得し、地域社会を捉えるうえでのミスリードを防ぎ、社会的・学術的に意味のある学問知の発信に結びつけられるようにする。

〔到達目標〕

- ① 抽象的概念と適切な具体的事例との往復的思考ができる。
- ② 地域社会における諸問題を相対的・複眼的に捉えるための視点を獲得する。
- ③ 今ある地域社会が、人々の営みによる歴史的蓄積によって成り立っていることを理解する。
- ④ 適切な先行研究や資料（データ）を用いて、地域社会における課題を説明できる。

〔授業方法〕

資料（Moodle で事前配付）、パワーポイント（要点の提示）、板書を用いる。授業は、事前配付資料内の問いについて考えてくる事前学習、事前学習内容に関する教員側からの問いとそれに対する学生の発言内容を深める形での対話型講義、授業テーマに関する問いを考える事後学習で成り立つ。地域社会の歴史を追う前半と、現代的テーマに迫る後半、それぞれの最後に授業内容の理解を深めるためのグループワークを実施する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	社会学で考える「地域社会」	・ガイダンス：授業内容、成績評価の方法、教科書の使い方、事前・事後学習課題について ・講義キーワード：歴史、空間、社会	事前：シラバスの確認 事後：授業テーマに関する問いの検討
第 2 回	「地域社会」とは	講義キーワード：定義、範域、役割、自治、範囲・担い手・機能の変容、産業構造・就業構造	事前：事前配付資料内の問いの答えを考えてくる 事後：授業テーマに関する問いの検討
第 3 回	村落と行政体	講義キーワード：集落、行政村、歴史、配置分合・自治体合併	事前：事前配付資料内の問いの答えを考えてくる 事後：授業テーマに関する問いの検討
第 4 回	自然村	講義キーワード：社会地区、ソローキン、村の精神	事前：事前配付資料内の問いの答えを考えてくる 事後：授業テーマに関する問いの検討
第 5 回	「家」制度	講義キーワード：伝統家族、近代家族、家々の連合、扶養共同体、経営体	事前：事前配付資料内の問いの答えを考えてくる 事後：授業テーマに関する問いの検討
第 6 回	家連合と組	講義キーワード：同族団と組、同族結合・講組結合、村組、トナリ関係、親分・子分、年齢階梯	事前：事前配付資料内の問いの答えを考えてくる 事後：授業テーマに関する問いの検討
第 7 回	村の境界	講義キーワード：ムラ・ノラ・ヤマ、中心・村中・周辺	事前：事前配付資料内の問いの答えを考えてくる 事後：授業テーマに関する問いの検討
第 8 回	「総有」	講義キーワード：共有、私有、入会権、入会地、潜在的総有、農地法、コモンズ、山・川・海	事前：事前配付資料内の問いの答えを考えてくる 事後：授業テーマに関する問いの検討
第 9 回	地域社会の成り立ちと現代的な地域課題	・グループワーク：第 1 回～第 8 回を総括する問いについて根拠データを用いて考える ・発表 ・フィードバックコメント	事前：指示された問いに関する根拠データの探索 事後：さらなる問いの導出と根拠資料の探索
第 10 回	限界集落	講義キーワード：人口減少、高齢化、人口移動、社会的共同生活	事前：事前配付資料内の問いの答えを考えてくる 事後：授業テーマに関する問いの検討
第 11 回	消滅可能性都市	講義キーワード：日本創生会議、国土計画、国土のグランドデザイン 2050、小さな拠点	事前：事前配付資料内の問いの答えを考えてくる 事後：授業テーマに関する問いの検討

第12回	地域社会の自治	講義キーワード：自治力、地域力、担い手、ダイバーシティ	事前：事前配付資料内の問いの答えを 考えてくる 事後：授業テーマに関する問いの検討
第13回	生活の場	講義キーワード：生活の砦、補完性の原理、社会的弱者	事前：事前配付資料内の問いの答えを 考えてくる 事後：授業テーマに関する問いの検討
第14回	つながる住民	講義キーワード：NPO、町内会・自治会、まちづくり協議会・コミュニティ協議会、ネットワーク	事前：事前配付資料内の問いの答えを 考えてくる 事後：授業テーマに関する問いの検討
第15回	範域自治の限界と可能性、そしてこれからの自治	・グループワーク：第10回～第14回を総括する問いについて根拠データを用いて考える ・発表 ・フィードバックコメント	事前：指示された問いに関する根拠データの探索 事後：包括的問いの導出と根拠資料の探索
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

発言内容、グループワーク貢献度（25％）と課題への取り組み状況（25％）、定期試験（50％）で評価し、60％以上で合格とする。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	講義内容に関する資料を配付		
参考書	授業中に指示する		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
人間環境の社会学	3 年次・前期	2 単位 (選択)	浅野 慎一 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。）		

〔授業概要・目的〕

現在、人類は自ら創出した科学技術の「生産力＝破壊力」、およびそれを前提とした社会構造により、人類自身の「生命－生活 (life)」の存続をも危機に陥れつつある。核汚染や自然環境破壊、ヒトゲノムへの技術的介入、社会の分裂・対立・疎外はいずれも、その具体的な現れと言えよう。本授業は、自然と社会の双方を視野に収め、これを人間が生きる／創造する「環境」としてトータルに把握し、現在の人類が直面している危機、およびそれを克服する人間の主体性の在り方を「根底的 (radical)」に考察する。

〔到達目標〕

- ① 科学技術が変化を加えた自然・社会を包括した人間環境についての知識を得ることができる。
- ② 環境と主体に関する社会学の知識を得ることができる。
- ③ 自然と社会、個人と社会、主観と客観、遺伝と環境、共生と排除など、多様な二分法に基づく社会認識を理解すると同時に、それらの根底にある普遍性をも捉える柔軟な視座を身につけることができる。
- ④ 環境を形成する人間の主体性・潜勢力についての知識を得ることができる。
- ⑤ これらの知識を、今後の人間環境の主体的形成について考えるために応用できるようになる。

〔授業方法〕

授業の一部は教員による講義の形式とするが、受講生同士のディスカッション、およびプレゼンテーションが授業の中心となる。配付資料、パワーポイントを活用する。授業内容の理解を深めるため、コメント、リアクションペーパーを活用する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	主体－環境－人間	ガイダンスと授業計画・授業方法の説明、「人間中心主義」批判の諸潮流、主体としての人間、人間とは何か	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 2 回	自然としての人間／人間としての自然	「限りある自然」論とその陥穽、人間と自然環境、人間の自然改造、無限の自然と意図せざる結果	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 3 回	環境と主体	「環境外在論」とその限界、意味世界としての環境、内界としての環境、「主体－環境系論」の視座	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 4 回	近代の光と影	近代科学批判とその陥穽、目的論・意味論の看過、科学万能主義と再魔術化、科学と資本主義	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 5 回	環境保全と主体形成	環境保全の 4 つの観点、利潤増殖と環境破壊、環境を保全する欲望と知、「豊かさ」とは何か	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 6 回	ポスト・フォーディズムの人間環境	ポスト・フォーディズム、脱産業社会、情報社会と格差、新国際分業、文化帝国主義、監視社会	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 7 回	環境としての自然と社会	自然環境破壊という社会問題、転換期の現代社会環境、グローバル化と地球的問題群、パンデミック	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 8 回	コロキウム 1. 人間環境と自然・社会	受講生の発表・ディスカッション、教員による総括	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 9 回	ヒトゲノムの操作と人間の揺らぎ	「DNA 本質主義」と「DNA 構築主義」、「人間の確定」と「人間の揺らぎ」、法的・倫理的規範とその限界	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 10 回	個人と人類／近代的人権の意義と限界	個と類の対立、国家・市場・個人、個性と人間性、自己決定とその限界、ヒトの揺らぎと人権	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 11 回	血縁・生殖・世代・家族	個人主義の限界、家族・血統の相対化と複雑化、個人の生と死、有性生殖・性の多様性と限界	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 12 回	差別と平等／排除と共生	男と女、生得的属性と獲得的業績、正常と異常、優性思想と多様性に基づく差別	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 13 回	遺伝と環境／主体と環境	遺伝決定論の破綻、環境決定論の破綻、「決定論／宿命論」の克服、主体論・実践論の模索	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 14 回	コロキウム 2. 「ヒトの境界」・人間的自然の揺らぎ	受講生の発表・ディスカッション、教員による総括	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習
第 15 回	コロキウム 3. 人間と環境の未来	受講生の発表・ディスカッション、教員による総括	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習、レポート提出

定期試験は実施しない

〔評価方法（基準）〕

授業中の発表・ディスカッションの達成水準（20%）、事前のコメント、授業中のリアクションペーパー、事後のレポートなど提出物（80%）で評価し、60%以上で合格とする。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指定する		
参考書	自然の弁証法	フリードリヒ・エンゲルス（秋間実・渋谷一夫訳）	新日本出版社
参考書	経済学・哲学草稿	カール・マルクス（長谷川宏訳）	光文社
参考書	ホモ・デウス：テクノロジーとサピエンスの未来（上・下）	ユヴァル・ノア・ハラリ（柴田裕之訳）	河出書房新社
参考書	地球環境問題とは何か	米本昌平	岩波新書
参考書	人間的自然と社会環境	浅野慎一	大学教育出版
参考論文	ポスト・ヒトゲノムの社会環境論	浅野慎一	人間科学研究 Vol.8, No.2（神戸大学発達科学部人間科学研究センター）

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
エスニシティ論	3 年次・後期	2 単位 (選択)	落合 知子 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。）		

〔授業概要・目的〕

国境を越えた人に移動が進行する中で多様な文化背景を持つ人々が私たちの社会に参画している。少数者＝マイノリティを周縁化せず、マジョリティとは異なる視点を可視化、言語化することで社会資源とすることはできるのか。主にアメリカ・カナダ・日本などを中心に多文化化の歴史を追い、現代の政策とその諸問題について理解し、私たちに何ができるのか考え行動する（あるいはその準備をする）。障害者問題、女性問題、そして外国人問題というようにあたかも問題はマイノリティ側にあるような「問題化」ではなく、障害者の参画の難しい社会、男女間の格差是正を拒む社会、通名を使い外国にルーツも持つことを隠さざるを得ない社会をいかに変えていくことができるのかという視点を持つことを求める。

〔到達目標〕

- ① 日本の外国人移住の歴史を学び、現在の外国人受け入れ政策についての理解と自らの意見を持つ。
- ② アメリカ、カナダ、欧州の多文化化の歴史を学び、世界の潮流を理解する。
- ③ 多文化・複文化社会の構築に向けて、自らの意見を構築し、行動計画を持つ。
- ④ この社会の構成員としての当事者意識を持ち、具体的な解決策を考え、自らできることを実行するようになることを求める。

〔授業方法〕

講義はパワーポイントによって行う。適宜シュミレーションゲームやロールプレイングゲームなどの参加型の学習活動を行い、振り返りを行う。適宜、事後学習課題で 400 字程度の小レポートを課す。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介：異文化が出会うとは、ロールプレイングゲーム「トウヤットの村で」 講義：文化とは何か	事前：自分の異文化体験を析出する 事後：学習課題を学習する
第 2 回	人の国際移動の基礎知識①	人は何故国境を越えて移動するのか 国民国家の成り立ちと限界、新旧ブルーパッシュ理論を理解する	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題を学習する
第 3 回	人の国際移動の基礎知識②	シティズンシップ、デニズンシップ、パーソンフッド、国際移動と人権	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題を学習する
第 4 回	世界の多文化化の潮流アメリカ①	人種差別との戦い：公民権運動とコールマンレポート	事前：公民権運動について調べてくる 事後：学習課題を学習する
第 5 回	世界の多文化化の潮流アメリカ②	現代アメリカの多文化政策：メルチングポットからサラダボウルへ	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題を学習する
第 6 回	世界の多文化化の潮流イギリス①	植民地と移民	事前：イギリスの移民政策について調べてくる 事後：学習課題を学習する
第 7 回	世界の多文化化の潮流イギリス②	複言語・複文化主義・言語意識教育の実践	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題を学習する
第 8 回	世界の多文化化の潮流カナダ①	カナダの多文化主義への道 支援から資源へ	事前：カナダの多文化政策を調べてくる 事後：学習課題を学習する
第 9 回	世界の多文化化の潮流カナダ②	カナダの教育 母語・継承語・家庭言語教育の実践	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題を学習する
第 10 回	日本の移民・難民政策①	オールドカマーの移動と在日コリアンと権利獲得の戦い	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題を学習する
第 11 回	日本の移民・難民政策②	インドシナ難民、日系人、技能実習生	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題を学習する
第 12 回	日本多文化・複文化社会への道①	多文化な子どもたちの教育：母語とアイデンティティ	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題を学習する
第 13 回	日本多文化・複文化社会への道②	NPO・家庭・学校の協働の可能性について神戸・新長田の事例	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題を学習する
第 14 回	日本の教室の中の多文化共生	マイクロアグレッションを知覚し、アライ（ALLY）を育むには	事前：マイクロアグレッションとは何か、経験を語る 事後：学習課題を学習する
第 15 回	アクションプラン	私たちにできること（FAL を活用してのアクションプランの策定）	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題を学習する
定期試験は実施しない			

〔評価方法（基準）〕

期末レポート（60 点）とチームメンバーからの評価、事後学習課題の小レポートなど（40 点）で評価し、60%以上で合格とする。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	在日外国人 第3版－法の壁・心の溝－	田中宏	岩波新書
参考書	歴史教科書 在日コリアンの歴史	『歴史教科書 在日コリアンの歴史』作成委員会	明石書店

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
都市住宅論	3 年次・後期	2 単位 (選択)	平山 洋介 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。）		

〔授業概要・目的〕

都市を生きるすべての人々は、よりよい人生をあゆむために、適切な住まいを必要とする。誰が、誰のために、どのような住宅を、どのようにつくるのかは、挑戦する価値のある重要な問いである。本授業では、都市住宅の在り方を展望するために、まず、住空間に関する思想・実践の歴史をみたく、住宅政策、住宅市場、住宅法制などが構成する住宅システムの展開の軌跡を説明し、現代都市における人生の道筋の多様さと住まいの関係を理解するために、若者、女性、高齢者のライフコース変化とその住宅条件を調べ、さらに、住宅困窮者のための住宅セーフティネットの実態と論点を講述する。最後に、住まいの課題が新規建設からストック再生に移ったことを述べ、その政策形成と実践について検討する。

〔到達目標〕

- ① 住空間の思想と実践について知識を得ることができる。
- ② 住宅システムとライフコース変化の関係について知識を得ることができる。
- ③ 既存住宅再生について知識を得ることができる。
- ④ 講義での学習内容をもとに、住まいの多様な実態と課題を調べることができる。

〔授業方法〕

オリジナルプリント、関連資料、パワーポイント、板書に基づいて講述する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	独立住宅計画の歴史	独立住宅（一戸建て住宅）の在り方に関する近代以降の主な建築家による思想と実践	事前：シラバスの通読 事後：学習課題の学習
第 2 回	集合住宅計画の歴史	戦争と都市化による住宅不足の時代における集合住宅計画の理論化とその後の展開	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 3 回	集合住宅計画の挑戦	標準世帯を対象とするマスメハウジングからより多様な世帯のための集合住宅へ	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 4 回	住宅計画と世帯変化	単身者、高齢者、母子世帯などの増大に対応する住宅計画の在り方	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 5 回	住宅システムの戦後史	住宅政策、住宅市場、住宅法制などから成り立つ住宅システムの形成と変容	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 6 回	住宅事情の変化	人口減少・高齢化、成長率低下、雇用の不安定化、空き家増大などの新たな社会・経済条件のもとでの住宅事情の変化	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 7 回	若者のライフコースと住まい	未婚・単身者の増大、離家の遅れ、不安定就労の増大による若年層のライフコース分岐と住宅条件	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 8 回	女性のライフコースと住まい	ライフコースのジェンダー化における女性の位置づけと住宅条件の変化	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 9 回	高齢者のライフコースと住まい	増大する高齢層におけるライフコース変化と住まいの状況の階層化	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 10 回	貧困と住宅セーフティネット	貧困状態の人たちの居住の不安定とそれへのセーフティネット形成	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 11 回	住宅再生と街づくり	住まいの課題が新規建設からストック利用に移る状況における既存住宅改善とそれに基づく街づくり	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 12 回	住宅再生と都市計画	土地区画整理事業、市街地再開発事業などの都市計画事業における住宅づくりの実態と課題	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 13 回	住宅再生の事例検討（1） 既成市街地の共同再建	老朽住宅が密集するインナーシティの再生における住宅共同再建	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 14 回	住宅再生の事例検討（2） 団地建て替えと生活再建	老朽化した公共住宅団地の建て替えにおける住民参加と生活再建	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 15 回	都市住宅の現在と未来	授業のまとめとそれに基づく都市住宅の在り方の展望	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

定期試験（50 点満点）とレポート（50 点満点）で評価し、60 点以上で合格とする。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	「仮住まい」と戦後日本	平山洋介	青土社
参考書	マイホームの彼方に	平山洋介	筑摩書房
参考書	別途、紹介する		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
観光地域福祉論	3 年次・後期	2 単位 (選択)	上野山 裕士 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。）		

〔授業概要・目的〕

少子高齢化の進展による担い手不足、住民ニーズの多様化・複雑化と財政格差、地域経済の停滞など、さまざまな課題を抱える地域において、その活性化の柱として期待される「観光」と、多様性の時代の中で多くの生きづらさを抱える人々を支える「福祉」の概念に着目し、これからの地域の在り方について考える。本授業では、地域、観光、福祉の基礎的概念とともに、地域という場の中で観光と福祉がどのようにに関わり合うかについて検討し、受講生一人ひとりが、人々の豊かな暮らしをデザインしていくための具体的な方法を描く機会を創出する。

〔到達目標〕

- ① 地域が抱える課題とそれらとの向き合い方について自分なりに理解し、他者に説明することができる。
- ② 観光の概念と地域との関わりについて自分なりに理解し、他者に説明することができる。
- ③ 福祉の概念と地域との関わりについて自分なりに理解し、他者に説明することができる。
- ④ 他者との対話、協働を通じて、提示された課題に対する成果物を創出することができる。

〔授業方法〕

配付資料、パワーポイント、板書などによる講義と、グループワーク、教員と学生、学生間の活発な対話に基づき、授業を実施する。また、少人数でのプレゼンテーション、フィードバック、振り返りを積極的に取り入れ、学生は、これらの学びの機会に主体的に参画することが求められる。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	地域がつなぐ観光と福祉	オリエンテーション・授業計画および授業方法の説明・地域の中で観光と福祉に着目することの意義	事前：シラバスの確認 事後：講義の振り返り
第 2 回	地域について考える	地域の現状と地域が抱える多様な課題を概括的に理解する	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
第 3 回	地域の担い手：定住人口、交流人口、関係人口	多くの地域が抱える課題である「担い手」について定住人口、交流人口、関係人口の視点から考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
第 4 回	観光の概念を理解する	「観光」の概念、定義、変遷、領域とその学術的視点についての基礎を理解する	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
第 5 回	福祉の概念を理解する	「福祉」の概念、定義、変遷、領域とその学術的視点についての基礎を理解する	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
第 6 回	観光福祉と観光地域福祉	すでに学術的・実践的蓄積がある観光福祉との対比から、観光地域福祉の考え方を理解する	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
第 7 回	地域活性化の柱としての観光	「地域」と「観光」の関わりとその現状、課題、展望について、「地域活性化」という視点から考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
第 8 回	さまざまな生きづらさと向き合う地域福祉	「地域」と「福祉」の関わりとその現状、課題、展望について、「生きづらさの解消」という視点から考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
第 9 回	内発的発展論から考える地域のこれから	地域における観光と福祉を結びつける「内発的発展」の考え方を理解し、目指すべき地域の在り方について考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
第 10 回	観光と福祉の同質性と異質性、実践への示唆	観光と福祉の共通点と相違点について考察し、それら観光地域福祉の実践にどのような影響を与えるかを検討する	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
第 11 回	観光地域福祉の担い手：専門職から地域住民へ	地域における観光と福祉の担い手について、専門職のみならず地域住民を含めて捉え直す	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
第 12 回	観光地域福祉の実践について考える①	グループワークを通じて特定地域における観光地域福祉の在り方をデザインする	事前：ワークの準備 事後：ワークの準備
第 13 回	観光地域福祉の実践について考える②	グループワークを通じて特定地域における観光地域福祉の在り方をデザインする	事前：ワークの準備 事後：ワークの準備
第 14 回	観光地域福祉の実践について考える③	グループワークの成果を共有する（ポスターセッション）	事前：ワークの準備 事後：講義の振り返り
第 15 回	観光地域福祉の概念とその可能性	本授業の内容を振り返るとともに、領域横断的視座から地域社会のこれからについて考える	事前：テーマに関する予習 事後：講義の振り返り
定期試験は実施しない			

〔評価方法（基準）〕

期末レポート（40％）とワーク成果物（15％）、毎回の小レポート（45％）で評価し、60％以上で合格とする。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	観光福祉論	川村匡由、立岡浩	ミネルヴァ書房
参考書	コレクション鶴見和子曼荼羅IX 環の巻 内発 的発展論によるパラダイム転換	鶴見和子	藤原書店

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
人文地理学	2 年次・前期	2 単位 (必修)	小林 基 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。）		

〔授業概要・目的〕

この授業では人文地理学という学問分野の基礎知識について学びます。人文地理学は、空間・地域・環境といった視点から、私たち人類が住む世界の成り立ちを理解し、説明しようとする学問です。様々な学問分野の間の境界領域に位置し、研究対象も方法も多岐にわたっているという特徴を持ちます。本講義では、こうした人文地理学の基本的な見方、考え方を身につけることを目的とします。

〔到達目標〕

- ・人文地理学の基本となる考え方について説明できること。
- ・特定の問題について人文地理学的な視点から捉えることができること。

〔授業方法〕

- ・主に ①人文地理学がカバーする諸領域、②現代社会を理解するうえで重要と考えられる理論・学説、③人文地理学の歴史と現代的諸課題について講義します。
- ・学生の皆さんには、理解度を問うための小課題（理解度チェック）とレポートに取り組んでももらいます。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	人文地理学とはどのような学問か？	この授業の概要を理解し、人文地理学という分野の範囲と見方の特徴について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 2 回	地図の発達史：古代から現代まで	古代から現代にいたる地図の歴史、地図の製作・利用等について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 3 回	自然環境と人類	自然環境と人類との関係を捉える視点について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 4 回	人口動態を捉える	人口の増減や人口移動のメカニズムについて学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 5 回	家族形態の地域的多様性	家族が地域的に多様であり、歴史的にも変動してきたことを学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 6 回	日本の農村と社会	日本の農村とその社会について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 7 回	都市空間の発達と構造	都市の発達と構造をとらえる視点について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 8 回	産業からみた都市の変遷	産業の変化に伴い、都市がどのように変遷してきたかを学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 9 回	国際貿易の発達	国際貿易の発達過程とその理由、そしてリスクについて理解します。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 10 回	農と食をめぐる諸問題	世界の農業および食料供給の多様性と課題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 11 回	人口減少と日本の地域課題	人口減少、経済停滞期において日本の諸地域が抱える問題について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 12 回	ツーリズムの発達	地域・空間の視点から観光を捉えるための方法やその成果について学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 13 回	疫病の空間的拡散	疫病の空間的拡散パターンに関する研究を学びます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 14 回	モビリティを考える	モビリティについての地理学的研究について解説します。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 15 回	今後の社会を考える：地理学の活用	授業の総括と、今後の社会を考えるうえで必要な視点について考えます。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
定期試験は実施しない			

[評価方法（基準）]

レポート 70%、小テストおよび授業に関するコメント 30%

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	なし		
参考書	現代人文地理学	佐藤廉也・宮澤仁編	放送大学教育振興会

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
地誌学	2 年次・後期	2 単位 (必修)	小林 基 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。）		

〔授業概要・目的〕

地誌学は地域に所在するさまざまな事象とその特質について記述し、比較検討を行う学問分野である。本講義では、世界各地の自然環境、歴史、政治、経済、文化、そして地域間交流について俯瞰的・総合的に学ぶことを目的とする。

〔到達目標〕

世界の各地域の地域的特質について統計や文献情報をもとに理解し、説明することができる。

〔授業方法〕

担当教員の講義を聴いたうえで、講義内容を復習し、理解度を問うための小課題（理解度チェック）とレポートに取り組む。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	地 誌 学 と は 何 か	地誌学の位置づけや定義、成り立ちについて学ぶ。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 2 回	中国・台湾	中国・台湾の自然環境・歴史・政治・経済・文化を学ぶ。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 3 回	朝鮮半島	朝鮮半島の自然環境・歴史・政治・経済・文化を学ぶ。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 4 回	東南アジア	東南アジア諸地域の自然環境・歴史・政治・経済・文化を学ぶ。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 5 回	北東アジア	北東アジア諸地域の自然環境・歴史・政治・経済・文化を学ぶ。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 6 回	南アジア	南アジア諸地域の自然環境・歴史・政治・経済・文化を学ぶ。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 7 回	ロシア・中央アジア	ロシア・中央アジア諸地域の自然環境・歴史・政治・経済・文化を学ぶ。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 8 回	西アジア・北アフリカ	西アジア・北アフリカ諸地域の自然環境・歴史・政治・経済・文化を学ぶ。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 9 回	ヨーロッパ北部	ヨーロッパ北部の自然環境・歴史・政治・経済・文化を学ぶ。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 10 回	ヨーロッパ南部	ヨーロッパ南部の自然環境・歴史・政治・経済・文化を学ぶ。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 11 回	アフリカ	アフリカ諸地域の自然環境・歴史・政治・経済・文化を学ぶ。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 12 回	オセアニア	オセアニア諸地域の自然環境・歴史・政治・経済・文化を学ぶ。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 13 回	北アメリカ	北アメリカ諸地域の自然環境・歴史・政治・経済・文化を学ぶ。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 14 回	南アメリカ	南アメリカ諸地域の自然環境・歴史・政治・経済・文化を学ぶ。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
第 15 回	世界の中の日本	世界の中の日本の特質と世界各地との関係性を学ぶ。	授業後に講義資料やノートを見直し、内容について復習すること（2 時間）。
定期試験は実施しない			

〔評価方法（基準）〕

レポート 70%、小テストおよび授業に関するコメント 30%

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	なし		
参考書	『地誌学概論 （第 2 版）』	矢ヶ崎 典隆・加賀美 雅弘・牛垣 雄矢	朝倉書店

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
自然地理学	2 年次・後期	2 単位 (必修)	手代木功基 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・地理学（地誌を含む。）		

[授業概要・目的]

プレート運動や気候といった地球システム、景観の形成要因やその形成過程といった内容を扱い、自然現象を様々な時間・空間スケールに位置づけて理解する基礎を身につける。また、講義では地形や気候といった領域ごとの分析的研究にとどまらない、俯瞰的な研究の重要性を紹介していく。

自然地理学は、頻発する自然災害や地球規模の課題となっている環境問題を理解する上で重要であり、本授業を通して将来にわたって活用できる知識を身につけていくことを期待する。

[到達目標]

日本・世界各地の自然環境の実態とそのシステムを学ぶことを通して、自然環境の見方の基礎力を養い、日常で目にする自然景観の形成要因や災害の発生、環境問題等について論理的・総合的に理解できるようになることを目標とする。

[授業方法]

講義を中心とするが、ディスカッションやグループワーク等を実施する時間を設ける場合がある。また、講義時間内に質疑応答時間を設ける他、授業内で課された課題(小テスト等)に対しては解説を行う。

[授業計画]

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、評価方法等について説明（方法は第 1 回から 15 回まで講義を中心とするが、ディスカッションやグループワーク等を実施する時間を設ける場合がある）	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
第 2 回	日本の自然を知る 1	プレートテクトニクスと日本列島の形成	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
第 3 回	日本の自然を知る 2	地震のメカニズム	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
第 4 回	日本の自然を知る 3	地震災害	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
第 5 回	日本の自然を知る 4	火山と日本列島	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
第 6 回	多様な日本の自然 1	気候環境	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
第 7 回	多様な日本の自然 2	植生・水文	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。

第 8 回	多様な日本の自然 3	山地の隆起と侵食	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
第 9 回	多様な日本の自然 4	河川と平野・海岸	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
第 10 回	多様な日本の自然 5	大阪の自然・関西の自然	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
第 11 回	世界の自然を知る 1	熱帯から極地	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
第 12 回	世界の自然を知る 2	砂漠や高山	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
第 13 回	世界の自然を知る 3	自然と人々の暮らしの関係性	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
第 14 回	環境と私たち	地球温暖化や砂漠化	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
第 15 回	まとめ	授業全体のまとめ	事前・事後：身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。 事後：授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

毎回の講義で提出してもらったリアクションペーパーもしくは小レポートの内容（40％）と、期末に実施する試験（60％）で評価する。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	特に指定しない		
参考書	授業中にテーマに合わせて適宜紹介する		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
政治文化の社会学	3 年次・後期	2 単位 (選択)	藤井 和佐 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		

〔授業概要・目的〕

選挙は、地域住民のつながり方を如実に示す。とくに地方議会議員選挙では、それを実感することもあるだろう。誰もが賛成しそうな内容の公約やマニフェストを掲げていても落選する候補者もいれば、議場で居眠りをしている姿が度々映しだされても当選する候補者もいる。何故だろうか。その背景にあるのが政治文化である。日本のジェンダーギャップ指数の低さも、その現われであると捉えることもできる。政治文化を捉えることによって、日本社会の在り方と未来について考えていく。政治文化を捉えるには、さまざまな方法論がある。その方法論とこれまでの政治文化論を手がかりに、現代日本における地域社会の担い手の今後を具体的に模索する。

〔到達目標〕

- ① 抽象的概念と適切な具体的事例との往復的思考ができる。
- ② 政治が身近な自分ごとであることを理解する。
- ③ 具体的な政治事象を政治文化の枠組みで説明することができる。
- ④ 政治をめぐる諸問題について理論で考えることができる・理論を考えることができる。

〔授業方法〕

資料（Moodle で事前配付）、パワーポイント（要点の提示）、板書を用いる。授業は、事前配付資料内の問いについて考えてくる事前学習、事前学習内容に関する教員側からの問いとそれに対する学生の発言内容を深める形での対話型講義、授業テーマに関する問いを考える事後学習で成り立つ。テーマの切れ目ごとに、授業内容の理解を深めるためのグループワークを実施する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	1 政治と文化	・ガイダンス：授業内容、成績評価の方法、教科書の使い方、事前・事後学習課題について ・講義キーワード：政治、文化、慣習、価値観、社会化	事前：シラバスの確認 事後：授業テーマに関する問いの検討
第 2 回	2.1 アメリカの政治文化論	講義キーワード：政治体系、民主主義、価値指向、文化遅滞、文化変容	事前：事前配付資料内の問いの答えを考えてくる 事後：授業テーマに関する問いの検討
第 3 回	2.2 日本の政治文化論	講義キーワード：イエ型、ムラ型、市民型、選挙、政治的無関心	事前：事前配付資料内の問いの答えを考えてくる 事後：授業テーマに関する問いの検討
第 4 回	2.3 地域権力構造論	講義キーワード：コミュニティ、権力の行使、影響力、リーダーシップ、イシュー領域、支配構造	事前：事前配付資料内の問いの答えを考えてくる 事後：授業テーマに関する問いの検討
第 5 回	2.4 公共性論	講義キーワード：市民的公共性、私的領域・公的領域、公共空間、オオヤケ、公・共・私、共同体、親密圏、公共圏、運動	事前：事前配付資料内の問いの答えを考えてくる 事後：授業テーマに関する問いの検討
第 6 回	2.5 理論を使う①	・グループワーク：第 1 回～第 5 回で学んだ理論を使って、これまでの問いをふまえた包括的な問いについて根拠をもって仮説を考える ・発表 ・フィードバックコメント	事前：指示された問いに関する根拠データの探索 事後：さらなる問いの導出と根拠資料の探索
第 7 回	2.6 理論を使う②	・グループワーク：前回のグループワークとフィードバックコメント、事後課題をふまえた深めた問いについて根拠をもって仮説を考える ・発表 ・フィードバックコメント	事前：指示された問いに関する根拠データの探索 事後：さらなる問いの導出と根拠資料の探索
第 8 回	3.1 集票ネットワーク	講義キーワード：地域政治文化、地区推薦、政党推薦、無所属、利益誘導、メディア、SNS	事前：事前配付資料内の問いの答えを考えてくる 事後：授業テーマに関する問いの検討
第 9 回	3.2 投票行動	講義キーワード：世代、保守、革新、政治意識、政治的有効性感覚	事前：事前配付資料内の問いの答えを考えてくる 事後：授業テーマに関する問いの検討

第10回	3.3 議会議員選挙への立候補と公約①	・グループワーク：第8回～第9回の講義内容をふまえ、寝屋川市議会議員に立候補することを想定し、寝屋川市の政治文化を探る ・発表 ・フィードバックコメント	事前：寝屋川市の情報収集 事後：さらなる問いの導出と根拠資料の探索
第11回	3.4 議会議員選挙への立候補と公約②	・グループワーク：前回のグループワークとフィードバックコメント、事後課題をふまえて当選戦略・公約・マニフェストを練る ・発表 ・フィードバックコメント	事前：指示された問いに関する根拠データの探索 事後：さらなる問いの導出と根拠資料の探索
第12回	4.1 男女共同参画	講義キーワード：ジェンダー、ジェンダーギャップ指数、ジェンダー平等、ポジティブアクション、クオータ制	事前：事前配付資料内の問いの答えを考える 事後：授業テーマに関する問いの検討
第13回	4.2 リーダー・リクルートメントルート	講義キーワード：先進地域事例、農業委員会、経営参画、農業女子、ネットワーク、つながり、政治学習、キャリア形成	事前：事前配付資料内の問いの答えを考える 事後：授業テーマに関する問いの検討
第14回	4.3 女性の政治参画①	・グループワーク：第12回～第13回の講義内容をふまえ、女性が政治リーダーになるルートを創造する ・発表 ・フィードバックコメント	事前：指示された問いに関する根拠データの探索 事後：さらなる問いの導出と根拠資料の探索
第15回	4.4 女性の政治参画②	・グループワーク：前回のグループワークとフィードバックコメント、事後課題をふまえて女性が政治リーダーになる具体的ルートをさらに考える ・発表 ・フィードバックコメント	事前：指示された問いに関する根拠データの探索 事後：包括的問いの導出と根拠資料の探索
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

発言内容、グループワーク貢献度（25％）と課題への取り組み状況（25％）、定期試験（50％）で評価し、60％以上で合格とする。

〔教材〕

教材の区分	書名	著者名	出版社名
教科書	講義内容に関する資料を配付		
参考書	授業中に指示する		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
司法・犯罪心理学	3 年次・前期	2 単位 (選択)	田中 晶子 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		

〔授業概要・目的〕

犯罪や非行の問題・法律上の争いに心理学はどのように関わっているのだろうか。本授業では、犯罪の原因分析や、捜査への心理学の活用、非行少年・犯罪者への処遇の在り方、犯罪被害者への支援、虐待や離婚・子どもの親権にまつわる問題などについて、法学・犯罪学・教育学や社会福祉学など関連する領域との関わりも踏まえて概説する。本授業を履修することにより、司法・犯罪心理学の領域で扱われる事象についての基本的知識を得ること、実践における取り組みや課題とされている事柄について多面的に理解することを目指す。

〔到達目標〕

- ① 司法・犯罪心理学の基礎的知識を理解することができる。
- ② 司法・犯罪心理学の領域での実践における取り組みや課題とされている事柄を、多様な視点から発見し、解決策を提案できる。
- ③ 現代社会におけるさまざまな現象に対する心理学の応用的な活用法について自ら情報を得ることができる。

〔授業方法〕

配付資料、パワーポイントによって行う。授業内容の理解を深めるため、適宜受講生が相互に考えや意見を共有できる機会を持つ。また、理解の定着を促すため、ミニクイズや小テストを実施する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	司法・犯罪心理学とは何か	ガイダンスと授業計画・授業方法、評価基準の説明、司法・犯罪心理学の概要	事前：シラバスの確認 事後：授業内容の確認
第 2 回	犯罪・非行の実態	犯罪・非行とは何か、国内における犯罪・非行の現状	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 3 回	司法制度と刑事政策	国内の司法制度と刑事政策についての概説	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 4 回	捜査機関と心理学	捜査機関（警察・検察）における心理学の活用	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 5 回	捜査と心理学①ポリグラフ	ポリグラフ検査の概要	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 6 回	捜査と心理学②プロファイリング	プロファイリングの概要	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 7 回	児童福祉と心理学	児童虐待、少年非行、児童相談所、児童福祉施設の役割と心理学	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 8 回	聴取法①被害者・目撃者	心理学を活用した被害者や目撃者への聴取法の概要	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 9 回	聴取法②被疑者取調べ	心理学を活用した被疑者取調べの概要	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 10 回	犯罪・非行の原因論と予防	犯罪・非行の原因理論とそれらを踏まえた予防	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 11 回	裁判と心理学	刑事裁判における心理学の活用	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 12 回	家庭裁判所と心理学	家庭裁判所における心理学の活用	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 13 回	犯罪被害者支援	犯罪被害者支援の概要	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 14 回	加害者臨床	矯正と更生保護、加害者臨床の概要	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 15 回	まとめ	授業のまとめ	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
定期試験は実施しない			

〔評価方法（基準）〕

授業時のミニクイズ（45%）と複数回の小テスト（55%）で評価し、60%以上で合格とする。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	司法・犯罪心理学 社会と個人の安全と共生をめざす	門本泉	ミネルヴァ書房

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
法学入門	1 年次・前期	2 単位 (必修)	小野 晃正 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		

〔授業概要・目的〕

法は、多様な人々が共同生活を営むための相互尊重のルールであり、我々の生活を豊かにするための制度である。
このような法の特色と目的を踏まえつつ、現代社会の中で生じている紛争に対して、法がどのような役割を果たし、また、いかに
争いごとを公平に解決していくかについて、個別の法領域ごとに具体的な事件を参照しながら理解することを主な目標とする。

〔到達目標〕

この授業を通じて学生には、
①「法」と「道徳＝倫理」の違いについて説明できる
②公法、私法、刑事法および国際法の諸原理ないし法適用の要件とその効果について説明することができる
ことが期待される。

〔授業方法〕

講義形式で行う。
教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。
資料配布や形成的評価のために行う毎回の課題提出と評価などは Microsoft 社 teams や Microsoft forms などの ICT ツールを通じて
行う。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	法と何か	法の意義、法とは何か、法とその他の規範の違いについて	事前：教科書第 1 章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第 1 章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
第 2 回	憲法概論	近現代憲法における立憲主義、三権分立、国民主権の原理について	事前：教科書第 4 章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第 4 章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
第 3 回	民事法概論①	民法（財産法）の一般原則および概要について	事前：教科書第 11 章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第 11 章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
第 4 回	民事法概論②	民法（家族法）の一般原則および概要について	事前：教科書第 13 章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第 13 章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
第 5 回	民事法概論③	民法（不法行為法）および民事手続法の概要について	事前：教科書第 16 章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第 16 章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
第 6 回	商事法概論	会社法の仕組みと概要について	事前：教科書第 12 章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第 12 章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
第 7 回	刑事法概論①	刑法（刑法総論）の概要について	事前：教科書第 14 章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第 14 章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
第 8 回	刑事法概論②	刑法（刑法各論）の概要について	事前：教科書第 14 章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第 14 章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
第 9 回	刑事法概論③	刑事手続法および刑事政策の概要について	事前：教科書第 8 章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第 8 章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
第 10 回	社会法概論①	労働法の概要について	事前：教科書第 15 章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第 15 章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
第 11 回	社会法概論②	社会保障法の概要について	事前：教科書第 17 章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第 17 章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）

第 12 回	消費者法概論	消費トラブルと法によるセーフティーネットについて	事前：教科書第 12 章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第 12 章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
第 13 回	医事法概論	医歯薬におけるトラブルとその救済手段について	事前：教科書第 18 章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第 18 章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
第 14 回	情報法概論	情報および知的財産の保護とその態様について	事前：教科書第 19 章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第 19 章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
第 15 回	国際法概論	国際公法と国際私法の概要について	事前：教科書第 20 章をあらかじめ読むこと（2 時間） 事後：第 20 章を見直し、章末問題を解くこと（2 時間）
定期試験は実施しない。			

[評価方法（基準）]

形成的評価を行うため、毎回課題を提出し、下記基準を用いてその回答内容を採点したうえで、合算した得点を評価対象とする（100%）。

- ・テキストおよび講義内容を整理して課題について正面から論述しているか。
- ・自らが理解した内容について、わかりやすい表現でまとめているか。
- ・問いに無関係な内容で字数を稼いでいないか。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	エッセンシャル法学 第 7 版	大谷 實 ほか	成文堂
参考書	新入生のためのリーガル・トピック 50	阿部 昌樹 ほか	法律文化社

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
日本の政治	2 年次・前期	2 単位 (選択(中学校)) (必修(高等学校))	増田知也 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		

〔授業概要・目的〕

政治の主要な領域としては、①予算の決定・執行という配分に関わる領域と、②法の制定・施行という立法に関わる領域の二つがあります。これら二つの領域は、紀元前の政治学者アリストテレスの正義の区分に由来するものです。アリストテレスは、配分的正義・矯正的正義という二つの正義を実現するために政治活動は行われなければならないと考えました。現代の日本の政治でも、配分的正義を実現するために予算の決定・執行を行い、矯正的正義を実現するために法の制定・執行を行っていることには変わりはありません。主権者である私たちは、デモクラシーに参加すべき市民の一人として、また法の下での平等のもとに一票を与えられた有権者の一人として、こうした正義を実現してより良い日本を創造するために政治に関与し続けねばなりません。しかし主権者である私たちが一市民・一有権者として正しい政治的選択を行うためには、日本の政治の仕組みや歴史について基本的な知識・教養をあらかじめ知っておくことが必要不可欠です。したがってこの授業では、政治学原論、日本の政治体制論、日本政治史にあたる内容を授業します。また時間があれば、学生の皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治・社会に関わる時事問題についても紹介し、解説します。

〔到達目標〕

この授業を通じて学生の皆さんは、日本の政治の仕組み・歴史について基本的な知識・教養を獲得することができます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい政治的配分や法とは何かを思考することができ、②支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の政治的意見を正しく表現することができます。

〔授業方法〕

レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーにある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	イントロダクションー政治とは何か？	イントロダクションとして、本講義の内容と政治―国家の必要性について授業します。	事前学習：政治・政治学について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30 分）。
第 2 回	政治と権力①政治の条件とは何か？	身近な日常生活で現れる政治について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
第 3 回	政治と権力②正当な権力とは何か？	マックス・ウェーバーの権力観を理解し、政治・経済における近代性について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
第 4 回	日本の政治システム①民主主義（デモクラシー）	日本の政治が現在採用している民主主義（デモクラシー）について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第十八章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
第 5 回	日本の政治システム②選挙制度と国会	日本の選挙制度や国会について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第二十二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。

第 6 回	日本の政治システム③内閣	日本の内閣と今世紀の行政改革について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第十一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
第 7 回	戦前の日本の政治システム	戦前の日本の政治システムについて授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第七回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
第 8 回	戦後の日本政治①GHQ 占領下の日本政治	戦後の GHQ 占領下である 1940 年代後半の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第八回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
第 9 回	戦後の日本政治②サンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約、55 年体制の成立	日本独立期である 1950 年代の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第九回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
第 10 回	戦後の日本政治③日米安保闘争、高度経済成長、沖縄返還	安保闘争から高度経済成長へと入っていく 1960 年代の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
第 11 回	戦後の日本政治④自民党の派閥の興隆	自民党の中で田中派支配が行われていた 1970 年代、80 年代の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十一回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
第 12 回	戦後の日本政治⑤政治改革と 55 年体制の終焉	日本で政治改革が吹き荒れた 1980 年代末から 1990 年代前半にかけての日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十二回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
第 13 回	戦後の日本政治⑥自民党を中心とした連立政権の展開	自民党が連立政権を組むようになった 1990 年代の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十三回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
第 14 回	戦後の日本政治⑦小泉劇場	新自由主義の傾向が強くなった 2000 年代前半の日本政治について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第十四回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。

第 15 回	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す（時間の許す限り）。
定期試験			

[評価方法（基準）]

定期試験（約 70％）と小テスト（約 30％）で評価します。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	『政治学』	久米郁男・川出良枝ほか	有斐閣
参考書	『18 歳から考える日本の政治』	五十嵐 仁	法律文化社

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
世界の政治	2 年次・後期	2 単位 (選択(中学校)) (必修(高等学校))	和田 泰一 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「法律学、政治学」 ・「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		

〔授業概要・目的〕

世界の政治の主要な考え方としては、リアリズム（現実主義）とアイデアリズム（理想主義）という二つの対照的な考え方がよく知られています。基本的に前者は、国際関係を国家が合理的に権力を行使する場と考えており、後者は、国際関係を国家内の理性的な法秩序が拡大された場と考えています。また前者は、ときに戦争に訴えつつ、国家は物理的な力の行使・圧力によって財・利益の独占を図りがちであると、後者は、戦争を回避しつつ、国家は正しい国際法・国際秩序によって財・利益の公正な配分を行いがちであると考えています。

現代の世界の政治でも、リアリズムとアイデアリズムという二つの考え方は、例えば日本でも「対話と圧力」という言葉が用いられたように、国家という政治的アクターが活動する際の行動指針となっています。国家の主権者である私たちは、戦争という最悪の事態を避けつつも、国際法・国際秩序の理性的な枠組みのなかで、自国の財・利益を最大化しうるような政権を選ばねばなりません。

主権者である私たちが正しい外交選択を行いうる政権を選出するためには、世界の政治の仕組みや歴史について基本的な知識・教養をあらかじめ知っておくことが必要不可欠です。したがってこの授業では、国際政治、日本外交史にあたる内容だけでなく、西洋政治思想史において国家観やアイデアリズム・リベラリズムの思想的基礎に関わる部分も授業します。また時間があれば、学生の皆さんが最近のニュースを理解できるように、政治・社会に関わる時事問題についても紹介し、解説します。

〔到達目標〕

この授業を通じて学生の皆さんは、世界の政治の仕組み・歴史、日本外交の歴史と現状、西洋政治思想史について基本的な知識・教養を獲得することができます。またそうした知識・教養に基づき、実際の政治活動において①正しい国際関係とは何かを思考することができ、②外交・政治思想の観点から支持すべきより正しい政治的アクターや政策・法を判断することができ、③投票など政治活動を通じて自分の対外的意見を正しく表現することができます。

〔授業方法〕

レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、ある政治問題について自問自答・議論した上で自分の意見を論理的に書いてもらったり、小テストに答えてもらったりすることもあります。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	イントロダクションー国際政治とは何か？	イントロダクションとして、講義の内容と国際政治の基本的な考え方について授業します。	事前学習：今まで勉強してきた歴史の教科書などを再読し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
第 2 回	国際政治の歴史①主権国家の形成とアイデアリズム	主権国家の誕生から平和的な超国家機構の構築に至る国際関係の歴史をアイデアリズムの観点から授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（『国際政治学』第二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
第 3 回	国際政治の歴史②冷戦の勃発	第二次世界大戦後の冷戦の構造と歴史について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（『国際政治学』第二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。
第 4 回	対外政策ーリアリズムの諸理論	モーゲンソーの理論を中心に、対外政策をリアリズムの観点から授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（『国際政治学』第三章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30 分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30 分）。

第 5 回	日本外交の歴史①日米安全保障条約と冷戦下の日本外交	日米安全保障条約や新日米安全保障条約の内容、冷戦下の日本外交について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（『国際政治学』第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
第 6 回	日本外交の歴史②冷戦の終結と湾岸戦争	冷戦の終結と湾岸戦争の勃発によって日本外交がいかなる転換を求められたのかについて授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（『国際政治学』第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
第 7 回	日本外交の歴史③今世紀の日本外交	米国同時多発テロ、アフガニスタン戦争、イラク戦争、安全保障関連法によって生じた日本外交の転換について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（『国際政治学』第五章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
第 8 回	国家観の歴史的起源—プラトン、アリストテレス	国際政治で前提にしている国家という政治的アクターについて考えるため、国家観の起源について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所（第八回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
第 9 回	国家理性とリアリズム—マキアヴェッリ	マキアヴェッリ『君主論』を中心に、国際政治のリアリズムの起源としての国家理性の理論について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（『政治思想の知恵』第一章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
第 10 回	戦争状態と国家—ホッブズ	ホッブズ『リヴァイアサン』を中心に、国内外の戦争状態と主権国家の理論について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（『政治思想の知恵』第二章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
第 11 回	民主的な国家観—ロック・ルソー	ロック『統治二論』、ルソー『社会契約論』を中心に、民主的な国家観について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（『政治思想の知恵』第三章・第四章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
第 12 回	イデオロギズムの起源—カント	カント『永遠平和のために』を中心に、国際政治のイデオロギズムの起源としてのカントの道德観・国際秩序観について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（『政治思想の知恵』第六章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
第 13 回	リベラルな個人・国家観の誕生—ミル	ミル『自由論』を中心に、国際政治のリベラルな個人・国家観について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所（第八章）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。
第 14 回	今世紀の新しい国際秩序—ネグリ・ハート	ネグリ・ハート『帝国』を中心に、冷戦終結後の国際秩序について授業します。	事前学習：事前配布したレジュメの該当箇所を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、小テストを解く（30分）。

第 15 回	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく（30分）。 事後学習：試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す（時間の許す限り）。
定期試験は実施しない			

[評価方法（基準）]
レポート（70％）と小テスト（30％）で評価します。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	国際政治学	中西寛他	有斐閣
教科書	政治思想の知恵	仲正昌樹編	法律文化社

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
現代社会学入門	1 年次・前期	2 単位 (必修)	岩井八郎、檜田美雄、平山洋介、 藤井和佐、堀田裕子、好井裕明、 落合知子、小池高史、竹中祐二、 山本圭三（担当形態：オムニバス）
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

【授業概要・目的】

本授業は、受講生が「自分の日常の出来事が社会学での話題に結びついていること」「社会学での重要タームが日常のさまざまな場面を説明できること」などについての「気づき」を体験する、ということを基本コンセプトにする。「知識を定着させる」ことを主眼とする高校までの社会科とは異なり、社会学では知識や視点を得た後それを他の場面に応用したり、知識を活かして未知の現象を解明したりすることに 1 つの主眼がある。そのため、上記のような「気づき」は社会学の面白さそのものでもあり、社会学的な営為を進める原動力にもなり得るものとなるのである。授業では「日常と他者」「教育と逸脱」「都市生活と移動」「エイジングと地域」といったテーマに沿って、われわれの生活のさまざまな側面をオムニバスの取り扱う。授業の中では教員からの話題提供の後、ディスカッションや報告などを含めた多様なアクティブ・ラーニング形式を取り入れたかたちで学びを進める。こうした作業を通して、受講生が多方面にわたるテーマについて上記のような「気づき」を得て、後の 4 年間の学びに向けた基本姿勢を確立することが、本授業の狙いである。

【到達目標】

- ① 社会学での議論が、自分たちの身近な問題をも説明できることがあると分かる。
- ② 身近な出来事が、社会学における問題に結びついていることに気づく。
- ③ 社会のさまざまな現象について、多様に考えることの意義を理解する。
- ④ 社会学における基本的な概念を理解し、具体的に当てはめて説明することができる。

【授業方法】

教員による講義の形式とともに、ディスカッションやグループワークなど、社会学的なアクティブシンキングが受講生ごとに達成されるよう多様な方法を実施する。

【授業計画】

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	担当者
第 1 回	イントロダクション	講義の目的と授業の方針、担当者の紹介	事後:授業資料をもとに内容を学習	檜田、山本、
第 2 回	日常と他者 1	・日常性に関する話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前:事前配付資料を読んでおく 事後:授業資料をもとに内容を学習	檜田、堀田、好井
第 3 回	日常と他者 2	・他者性に関する話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前:事前配付資料を読んでおく 事後:授業資料をもとに内容を学習	檜田、堀田、好井
第 4 回	日常と他者 3	・相互性に関する話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前:事前配付資料を読んでおく 事後:授業資料をもとに内容を学習	檜田、堀田、好井
第 5 回	日常と他者 4	まとめのディスカッションとアウトプット	事前:アウトプット案を作成 事後:授業資料をもとに内容を学習	檜田、堀田、好井、
第 6 回	教育と逸脱 1	・教育に関する話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前:事前配付資料を読んでおく 事後:授業資料をもとに内容を学習	岩井、竹中、山本
第 7 回	教育と逸脱 2	・逸脱行動に関する話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前:事前配付資料を読んでおく 事後:授業資料をもとに内容を学習	岩井、竹中、山本
第 8 回	教育と逸脱 3	まとめのディスカッションとアウトプット	事前:アウトプット案を作成 事後:授業資料をもとに内容を学習	岩井、竹中、山本
第 9 回	都市生活と移動 1	・都市生活に関する話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前:事前配付資料を読んでおく 事後:授業資料をもとに内容を学習	平山、落合、山本
第 10 回	都市生活と移動 2	・移動・定住に関する話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前:事前配付資料を読んでおく 事後:授業資料をもとに内容を学習	平山、落合、山本
第 11 回	都市生活と移動 3	まとめのディスカッションとアウトプット	事前:アウトプット案を作成 事後:授業資料をもとに内容を学習	平山、落合、山本
第 12 回	エイジングと地域 1	・エイジングに関する話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前:事前配付資料を読んでおく 事後:授業資料をもとに内容を学習	檜田、藤井、小池
第 13 回	エイジングと地域 2	・地域社会に関する話題提供 ・話題に即した受講生相互のディスカッション	事前:事前配付資料を読んでおく 事後:授業資料をもとに内容を学習	檜田、藤井、小池
第 14 回	エイジングと地域 3	ディスカッションのまとめとアウトプット	事前:アウトプット案を作成 事後:授業資料をもとに内容を学習	檜田、藤井、小池
第 15 回	まとめ	講義のまとめ・今後に向けて	事前:事前配付資料を読んでおく 事後:授業資料をもとに内容を学習	檜田、山本

定期試験は実施しない

〔評価方法（基準）〕

授業中のアウトプット（20％）と期末課題（80％）で評価し、60％以上で合格とする。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	『「今、ここ」から考える社会学』(820 円＋税)	好井 裕明	筑摩書房
参考書	別途、指示する		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
現代社会の諸問題	1 年次・前期	2 単位 (選択)	浅野慎一、稲生勝、後和美朝、 須藤遙子、田中晶子、竹端佑介、 松本恭幸、上野山裕士、江口怜、 谷めぐみ (担当形態：オムニバス)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目 (中学校 社会、高等学校 公民)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学 (国際経済を含む。)」		

【授業概要・目的】

現代社会は、さまざまな解決すべき諸問題に直面している。本授業ではこれを、①グローバル (地球的) で、しかも同時にローカル (地域的) に立ち現れている諸問題 (自然環境と先端科学技術、平和・戦争とメディア、地域と生活・福祉など)、②大学生にとって身近な生活上の諸問題 (学校と教育、家族と心理、コミュニティと情報など)、そして③一人ひとりの人間の身体や心と社会をつなぐ諸問題 (健康と保健・衛生、生活とスポーツ、心身とコミュニケーション) という 3 つの領域で考察する。現代社会におけるさまざまな諸問題に関する基礎知識を学ぶとともに、社会の構造やその変動、および個々人の日常生活における解決課題を相互に関連させて捉える「社会学的想像力」を身に付ける。

【到達目標】

- ① 現代社会が直面している諸問題についての基礎知識を得ることができる。
- ② 現代社会の構造的な諸問題を、個々人の日常生活のレベルに降りた「自分ごと」として認識できる。
- ③ 個々人の日常生活・身体・心理に生起する諸問題を、現代社会の構造や変動と関連させて認識することができる。
- ④ これらの基礎知識や認識を、今後の社会の主体的創造・再編について考えるために応用できるようになる。

【授業方法】

授業の一部は教員による講義の形式とするが、受講生どうしのディスカッション、およびプレゼンテーションが授業の中心となる。基本は対面授業だが、シンポジウム・コロキウムなどは分科会方式を取り、対面とリアルタイム・オンラインのハイブリッドとする。

【授業計画】

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	担当者
第 1 回	I . 現代社会の諸問題 ①はじめに	授業の目的・到達目標・方法、および現代社会の諸問題についての基本的な認識・概念について説明し、学生のコメントを素材にディスカッションを行う	事前: シラバスの理解、配付資料に基づく予習、コメント提出 事後: 授業資料に基づく復習	浅野
第 2 回	I . 現代社会の諸問題 ②キックオフ・シンポジウム	現代社会の諸問題に関する学生のプレゼンテーション、ディスカッションを行う	事前: 配付資料に基づく予習、コメント提出 事後: 授業資料に基づく復習	浅野、稲生、 後和、須藤、 田中、竹端、 松本、上野山、 江口、谷、
第 3 回	II . グローカルな現代社会の諸問題 ①自然環境と先端科学技術	深刻さを増す気候危機について、諸科学 (自然科学、社会科学、技術学など) からの指摘を紹介した上で、社会や行動のあるべき姿を考える	事前: 配付資料に基づく予習、コメント提出 事後: 授業資料に基づく復習	稲生
第 4 回	II . グローカルな現代社会の諸問題 ②戦争とメディア	戦争時のメディア報道は、戦争の在り方・行方・世論に大きな影響をもたらす。本講では、戦争での SNS を含むメディアの役割や影響について考察する	事前: 配付資料に基づく予習、コメント提出 事後: 授業資料に基づく復習	須藤
第 5 回	II . グローカルな現代社会の諸問題 ③地域と生活・福祉	地域には、価値観と境遇の多様化に起因するさまざまな「生きづらさ」が存在する。これを社会で解消していくための方法、一人ひとりができることを、地域福祉の観点から考える	事前: 配付資料に基づく予習、コメント提出 事後: 授業資料に基づく復習	上野山
第 6 回	II . グローカルな現代社会の諸問題 ④コロキウム	グローカルな現代社会の諸問題に関する学生のプレゼンテーション・ディスカッションを行う	事前: 配付資料に基づく予習、コメント提出 事後: 授業資料に基づく復習	浅野、稲生、 須藤、上野山
第 7 回	III . 身近な現代社会の諸問題 ①学校と教育	近代の学校システムは今、さまざまな課題を抱えており、学校批判や学校改革がさまざまに議論されている。本講では「学校」とはそもそも何かを歴史的に振り返りながら、現在の「学校」をどのように考えればよいかを議論する	事前: 配付資料に基づく予習、コメント提出 事後: 授業資料に基づく復習	江口
第 8 回	III . 身近な現代社会の諸問題 ②家族と心理	家族という集団の特徴、家族に関する事項、家族を通して浮かび上がる諸問題を心理学の視点から考える	事前: 配付資料に基づく予習、コメント提出 事後: 授業資料に基づく復習	田中

第9回	Ⅲ.身近な現代社会の諸問題 ③コミュニティと情報	学生にとって身近なサードスペース（居場所）は、地域コミュニティの人の繋がり希薄化、情報化社会におけるオンラインコミュニティの誕生により、大きく変化しつつある。本講では、より良いサードスペースの在り方を考察する	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習	松本
第10回	Ⅲ.身近な現代社会の諸問題 ④コロキウム	身近な現代社会の諸問題に関する学生のプレゼンテーション・ディスカッションを行う	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習	浅野、田中、松本、江口
第11回	Ⅳ.身体と心をめぐる現代社会の諸問題 ①健康と保健・衛生	生涯のライフステージにはそれぞれに特有の健康課題がある。本講では、それらの発症要因について考え、現代社会における我が国の保健・衛生活動について議論する	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習	後和
第12回	Ⅳ.身体と心をめぐる現代社会の諸問題 ②スポーツと社会	現代社会におけるスポーツの社会的意義や価値、役割について考察する。また、スポーツをめぐる諸問題を多角的に検討し、変化する社会や生活との関連で、今後の望ましいスポーツの在り方を考える	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習	谷
第13回	Ⅳ.身体と心をめぐる現代社会の諸問題 ③心身とコミュニケーション	現代において、われわれは多様なストレスを抱えている。私たちを取り巻く“外界”との関わりによって生じる心身のストレスと自己との対話について考え、議論する	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習	竹端
第14回	Ⅳ.身体と心をめぐる現代社会の諸問題 ④コロキウム	身体と心をめぐる現代社会の諸問題に関する学生のプレゼンテーション・ディスカッションを行う	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習	浅野、後和、竹端、谷、
第15回	Ⅴ.総括シンポジウム：未来社会の創造に向けて	現代社会の諸問題に関する学生の総括的なプレゼンテーション、ディスカッションを行う	事前：配付資料に基づく予習、コメント提出 事後：授業資料に基づく復習、レポート提出	浅野、稲生、後和、須藤、田中、竹端、松本、上野山、江口、谷、
定期試験は実施しない				

〔評価方法（基準）〕

授業中の発表・ディスカッションの達成水準（20%）、事前のコメント、授業中のリアクションペーパー、事後のレポートなど提出物（80%）で評価し、60%以上で合格とする。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	21世紀を生きるための社会学の教科書	K.ブラマー	ちくま学芸文庫
参考書	グレタさんの訴えと水害列島日本	岩佐茂、岩渕孝、宮崎紗矢	学習の友社
参考書	グリーン・ニューディール	明日香壽川	岩波新書
参考書	メディアとプロパガンダ	N.チョムスキー	青土社
参考書	「いいね！」戦争 兵器化するソーシャルメディア	P.W.シンガー、E.T.ブルッキング	NHK出版
参考書	共生会創造におけるソーシャルワークの役割	上野谷加代子（編著）	ミネルヴァ書房
参考書	自治型地域福祉の理論	右田紀久恵	ミネルヴァ書房
参考書	「学校」をつくり直す	苫野一徳	河出新書
参考書	学びを人生へつなげる家族心理学	土肥伊都子（編著）	保育出版社
参考書	令和のローカルメディア	松本恭幸、佐藤和文、佐藤博昭	あけび書房
参考書	スポーツ白書 2020・2030年のスポーツのすがた	笹川スポーツ財団	笹川スポーツ財団
参考書	リラクゼーション法の理論と実際 第2版 ヘルスキエ・ワーカーのための行動療法入門	五十嵐透子	医歯薬出版

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
社会学説史	1 年次・前期	2 単位 (選択)	好井 裕明 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

【授業概要・目的】

現代社会を捉えるものの見方にはどのようなものがあるだろうか。社会学ではそれぞれが生きた時代状況を反映した理論の蓄積がある。本授業ではカール・マルクスから始め、エミール・デュルケム、マックス・ヴェーバー、ゲオルグ・ジンメル、シカゴ社会学、アーバン・エスグラフィ、G.H.ミード、R.K.マートン、T.パーソンズ、E.ゴフマン、A.シュッツ、H.ガーフィンケルを中心として、彼らが創造した理論や概念をわかりやすく説明する。それらは社会を捉える基礎であり社会学を考える基礎と言える。「資本」「労働」「価値」「合理性」「行為」「構造」「関係性」「自己」「共在」「日常生活世界」「人々の方法」という概念と社会の見方を理解し、自分自身の問題関心に活用できる知として受講生各自が習得することを目的とする。

【到達目標】

- ① 近代社会のありようと社会学の知を理解する。
- ② 過去概念や理論が現代社会を理解するうえで有効であることを確認する。
- ③ 過去概念や理論を参照しながら、受講生各自が自らの問題関心を洗練させる。
- ④ 受講生各自の問題関心に活用できる知として社会学理論と概念を習得する。

【授業方法】

講義形式で行う。必要な事項は適宜、板書する。授業中 5 回、小課題を課す。

【授業計画】

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	近代社会の成立と社会学の始まり	産業革命後、近代社会がいかに成立したのかを説明し、社会学が近代社会そしてそこで生きる私たちの自己認識の学として成立したことを説明する	事前：教科書①第 1 章を読む 事後：講義内容を整理し、再度教科書①第 1 章を読む
第 2 回	資本と労働、剰余価値と疎外：カール・マルクスの社会学	現代社会を捉える基本概念である「資本」と「労働」そして「価値」をめぐる、カール・マルクスの社会学を概説する	事前：「労働」とはどういう営みなのかを考えておく 事後：教科書①第 2 章を読む
第 3 回	構造主義と社会的事実：エミール・デュルケムの社会学	「構造」からいかに社会を考えることができるのか。「社会的事実」という重要な概念も含め、『自殺論』という名著を中心にエミール・デュルケムの社会学を説明する	事前：教科書①第 3 章を読む 事後：講義内容を整理し、教科書①第 3 章を復習する
第 4 回	合理化と『プロ倫』：マックス・ヴェーバーの社会学①	社会学の巨人マックス・ヴェーバーの社会学①。「呪術からの解放」と合理化という問題。『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の意味や意義を説明する	事前：前回の講義内容を復習しておく 事後：講義内容を整理し、教科書①第 4 章（83-98 頁）を読む
第 5 回	支配の 3 類型と官僚制、社会的行為：マックス・ヴェーバーの社会学②	マックス・ヴェーバーの社会学②。近代社会を捉える重要な道具として「支配の 3 類型」「官僚制」「社会的行為」の考え方を説明する	事前：前回の講義内容を復習しておく 事後：講義内容を整理し、教科書①第 4 章（98-106 頁）を読む
第 6 回	形式社会学と疎外：ゲオルグ・ジンメルの社会学	もう一人の巨人であるゲオルグ・ジンメルの社会学。社会や人間関係の形式、「人間的疎外」など現代社会分析に通じる重要な社会学を説明する	事前：ヴェーバーの社会学を復習しておく 事後：教科書①第 5 章を読む
第 7 回	社会問題から社会学へ：シカゴ社会学	ヨーロッパからアメリカへ。ヨーロッパから移民した人々が開拓したアメリカ。そこで生まれたシカゴ社会学を概説する	事前：ジンメルの社会学を復習しておく 事後：教科書①第 6 章（155-171 頁）を読む
第 8 回	社会調査の基礎：アーバン・エスノグラフィ	現在の社会調査（質的・量的）の基礎であるシカゴ社会学のアーバン・エスノグラフィの意味と意義を概説する	事前：初期シカゴ社会学を復習しておく 事後：講義内容を整理し、教科書①第 6 章（171-179 頁）を読む
第 9 回	社会的自己論：G.H.ミードの社会学	G.H.ミードの社会学。個人のアイデンティティとは何か。社会に対する個人のありようを捉える基本である「社会的自己論」を説明する	事前：前回の講義内容を復習しておく 事後：講義内容を整理し、教科書①第 6 章（179-186 頁）を読む。
第 10 回	機能主義理論：R.K.マートンの社会学	社会学の基本的な説明概念である「機能」。人類学と社会学の機能主義を説明し、R.K.マートンの機能主義の整理を概説する	事前：教科書①第 7 章（218-226 頁）を読む。 事後：講義内容を整理し、教科書①第 7 章（218-226 頁）を復習する。
第 11 回	構造機能主義と均衡：T.パーソンズの社会学	構造機能主義理論の始祖、T.パーソンズの社会学。AGIL 図式、社会システム論、パターン変数などを説明し、社会の「均衡」とは何かを考える	事前：前回の講義内容を復習しておく 事後：教科書①第 7 章（187-217 頁）を読む。

第12回	相互行為秩序・共在：E.ゴフマンの社会学	「他者とともに在ること」をテーマとした E.ゴフマンの社会学。対面的相互行為、印象操作、演劇論的自己、相互行為秩序など他者と自己の関係を捉える考え方を説明する	事前：パーソンズの社会学を復習しておく 事後：講義内容を整理し復習しておく (1時間)
第13回	日常生活世界の発見：A.シュッツの社会学	従来の社会学が前提としてきた「日常生活世界」「常識的世界」それ自体を社会学の分析対象とする A.シュッツの現象学的社会学。「日常生活世界論」「多元的現実」などを説明する。	事前：ゴフマンの社会学を復習しておく 事後：講義内容を整理し、復習しておく
第14回	人々の方法・人々の社会学：エスノメソドロジー	日常さまざまな場面でわたしたちはどのように現実をつくりあげているのだろうか。「実践的 sociologist」としての私たちの姿を微細に読み解くエスノメソドロジー。その基本を説明する。	事前：シュッツの「日常生活世界論」を復習しておく 事後：エスノメソドロジーとは何かを講義内容をもとに今一度理解しておく
第15回	現代社会を捉える6つの視点(まとめ):「行為」「構造」「関係性」「自己」「日常生活世界」「人々の方法」	社会学の巨人たちが創造してきたさまざまな理論や概念、分析装置。それらを「今、ここ」から社会を考えるために必要な6つの視点でまとめ直す。「行為」「構造」「関係性」「自己」「日常生活世界」「人々の方法」を今一度説明する。	事前：エスノメソドロジーとは何かを復習しておく 事後：教科書②第1章を読み、しっかりと理解する
定期試験			

【評価方法（基準）】

授業中の小課題レポート（800～1000字）5回（50%）と定期試験（50%）で評価し、60%以上で合格とする。

【教材】

教材の区分	書名	著者名	出版社名
教科書①	社会学の歴史Ⅰ	奥村隆	有斐閣
教科書②	「今、ここ」から考える社会学	好井裕明	筑摩書房
参考書	別途、指示する		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
文化社会学	1 年次・前期	2 単位 (選択)	樫田 美雄 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

【授業概要・目的】

文化社会学は、社会学の一部であると同時に全体でもある。既存の文化を分析対象とすると、それは「文芸社会学」や「演劇社会学」「映画社会学」「音楽社会学」などの諸・連字符社会学の集合体として、社会学の一部である。しかし、「文化現象として扱い得るすべてのもの」を分析対象とすると、それは社会学のフロンティアを切り開く活動そのものであり、「人々の世界認識」を扱う点で、社会学全体であるとも言えよう。本授業では、「現代社会学部的文化社会学」を講じる。前者の狭義の文化社会学から入って後者の広義の文化社会学までの展望を内在的に提示する。社会学的思考の発展を追体験しつつ、社会学が人々を説明する社会学から、人々から学ぶ社会学に自己革新している現状を実感してもらう。受講生の生活経験の在り方そのものが現代文化の実相である、ということを得てもらうことが本授業の目標である。

【到達目標】

- ① 文化社会学の下位領域である小説や伝記や評論を扱う「文芸社会学」での議論の仕方と概要を説明できるようになる。
- ② 文化社会学の下位領域である漫才や文楽やオペラを扱う「舞台芸術社会学」での議論の仕方と概要を説明できるようになる。
- ③ 文化社会学の下位領域である写真やアニメや映画を扱う「映像社会学」での議論の仕方と概要を説明できるようになる。
- ④ 広義の文化社会学が、「推論実行機械」としての人間の行為全般を扱うものであることを例示しながら説明できるようになる。

【授業方法】

本授業は、部分的反転学習の形式で行う。文化体験なくして文化社会学を实践することはできないからだ。まず授業の前半では、作品の提示と分析の両方を行う。授業期間の中盤以降では、学生各自が自力で「文化作品／文化現象」を鑑賞／体験すること、その鑑賞／体験を授業内でプレゼンテーションすることが重要となる。授業期間末においてはグループ・ワークを活用して、作品を作るか、作品鑑賞をするか、文化に参与させる地点にまで受講生を促すことが、本授業の方法となる。

【授業計画】

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第1回	文化社会学概論	文化社会学は、社会学の一部であると同時に全体でもある。 『現代文化を学ぶ人のために』&『<当事者宣言>の社会学』	事前：シラバスの理解 事後：学習課題の学習
第2回	文芸社会学 1	「走れメロス」と「山月記」の「裏の物語」は裏なのか？ (出口智之『国語をめぐる冒険』)	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第3回	文芸社会学 2	『羅生門メソッド』という発想と「人々から学ぶ生活社会学」 (黒澤明『羅生門』、オスカー・ルイス、『大杉栄自叙伝』)	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第4回	文芸社会学 3	「社会を説明する社会学」と「社会から学ぶ社会学」の対比。 (近森高明「タグづけされる世界と「くくり」の緩やかな秩序」)	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第5回	舞台芸術社会学 1	オペラから考える 100%の慈悲と、0%の慈悲との相同性。 (奥村隆『慈悲のポリティクス』、オペラの社会学)	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第6回	舞台芸術社会学 2	吃音の可能性を拓く（言い難そうにする効果としての真実性） (井上ひさし『日本人のへそ』、吃音と東北弁の類同性)	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第7回	舞台芸術社会学 3	落語と漫才の社会学。誰が誰を笑っているのか。再帰性問題。 (アンジャッシュ『障子をへだてて』における聴衆の位置)	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第8回	映像社会学 1	故実皮膜の彼方、あるいは、映画としての人生。 (是枝裕和『ワンドフルライフ』における嘘と願望)	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第9回	映像社会学 2	写真を読む。ダブル・コンティンジェンシーの実践的解決。 (中塚朋子他「写真鑑賞場面における相互行為分析」)	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第10回	文化社会学の現在	ファン参加型文化としての『マトリックス』と『コミケ』。 (ジェンキンス『コンヴァージエンス・カルチャー』)	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第11回	読み物としての社会 1	LGBTQIの多様化を、他者理解の様式変容として読み解く。 (石田仁『はじめて学ぶ LGBT 基礎からトレンドまで』)	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第12回	読み物としての社会 2	オリ・パラの歴史を、クラス分けの支配の強化史と読み解く。 (「東京 2020 オリ・パラ競技大会から考える人権社会学」)	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第13回	読み物としての社会 3	診察/診断コミュニケーションを相互配慮の実践として読む。 (ヘリテッジ&メイナード『診療場面のコミュニケーション』)	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第14回	社会を読む実践 1	街歩きをしよう。NHK『プラタモリ』と『路上観察学入門』。 (新之介『地形散歩のすすめ』での自然変化の人間物語化)	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第15回	社会を読む実践 2	日常を刺激的にする境界横断的学問としての文化社会学。 (木村朗子他編『世界文学としての<震災後文学>』)	事前：学習範囲の予習 事後：定期試験の復習
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

定期試験（40％）と複数回の小テスト（30％）、毎回の授業中小レポート（30％）で評価し、60％以上で合格とする。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	＜当事者宣言＞の社会学－言葉とカテゴリー－	檜田美雄・小川伸彦（編）	東信堂
参考書	全訂新版 現代文化を学ぶ人のために	井上俊（編）	世界思想社
参考書	慈悲のポリティクス－モーツァルトのオペラにおいて、誰が誰を赦すのか－	奥村隆	岩波書店

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
自我と関係の社会学	1 年次・後期	2 単位 (選択)	堀田 裕子 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

【授業概要・目的】

私たちはさまざまな具体的な関係の中で、他者やモノとの相互行為を通じて社会とつながると同時に、自我を形成していく。本授業では、相互行為論の考え方を主軸に、関係の中で生じる社会化と自我の形成、アイデンティティをめぐる問題、地位・役割の働きについて学び、自我と関係についての理解を深める。また、日常生活における出来事や行為を関係の中でまなざす視点も学習していく。差別と排除、逸脱、孤独と孤立といった諸問題や、日常生活の一部となったインターネットにおける関係について、そこで行われている相互行為を事例とともに考えていく。これらの学びによって、自己を理解するということは関係を理解することであり他者を理解することである、という観点を獲得することが目的である。

【到達目標】

- ① 自我の成り立ちについての知識と考え方を得ることができる。
- ② 他者との関係の中で形成される人間の性質や行為に関する知識と考え方を得ることができる。
- ③ 社会問題の要因を関係の在り方からまなざすための知識と考え方を得ることができる。
- ④ これらの知識と考え方をともに、日常生活で生じる諸問題に気づき、それについて関係の観点から自分自身で考え説明することができる。

【授業方法】

配付資料（テキスト兼ノートとして使用）、パワーポイントによって行う。授業内容の理解を深めるために、授業内で課題を実施し、次の回において解説・総評・質疑応答を行う。事前学習課題としての「配付資料」は、読んできてもらうものや用語の意味を調べてきてもらうものを含む。事後学習課題としての「確認シート」は、毎回の授業の理解度を自己確認するために利用してもらう。

【授業計画】

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第1回	イントロダクションー個人・相互行為・社会ー	ガイダンスと授業計画・授業方法の説明、二者関係と三者関係から考える個人・相互行為・社会の関連性	事前：シラバスの閲読 事後：確認シートへの取り組み
第2回	社会化と自我の形成（1）人「間」になるということ	自他未分の世界、鏡に映った自我、「ホモ・ソシオロジクス」という社会学的人間像への批判	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第3回	社会化と自我の形成（2）自我形成過程	社会化の過程におけるモノと他者の働き、自我の二側面：主我(I)と客我(me)、自我と身体および自己像、問題的地位	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第4回	社会化と自我の形成（3）近代的自我	独我論、近代的自我、ワレ-ソレ関係とワレ-汝関係、アイデンティティとその問題【課題の実施（20分）】	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第5回	地位・役割と相互行為（1）社会と集団の中の自我	【課題の解説など（15分）】地位・役割の考え方、他者からの期待と役割葛藤、役割距離と役割形成の意義、自我と地位・役割との関連性	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第6回	地位・役割と相互行為（2）ドラマトウルギー	ドラマとしての日常生活、「演技者」や「観客」としての人間とその相互行為、自己呈示および印象操作、相互行為儀礼と儀礼的無関心	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第7回	意味・シンボル・リアリティ（1）発話と行為の意味	シンボル（言語・身振りなど）を介した相互行為、意味の社会性と意味連関、有意味シンボル、集合的記憶と物語	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第8回	意味・シンボル・リアリティ（2）生活世界と現実	生活世界における自然的態度、違背実験と背後期待、状況の定義、リアリティの多元性【課題の実施（20分）】	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第9回	関係の中の行為（1）社会的行為と権力・支配	【課題の解説など（15分）】行動と行為の観点、動機と関係、行為の諸類型、感情の社会性、権力と支配の相互行為、行為を理解することは可能か	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第10回	関係の中の行為（2）集団としての行為	集合体および集団の中の自我と行為、行為と意図せざる諸帰結	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第11回	人間関係の諸問題（1）差別と排除	マイノリティ／マジョリティの問題、さまざまな差別と排除（いじめなど）、内集団と外集団の観点、差別と排除の相互行為	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第12回	人間関係の諸問題（2）逸脱	「正常」と「異常」、逸脱の原因、予言の自己成就、ラベリングとその過程、スティグマと通過作業【課題の実施（20分）】	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第13回	人間関係の諸問題（3）孤独と孤立	【課題の解説など（15分）】連帯の社会的変化、孤独と孤立の諸問題（社会的引きこもり、自殺など）、近代的自我・再考	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み

第14回	人間関係の諸問題(4) インターネット上の関係	インターネット上の相互行為、インターネットの中の自我と他我、リアリティの多元性・再考	事前：配付資料の閲読、質問事項の整理 事後：確認シートへの取組
第15回	自己理解、そして、他者理解のために	「関係」の中のあなたとわたし、真の「他者」理解とは、授業のまとめ、質疑応答(30分)	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取組
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

定期試験（70％）と全3回の課題（30％）で評価し、60％以上で合格とする。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	講義内容に関するプリント(書き込み式)を配付		
参考書	自己と他者の社会学	井上俊・船津衛(編)	有斐閣
参考書	マイノリティ問題から考える社会学・入門－差別をこえるために	西原和久・杉本学(編)	有斐閣

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
産業労働社会学	1 年次・後期	2 単位 (選択)	山本 圭三 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

〔授業概要・目的〕

本授業では、産業や労働に関する対象について、社会的分析視点に基づいた講義を行う。基礎科目として、産業・労働分野における古典的研究などを紹介するとともに、労働に関わる基本的な制度や構造、人々の働き方の現状といった話題を取り上げる。また若者、ジェンダーといった個別のトピックについて、その領域での重要事項についても取り上げる。こうした内容を通して受講生が産業・労働分野における基礎事項を理解すること、今日の労働世界の実情・問題とその背景について社会的な観点で把握できるようになることが、本授業の狙いである。

〔到達目標〕

- ① 産業・労働分野の古典的研究が説明できる。
- ② 労働に関わる諸制度について理解している。
- ③ 働き方の多様なさまや、若者・ジェンダーに関連する労働の現状について説明できる。

〔授業方法〕

授業は、(1) 資料に基づく講義形式、(2) 講義内容に関連する受講生相互のディスカッション、(3) 映像などを含む教材を用いた学習と学習内容の発表と教員からのフィードバック、といった種々の方法を織り交ぜて実施する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第1回	イントロダクション	仕事・労働・職業の捉え方	事前：シラバスの理解 事後：資料を基にした復習
第2回	古典的研究の視座1	社会分業論	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
第3回	古典的研究の視座2	人間関係論・科学的管理法	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
第4回	労働に関わる諸制度1	日本型雇用慣行	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
第5回	労働に関わる諸制度2	労使関係	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
第6回	労働に関わる諸制度3	賃金、昇進・異動	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
第7回	働き方のありよう1	学歴とキャリア	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
第8回	働き方のありよう2	転職・失業・起業	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
第9回	働き方のありよう3	非正規雇用	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
第10回	若者と労働1	就職活動	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
第11回	若者と労働2	若年層の就業実態	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
第12回	労働とジェンダー1	性別職域分離	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
第13回	労働とジェンダー2	格差の実情	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
第14回	資料からみる労働の世界	労働世界の現実をみる	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
第15回	まとめ	働くことを社会学する視点	事前：当該回の資料を読む 事後：資料を基にした復習
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

理解度を問う課題（40％）と定期試験など（60％）で評価し、60％以上で合格とする。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	別途、指示する		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
福祉社会学	2 年次・前期	2 単位 (選択)	小池 高史 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

〔授業概要・目的〕

福祉社会学は、広い意味での福祉を対象とする社会学である。現代社会では、人口の高齢化や人口減少が進む中、福祉や生活の質の考え方がますます重要なものになってきている。そのため、福祉という側面から、現代社会を捉える視点を持つことの重要性も高まっている。本授業では、福祉社会学の基本概念や現代の社会課題について学び、私たちが他者をケア（支援）すること、他者からケア（支援）を受けることがどういったことなのか、理解することを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 社会保障制度について説明できるようになる。
- ② 福祉や生活の質の考え方が重要になってきている背景について説明できるようになる。
- ③ 高齢社会における福祉の課題について説明できるようになる。
- ④ 自立とケアの関係について説明できるようになる。

〔授業方法〕

配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業の最後にその回の内容に関連した質問をし、回答を記入してもらう。また、今回の内容に関連した資料を配付する。授業の冒頭に前回の回答の結果を共有し、議論する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	人口変動とケア	ガイダンスと人口転換、高齢化、人口減少、従属人口割合、シングル化などについての講義	事前：シラバスの理解 事後：配付資料の復習
第 2 回	福祉レジーム	福祉レジーム、福祉国家、日本型福祉社会などについての講義	事前：配付資料の予習 事後：配付資料の復習
第 3 回	日本の社会保障（1）	日本の社会保障の体系、社会保険、公的扶助、社会福祉などについての講義	事前：配付資料の予習 事後：配付資料の復習
第 4 回	日本の社会保障（2）	社会保障の歴史、恤救規則、救護法、福祉元年、介護保険などについての講義	事前：配付資料の予習 事後：配付資料の復習
第 5 回	日本の社会保障（3）	年金、生活保護、医療保険、介護保険制度、障害者施策、児童福祉などについての講義	事前：配付資料の予習 事後：配付資料の復習
第 6 回	障害の社会モデル	障害学、個人モデル、社会モデル、依存、障害者差別、合理的配慮などについての講義	事前：配付資料の予習 事後：配付資料の復習
第 7 回	インフォーマルケア	家族、地域社会、被援助志向性、有償ボランティアなどについての講義	事前：配付資料の予習 事後：配付資料の復習
第 8 回	障害者の自助・自立	障害当事者運動、自己決定、地域生活、生活の質などについての講義	事前：配付資料の予習 事後：配付資料の復習
第 9 回	地域包括ケア	高齢者介護、サードセクター、健康観の変遷、互助活動などについての講義	事前：配付資料の予習 事後：配付資料の復習
第 10 回	認知症ケア	認知症高齢者の施設でのケア、地域での生活、権利擁護などについての講義	事前：配付資料の予習 事後：配付資料の復習
第 11 回	高齢者の社会的孤立	孤独死、居住形態の変遷、ジェンダー差、孤立の要因と結果などについての講義	事前：配付資料の予習 事後：配付資料の復習
第 12 回	貧困と社会的排除	貧困の基準、女性の貧困、子どもの貧困、経済格差、排除と包摂などについての講義	事前：配付資料の予習 事後：配付資料の復習
第 13 回	健康の格差	経済状況による健康格差、世代・学歴・職業などの個人属性要因による健康格差などについての講義	事前：配付資料の予習 事後：配付資料の復習
第 14 回	住宅福祉	公営住宅、住宅政策、ホームレス支援などについての講義	事前：配付資料の予習 事後：配付資料の復習
第 15 回	援助拒否問題	全体のまとめと、これまでのテーマに共通するケアと援助拒否問題についての講義	事前：配付資料の予習 事後：配付資料の復習
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

定期試験（70%）と毎回の質問への回答（30%）で評価し、60%以上で合格とする。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	別途、指示する		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
ジェンダー論	2 年次・前期	2 単位 (選択)	堀田 裕子 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

〔授業概要・目的〕

男女の人口はほぼ同じなのに、なぜ女性は社会的マイノリティであり続けるのか。なぜそもそも人間の性は二つと決められているのか。性にとらわれない生き方はどのようにしたら可能になるのか。本授業では、以上の問題意識に基づき、まず性を社会問題として扱う出発点として、フェミニズムという思想および社会運動の歴史と争点を概観する。そして、私たちがライフコースの中で経験する性に関わる諸問題について、国際比較を交えて考えていく。また、性の観点からまなざされる身体が経験する、性の商品化、性暴力、身体変工への指向に関する諸議論を見ていく。これらに基づき、セックス、ジェンダー、セクシュアリティにおいて自分と異なる立場にある人々を理解することを目的としている。

〔到達目標〕

- ① 性およびその在り方をめぐる差別の歴史についての知識を得ることができる。
- ② ライフコースの中で生じる性をめぐる諸問題に関する知識と考え方を得ることができる。
- ③ 多様な性およびその在り方についての知識と考え方を得ることができる。
- ④ これらの知識と考え方をもとに、性をめぐるさまざまな社会問題について自分自身で考え批評することができる。

〔授業方法〕

配付資料（テキスト兼ノートとして使用）、パワーポイントによって行う。授業内容の理解を深めるために、授業内で課題を実施し、次の回において解説・総評・質疑応答を行う。事前学習課題としての「配付資料」は、読んできてもらうものや用語の意味を調べてきてもらうものを含む。事後学習課題としての「確認シート」は、毎回の授業の理解度を自己確認するために利用してもらう。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第1回	イントロダクションー性をめぐる現状	ガイダンスと授業計画・授業方法の説明、SDGs 目標「ジェンダー平等を実現しよう」と日本の現状	事前：シラバスの閲読 事後：確認シートへのり取り組み
第2回	ジェンダー・セックス・セクシュアリティ	性を考えるための諸概念、生物学的な観点と社会学的な観点、多様な性の在り方、さまざまな性別役割分担	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへのり取り組み
第3回	フェミニズムの歴史と争点 (1)公的領域での平等を目指して	性を「社会問題」として考える、フェミニズムの黎明期（リベラル・フェミニズム）、日本のフェミニズムと『青鞥』（青鞥社）の活動	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへのり取り組み
第4回	フェミニズムの歴史と争点 (2)私的領域での平等を目指して	フェミニズムの多様化（マルクス主義フェミニズム、ラディカルフェミニズム、差異派フェミニズムなど）、さまざまな他の社会問題との関連性	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへのり取り組み
第5回	フェミニズムの歴史と争点 (3)性は解放された？	アンチフェミニズムの動き（ミソジニー、バックラッシュなど）、「ポストフェミニズム」と呼ばれる状況、「フェミニズム」をこえて【課題の実施（20分）】	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへのり取り組み
第6回	ライフコースに見るジェンダー(1)社会化と教育	【課題の解説など（15分）】遊びの中のジェンダー（玩具・物語など）、社会化とジェンダー化、家庭と学校における教育とジェンダー格差	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへのり取り組み
第7回	ライフコースに見るジェンダー(2)社会生活	男女雇用機会均等法と女性活躍推進法、ポジティブ・アクション、就労曲線と非正規雇用、女性の貧困、男女共同参画社会基本法、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）憲章	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへのり取り組み
第8回	ライフコースに見るジェンダー(3)恋愛・結婚・家族	家父長制と家制度、ロマンティック・ラブ・イデオロギーと近代家族、主婦の誕生、未婚・晩婚化	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへのり取り組み
第9回	ライフコースに見るジェンダー(4)育児・介護	妊娠・出産・育児という過程に見る社会性、母性神話、家族介護、「感情管理」と「感情労働」【課題の実施（20分）】	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへのり取り組み
第10回	ジェンダー化される身体(1) 性の商品化	【課題の解説など（15分）】振る舞いに見るジェンダー、「見る／見られる」関係と近代的権力、ポルノグラフィとセックス・ワークをめぐる諸議論	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへのり取り組み
第11回	ジェンダー化される身体(2) 性暴力	ドメスティック・バイオレンス、デートDV、セクシュアルハラスメント、中絶（堕胎）論争、性と生殖に関する健康と権利	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへのり取り組み
第12回	ジェンダー化される身体(3) 身体変工とファッション	身体変工と境界意識、現代の身体変工（美容整形、脱毛、痩身など）、ファッションと性	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへのり取り組み

第13回	性の多様性を理解するために(1)男性性	男性の生きづらさ、「男性性」はどのようにつくられてきたか、「イクメン」と「ケアメン」およびそれらをめぐる問題	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへのり取り組み
第14回	性の多様性を理解するために(2)LGBTQ／SOGI	LGBTQ／SOGI、性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律とその問題、同性婚を考える、ジェンダーとしてのセックス【課題の実施（20分）】	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへのり取り組み
第15回	性にとらわれない生き方はいかにして可能か	【課題の解説など（15分）】性をめぐる社会運動の世界的動向および日本との比較、授業のまとめ、質疑応答（30分）	事前：配付資料の閲読、質問事項の整理 事後：確認シートへのり取り組み
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

定期試験（70％）と全3回の課題（30％）で評価し、60％以上で合格とする。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	講義内容に関するプリント（書き込み式）を配付		
参考書	フェミニズム入門	大越愛子	筑摩書房
参考書	よくわかるジェンダー・スタディーズ—人文社会科学から自然科学まで	木村涼子・熊安喜美江・伊田久美子	ミネルヴァ書房

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
家族社会学	2 年次・前期	2 単位 (選択)	岩井 八郎 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

〔授業概要・目的〕

家族は親密な人間関係の礎であり、次世代の再生産を担う基盤とみなされてきた。そのため家族は社会政策の主要な対象でもあり、家族の変化には常に大きな社会的関心が寄せられてきた。現在の日本の家族は大きな転換期を迎えている。少子化、高齢化、晩婚化、雇用機会均等、格差拡大など現在の日本社会を特徴づける多くの現象は家族に関係する。本授業では、家族に関係するさまざまな現象を読み解き、分析するための社会学的視点を講義する。日本の家族の姿について、統計データから浮かび上がる特徴、歴史的な変化の中での位置づけ、国際比較から見た共通性とユニークさについて知識を深めることができるように授業を構成する。

〔到達目標〕

- ① 家族に関係する身近な経験を社会学的な視点から分析し説明できる力をつけること。
- ② 現代社会で生じている家族に関係する現象を客観的なデータを用いて説明できる力をつけること。
- ③ 現代社会で生じている家族に関係する現象を歴史的文脈と国際比較の観点から読み解く力を養うこと。
- ④ 現在また将来、自分が家族生活を営む上で、重視する点、注意する点について理解を深めること。

〔授業方法〕

配付資料、パワーポイントによって行う。授業内容の理解を深めるために、複数回（3 回程度）小レポートを実施する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	家族をどう捉えるか	The Family と Families、Public Families と Private Families という対比を用いて、家族を社会的にどう捉えるかを考える	事前：シラバスの理解 事後：授業資料の学習
第 2 回	基本用語の説明	家族現象を社会的に理解するための基本用語について説明する	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 3 回	統計データからみる日本の家族	人口動態や社会調査データ、国際比較データを用いて現在の日本の家族の姿を説明する	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 4 回	戦後日本型家族モデル	戦後日本社会における性別役割分業型の夫婦家族の定着について説明する	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 5 回	福祉レジームと家族	福祉レジームの 3 類型（社会民主主義、保守主義、自由主義）における家族の特徴と比較して日本のユニークさを説明する	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 6 回	ポスト近代社会と家族の変容	1970 年代以降の欧米諸国の家族の変化と比較して、日本の変化の特徴を説明する	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 7 回	配偶者選択と恋愛・性	恋愛結婚の誕生から、現在の晩婚化、婚活、草食化などの現象、現在の結婚戦略などのトピックを取り上げる	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 8 回	仕事と家族	性別役割分業型家族における夫婦関係からの変化、とくに女性の就業拡大とワーク・ライフバランスの現状を取り上げる	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 9 回	社会階層と家族	階層による夫婦関係、子育て、家族に対する期待の差を説明し、日本の中流階級家族の分化、貧困の問題を取り上げる	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 10 回	離婚とその後	日本の離婚率の変化、世界の動向、離婚理由と離婚観の現在、離婚と子ども、再婚事情などのトピックを取り上げる	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 11 回	子育てと親子関係	子ども観の変遷、就学前教育、母子関係と父子関係の現状について、母親の就業と父親の育児参加を背景に検討する	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 12 回	家族と暴力	体罰、児童虐待、DV などの現状、理論的説明、課題について検討する	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 13 回	家族と高齢者	高齢者の家族形態に関して近年の単独世帯の増加に着目して、高齢者援助の問題を考える。	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 14 回	家族とコミュニティ	ケアの外部化とコミュニティの役割について、現状と課題を検討する	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
第 15 回	家族政策と家族の未来	親密な人間関係への政策的な介入が進む時代である。パートナー関係の多様化を踏まえて、家族の未来を考える	事前：事前配付資料の予習 事後：授業資料の学習
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

小レポート 3 回（60%）と定期試験（40%）で評価し、60%以上で合格とする。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	家族社会学事典（2023 年刊行予定）	日本家族社会学会編	丸善出版株式会社
参考書	21 世紀家族へ	落合恵美子	有斐閣
参考書	家族社会学を学ぶ人のために	井上眞理子編	世界思想社

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
子どもと教育の社会学	2 年次・後期	2 単位 (選択)	竹中 祐二 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

〔授業概要・目的〕

生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E.デュルケムは方法的社会化・系統的社会化作用として教育を位置づけている。人間にとって、「社会化としての教育」が本質的なものである一方、「制度としての教育」は、時代や文化による影響を色濃く受けるものでもある。本授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 「近代化」との関わりから、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。
- ② 時代や文化を超えて普遍的である特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。
- ③ 今日的な特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。
- ④ 教育制度の歴史の変遷や、今日の学校と地域社会や関係機関との連携を踏まえつつ、教育に関わる主体の役割や特徴を、文章によって説明することができる。

〔授業方法〕

配付資料ならびにスライドを活用した講義を展開する。また、授業内容の理解を深めるために、小テストないし小レポートを実施する。その他、受講生の要望に応じて、グループディスカッションなどのワークを実施する場合もある。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	イントロダクション	社会学的に考えるということ、および教育を社会学的に捉え直すことについての基本的な視点を提供し、本科目で学ぶ内容と、その意義について整理する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第 2 回	制度としての教育①	教育内容や教育方法の変遷を学び、それらが社会と深く関わっていることについて学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第 3 回	制度としての教育②	階層再生産のメカニズムといった、近代化の所産と教育の在り方について学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第 4 回	制度としての教育③	主に義務教育課程について、その概要について学ぶと共に、教育をめぐる平等について学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第 5 回	制度としての教育④	高校ならびに大学への進学率上昇と、その背後に潜む諸問題について学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第 6 回	社会における教育者の意義①	重要な他者／一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第 7 回	社会における教育者の意義②	今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第 8 回	社会における教育者の意義③	子どもにとっての学校が持つ意味を踏まえながら、教師と子どもの関係および学校現場における両者の相互作用について学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第 9 回	日本における教育環境の変遷①	学校現場への理解から、非行・不登校・いじめ問題について学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第 10 回	日本における教育環境の変遷②	トラッキングやメリトクラシーの問題から、日本におけるキャリア教育について学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む

第11回	日本における教育環境の変遷③	特別活動や部活動の検討を通して、教師と子どもそれぞれが今日置かれている教育環境について学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第12回	日本における教育環境の変遷④	今日的な課題のうち、マイノリティ教育に対する教育の意義や実践例について考察する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第13回	日本における教育環境の変遷⑤	今日的な課題のうち、ジェンダー教育に対する教育の意義や実践例について考察する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第14回	総括①	社会との関わりから教育を理解するための方法的基礎知識について学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第15回	総括②	本科目を通じて学習した内容について振り返り、専門職をはじめとするそれぞれの立場から社会の中で教育を達成することの意義について再考し、理解を深める	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
定期試験			

【評価方法（基準）】

期末試験（55%）と複数回の小テストないし小レポート（45%）で評価し、60%以上で合格とする。なお、グループディスカッションなどのワークを実施する場合、それに係る提出物は小レポートに含まれるものとする。

【教 材】

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	現場で使える教育社会学	中村高康・松岡亮二（編著）	ミネルヴァ書房
参考書	別途、指示する		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
社会調査入門	1 年次・前期	2 単位 (選択)	後和美朝、竹中祐二、竹端佑介 (担当形態：クラス分け・単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

〔授業概要・目的〕

本授業は、社会調査全般に関する基本事項について学習するものである。授業では社会調査の意義やその歴史、および調査倫理についての解説とともに、さまざまな種類の社会調査によってなされた代表的研究についての解説を行う。これらの内容をおし、受講生は種々の調査におけるデータの収集から分析までのプロセス、その特徴と相違点について理解し、社会調査の全体的な知識と倫理観を身に付ける。こうした過程を経て、調査する側として必要となる基本事項とともに、社会で氾濫するデータに翻弄されないための調査リテラシーの土台を獲得することが本授業の狙いである。

〔到達目標〕

- ① さまざまな社会調査の特徴とその違いを理解している。
- ② 調査の実例、歴史について理解している。
- ③ 学術的調査を実施する際に配慮すべき倫理的事項について理解している。

〔授業方法〕

配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、グループワークも適宜実施する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	イントロダクション	授業計画・授業方法・評価方法の説明、社会調査の概要	事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習
第 2 回	社会調査の目的と意義	社会調査とは何か、なぜ調査が必要なのか	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第 3 回	社会調査の歴史	社会調査はいつから行われ、どう発展してきたか	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第 4 回	社会調査の種類（1）	公的統計、世論調査	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第 5 回	社会調査の種類（2）	学術調査、国際比較調査	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第 6 回	調査倫理	調査を行う際の心得、ラポールなど	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第 7 回	量的調査と質的調査	量的調査と質的調査の違いについて	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第 8 回	公的統計	公的統計データを用いた研究	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第 9 回	量的調査（1）	質問紙調査の概要、統計学との関係	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第 10 回	量的調査（2）	質問紙調査の方法	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第 11 回	量的調査（3）	質問紙調査を用いた諸研究	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第 12 回	質的調査（1）	聞き取り調査の方法と研究の実例	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第 13 回	質的調査（2）	インタビュー調査の方法と研究の実例	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第 14 回	質的調査（3）	ドキュメント分析の方法と研究の実例	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第 15 回	まとめ	講義のまとめと知識の確認	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

提出された課題（40%）と定期試験（60%）で評価し、60%以上で合格とする。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	入門・社会調査法 [第 4 版]	轟亮、杉野勇	法律文化社

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
社会調査法	1 年次・後期	2 単位 (選択)	田中晶子、竹中祐二、竹端佑介 (担当形態：クラス分け・単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

【授業概要・目的】

ひとくちに社会調査といっても、その方法はさまざまである。本授業では調査目的にあわせて調査方法を決定し、調査を設計、実施し、分析しうる形にまで整理していく具体的な手法を学ぶ。調査対象者の選定、全数調査と標本調査、標本調査に際してのさまざまな手法、調査票の作り方、調査の配布回収方法、調査データの整理方法などについて、実践的な例を取り上げつつ解説していく。

【到達目標】

- ① 学術的社会調査の流れを理解している。
- ② 標本調査の方法について、目的に応じた使い分けができる。
- ③ 質問紙調査の設計に伴う諸問題について説明できる。
- ④ サンプルングの諸方法の特徴と違いについて説明できる。

【授業方法】

配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、グループワークも適宜実施する。

【授業計画】

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第1回	イントロダクション	授業の目的	事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習
第2回	社会調査のプロセス	学術的調査の全体的な流れ	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第3回	調査を始める（1）	問いと仮説の設定、概念の明確化	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第4回	調査を始める（2）	調査方法の種類	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第5回	調査票を作成する（1）	ワーディング	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第6回	調査票を作成する（2）	回答選択肢の作成	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第7回	調査票を作成する（3）	調査票全体の構成	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第8回	調査の実施（1）	調査票の配付と回収の方法	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第9回	調査の実施（2）	全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数の決定	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第10回	調査の実施（3）	サンプルングの方法	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第11回	データの作成（1）	コードブックの作成と入力作業	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第12回	データの作成（2）	コーディング・エディティング・データクリーニング	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第13回	データ分析の基礎（1）	度数分布、代表値	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第14回	データ分析の基礎（2）	変数間の関係の分析	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第15回	結果の報告	報告書作成に関する注意事項	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
定期試験			

【評価方法（基準）】

提出された課題（50％）と定期試験（50％）で評価し、60％以上で合格とする。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	入門・社会調査法 [第 4 版]	轟亮、杉野勇	法律文化社

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
基礎統計学	1 年次・後期	2 単位 (選択)	岩井八郎、田中晶子 (担当形態：クラス分け・単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

【授業概要・目的】

本授業では、計量的なデータを読み解くための基礎知識と技法について学習する。具体的には単純集計、クロス集計、ヒストグラムなどの作成方法、平均値、分散などの基礎統計量の意味と算出方法、2変数間の関係の記述方法（クロス表、平均値の差、相関係数など）、相関関係と因果関係の違い・疑似相関について学習する。また、各種統計資料の整理方法についても併せて学習する。以上の作業を通して、統計的なデータを適切に処理し、その結果から諸傾向を読み取ることのできる能力を身に付けることを目標とする。

【到達目標】

- ① 単純集計、クロス集計、ヒストグラム、散布図、平均値や分散などの基礎統計量の意味を理解し、自ら作成・算出できる。
- ② 相関係数や平均値の差など2変数間の関係を記述する方法を理解し、実践できる。
- ③ 因果関係と相関関係の違い、疑似相関について理解している。
- ④ 公的統計データを自分で入手し、必要に応じて加工して提示できる。

【授業方法】

配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業内容の理解を深めるために、グループワークも適宜実施する。

【授業計画】

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第1回	イントロダクション	授業の概要、統計学とはどのような学問か	事前：シラバスの理解 事後：授業資料をもとに内容を学習
第2回	データの集計（1）	度数分布、ヒストグラム、平均値、中央値、最頻値	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第3回	データの集計（2）	分散、標準偏差	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第4回	データの集計（3）	標準化	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第5回	実践（1）	データを用いた演習	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第6回	統計資料の整理（1）	公的統計の探し方、読み方	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第7回	統計資料の整理（2）	公的統計の加工・グラフ化	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第8回	統計資料の整理（3）	公的統計を用いた分析	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第9回	変数間関係の確認（1）	クロス集計	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第10回	変数間関係の確認（2）	平均の差	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第11回	変数間関係の確認（3）	相関関係について、相関係数の算出	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第12回	変数間関係の確認（4）	相関関係と因果関係	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第13回	変数間関係の確認（5）	疑似相関	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第14回	実践（2）	データを用いた演習	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
第15回	まとめ	講義のまとめと知識の確認	事前：事前配付資料を読んでおく 事後：授業資料をもとに内容を学習
定期試験			

【評価方法（基準）】

提出された課題（50%）と定期試験（50%）で評価し、60%以上で合格とする。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	数学嫌いのための社会統計学	津島昌寛ほか編著	法律文化社
参考書	わかりやすい統計学	松原望	丸善出版株式会社
参考書	不透明な時代を見抜く「統計思考力」	神永正博	ディスカバー・トゥエンティワン

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
FAL 入門	1 年次・前期	2 単位 (選択)	後和美朝、落合知子、竹中祐二、 上野山裕土、谷めぐみ (担当形態：複数)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

【授業概要・目的】

フィールド型アクティブ・ラーニング (FAL) の入門科目として、地域や企業など、さまざまなフィールドの現状と課題、またフィールドにおける活動に取り組むにあたっての心構えと具体的な手法を実践的に学ぶ。授業では、個人（パーソナルプロジェクト）およびグループ（グループプロジェクト）の立場で身のまわりの生活を見つめ直し、課題の抽出、アクションプランの作成および実践に取り組み、その学びを整理、発表する。これらの学びを通じて、受講生は、社会的実践（ソーシャルプロジェクト）に「じぶんごと」として取り組むにあたっての知識、技能、思考、態度を身に付けることが期待される。

【到達目標】

- ① フィールド（地域、企業など）での活動を行うにあたっての基本的な知識、技能、思考、態度を身に付ける。
- ② 個人およびグループで取り組む課題を発見し、それを表現することができる。
- ③ 課題に対する的確なアクションプランを作成し、それを実践することができる。
- ④ 経験から得た学びを整理し、それを他者に的確に伝えることができる。

【授業方法】

配付資料、パワーポイント、板書などによる講義と、教員と学生、学生間の活発な対話に基づき、授業を実施する。また、プレゼンテーション、フィードバック、振り返りを積極的に取り入れ、学生はこれらの学びの機会に主体的に参画することが求められる。

【授業計画】

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	フィールドと向き合う、フィールドで活動する	オリエンテーション・授業計画および授業方法の説明・フィールドで活動するにあたっての基本的な態度について学ぶ	事前：シラバスの確認 事後：講義の振り返り
第 2 回	フィールドとの関わり方	フィールドにおける活動に関する文献を講読し、グループで対話を行う	事前：文献の講読 事後：講義の振り返り
第 3 回	社会のいまとその担い手	さまざまなフィールドの現状と課題について紹介するとともに、大学生に取り組めることを考える	事前：事前資料の確認 事後：講義の振り返り
第 4 回	パーソナルプロジェクト①：課題さがし	身のまわりの生活から、「個人で取り組める課題」を考え、文章化する・成果物を教室内で共有する	事前：事前資料の確認 事後：講義の振り返り
第 5 回	パーソナルプロジェクト②：アクションプランづくり	「個人で取り組める課題」を具体的なアクションプランに落とし込む・成果物を教室内で共有する	事前：前回成果物の確認 事後：プランの実践
第 6 回	パーソナルプロジェクト③：中間振り返り	アクションプランを一定期間実践した学び（成果や課題、展望について）を共有し、フィードバックを受ける	事前：プランの実践 事後：プランの実践
第 7 回	パーソナルプロジェクト④：実践報告会、振り返り	パーソナルプロジェクトに取り組んだ学び（成果や課題、展望について）を報告し、実践を振り返る	事前：プランの実践 事後：講義の振り返り
第 8 回	グループプロジェクト①：課題さがし	身のまわりの生活から、「グループで取り組める課題」を考え、文章化する・成果物を教室内で共有する	事前：事前資料の確認 事後：講義の振り返り
第 9 回	グループプロジェクト②：アクションプランづくり	「グループで取り組める課題」を具体的なアクションプランに落とし込む・成果物を教室内で共有する	事前：前回成果物の確認 事後：プランの実践
第 10 回	グループプロジェクト③：中間振り返り	アクションプランを一定期間実践した学び（成果や課題、展望について）を共有し、フィードバックを受ける	事前：プランの実践 事後：プランの実践
第 11 回	グループプロジェクト④：知見の整理、対話	アクションプランを実践した知見をグループ内での対話を通じて整理する	事前：プランの実践 事後：講義の振り返り
第 12 回	グループプロジェクト⑤：ポスター作成	アクションプランを実践した知見を踏まえて、グループでポスターを作成する	事前：ポスター作成の準備 事後：講義の振り返り
第 13 回	グループプロジェクト⑥：最終報告会の準備	作成したポスターの内容を踏まえて、最終報告会の準備をグループで行う	事前：ポスターの確認 事後：最終報告会の準備
第 14 回	グループプロジェクト⑦：最終報告会	グループプロジェクトに取り組んだ学び（成果や課題、展望について）を報告し、実践を振り返る	事前：最終報告会の準備 事後：講義の振り返り
第 15 回	講義全体の振り返り：ソーシャルプロジェクトに向けて	講義での学びを振り返るとともに教室全体で共有する・ソーシャルプロジェクトに向けた意思表明を行う	事前：講義の振り返り 事後：今後についての検討
定期試験は実施しない			

【評価方法（基準）】

期末レポート（30%）と個人／グループ成果物（40%）、毎回の小レポート（30%）で評価し、60%以上で合格とする。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	調査されるという迷惑	宮本 常一、安溪 遊地	みずのわ出版

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
日常生活世界論	2 年次・後期	2 単位 (選択)	樫田美雄、好井裕明 (担当形態：オムニバス)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

【授業概要・目的】

現代社会の諸問題や文化などを考えていくうえで、社会学が理解しておくべき重要な世界がある。それが日常生活世界である。普段私たちがほぼ意識することなくあたりまに暮らしている日常の中にこそ、社会や他者との繋がり、文化などさまざまなテーマを考えることができるカギが満ちている。日常生活世界をどのように捉え、読み解くことができるだろうか。本授業では「常民」「世相」「民衆史」など日本民俗学の知見や「考現学」という営みをもつ意味などを紹介したうえで、A. シュッツの日常生活世界論を説明し、現代社会学の最先端であるエスノメソドロロジーとは何かを説明し、会話分析、相互行為分析、概念分析など最新の成果を分かりやすく説明する。受講生各自の問題関心をもとにフィールドワークを実践するうえで、必須の質的探究方法とその背後にある世界を理解することを目的とする。

【到達目標】

- ① 現代社会学の最先端であるエスノメソドロロジー・会話分析の理論や方法を理解する。
- ② その理論や方法を用いて、日常生活の諸現象を解説できるようになる。
- ③ 日常生活で人々がさまざまな方法を用いて現実をつくりあげていることを理解する。
- ④ 質的に社会を研究する基本とは何かを理解する。

【授業方法】

前半は、講義を中心として授業を進める。適宜、必要な映像を視聴し解説する。後半は、日常生活研究を 2 種類に分けて、体験学習を交えながら、エスノメソドロロジー・会話分析の学的発見の追体験をしてもらう。後半の前半では、会話や出会いという「普通の日常生活研究」から、会話における「順番取得システム」や「視線による聞き手性の表示」のような普遍性のある秩序を学んでもらう。後半の後半では、救急電話場面やインフォームド・コンセントのような「制度的場面における日常生活研究」から、専門分化した制度的場面ごとに相互行為の違ったパターンがあることを学んでもらう。

第 1 回から第 7 回までは好井、第 8 回から第 15 回までは樫田が担当する。

【授業計画】

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	「常民」「世相」という視点	柳田國男など日本民俗学から「常民」概念の意味や意義、「世相」という発想の革新性を説明する	事前：民俗学とは何かを調べておく 事後：柳田國男『明治大正史・世相篇』を読む
第 2 回	「民衆史」という視点	色川大吉が提唱した民衆史の内容を『昭和史世相篇』を中心に説明する	事前：前回の講義内容を確認しておく 事後：色川大吉『昭和史世相篇』を読む
第 3 回	『忘れられた日本人』を読む	宮本常一の傑作を解説し、「名もなき人々」の暮らしや生きられた現実を調べることの現在性を説明する	事前：前回の講義内容を確認しておく 事後：宮本常一『忘れられた日本人』を読む
第 4 回	「考現学」の先端性	今和次郎が提唱した「考現学」を紹介し、現在のマーケティングリサーチなどに繋がる革新性を説明する	事前：前回の講義内容を確認しておく 事後：今和次郎『考現学入門』を読む
第 5 回	シュッツの日常生活世界論・多元的現実論	現象学的社会学の基本を語るとともに、日常生活世界の構成を考えたシュッツの理論を紹介する	事前：教科書①第 1 章を読んでおく 事後：日常生活世界論を復習しておく
第 6 回	エスノメソドロロジーとは何か	H. ガーフィンケルが構想したエスノメソドロロジーとは何か。その基本をわかりやすく提示する	事前：教科書①第 3 章を読んでおく 事後：エスノメソドロロジーの基本を復習しておく
第 7 回	初期エスノメソドロロジーの衝撃力	初期エスノメソドロロジーのエスノグラフィックなエスノメソドロロジー研究の興味深い事例を紹介し意義を説明する	事前：教科書①第 2 章を読んでおく 事後：初期エスノメソドロロジー事例研究を復習しておく
第 8 回	日常生活の中の秩序 1	なぜ、落語は一人の演者で複数人の登場人物間の話題を語ることができるのか。なぜ、漫才やコントは自由自在に場面設定できるのか。アンジャッシュなどのネタから検討する	事前：図書館で落語や漫才の DVD を見ておく 事後：日本 EMCA 研究会の WEB サイトを訪問して逍遙する
第 9 回	日常生活の中の秩序 2	日常生活の中の秩序としての、「隣接対」と「優先構造」。市井の人々同士が、相互に社会を分析しあっている様子そのものの学問化を試みる	事前：図書館で落語や漫才の DVD を見ておく 事後：参考文献 1 で「隣接対」と「優先構造」の部分を読んでおく。
第 10 回	日常生活の中の秩序 3	「座席取りの社会学」（江原由美子）をもとに、身近な「秩序」を観察し、「自然的態度のエポケー」（シュッツ）を明らかにする	事前：参考文献 1 でエスノメソドロロジーとシュッツの関係を読んでおく 事後：「座席取りの社会学」の全部を読む

第11回	制度的場面の中の秩序 1	「ラジオスタジオ内コミュニケーション」や「教室内コミュニケーション」をもとに、「制度的場面の秩序」を理解する	事前：参考文献 1 で教育のエスノメソドロロジー関連部分を読んでおく 事後：『教育社会学研究』内のエスノメソドロロジー論文をいくつか読んでおく
第12回	制度的場面の中の秩序 2	「インフォームド・コンセント（医療的場面）」や「施設内コミュニケーション」に関わる「制度的場面の秩序」を考える	事前：参考文献 2 で医療と福祉のエスノメソドロロジー関連部分を読んでおく 事後：『保健医療社会学論集』内のエスノメソドロロジー論文をいくつか読んでおく
第13回	制度的場面の中の秩序 3	「障害者スポーツ」という「制度的場面の秩序」を精密に追いかけることで、「＜非障害者スポーツ＞としての障害者スポーツ」という発見が可能となることを確認する	事前：障害者スポーツの動画を YouTube で見ておく 事後：『スポーツ社会学研究』内のエスノメソドロロジー論文をいくつか読んでおく
第14回	観察事例の持ち寄り検討会	生活世界に探究の眼を向けたら、どんな発見ができるか実践する。データを持ち寄り、グループ・ワークをする	事前：自力で街歩きをして、自由にメモをとる 事後：レポート構想発表会向けの準備をする
第15回	観察事例の持ち寄り検討会から、レポート構想発表会へ	まとめ。「見られているが気づかれていない」ことであふれている「日常性」の事例を探して「レポート」にまとめる	事前：街歩き結果をレポートにまとめる 事後：レポート構想発表会向けの準備をレポート化する
定期試験は実施しない			

【評価方法（基準）】

前半 7 回終了後の課題レポート（50%）と後半 8 回終了後の課題レポート（50%）で評価し、60%以上で合格とする。

【教 材】

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書①	違和感から始まる社会学	好井裕明	光文社
参考書①	エスノメソドロロジー	前田・水川・岡田編	新曜社
参考書②	エスノメソドロロジーを学ぶ人のために	好井裕明・串田秀也編	世界思想社

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
犯罪・非行の社会学	3 年次・前期	2 単位 (選択)	竹中 祐二 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

〔授業概要・目的〕

辞書的な観点から理解すると、社会的に有害、あるいは危険である行為・現象を犯罪・非行として定義することができる。しかし、一面的な視点からだけでは、犯罪・非行の本質を理解することはできない。本授業では、社会との関わりに重点を置いて犯罪・非行現象にアプローチし、犯罪・非行を多面的に理解すると共に、犯罪・非行の取り扱い方／取り扱われ方を通して、私達の社会のあり様それ自体を考えていく。

〔到達目標〕

- ① 犯罪・非行の量的・質的変遷がどのようになっているか、またどういった社会背景によってもたらされたのかを、文章で説明することができる。
- ② 犯罪・非行の処遇について、制度の目的や量的・質的な現状を、的確にポイントを押さえた文章で説明することができる。
- ③ 逸脱行動論の観点から、社会的に犯罪・非行の発生ならびに予防のメカニズムを理解し、具体例に適用して文章で説明することができる。
- ④ 定義を含む、犯罪・非行に対する社会的反応について、どういった意義や問題があるのか、また時代に沿ってどのように変化したのかを、的確にポイントを押さえた文章で説明することができる。

〔授業方法〕

配付資料ならびにスライドを活用した講義を展開する。また、授業内容の理解を深めるために、小テストないし小レポートを実施する。その他、受講生の要望に応じて、グループディスカッションなどのワークを実施する場合もある。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	イントロダクション	犯罪学・社会学というそれぞれの大領域の中での位置づけを考える作業を通して、犯罪社会学の意義・目的について理解する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第 2 回	犯罪・非行に関する基礎知識①	主に公的統計を基にして、犯罪・非行に関わる法・政策・制度・機関などについての基礎知識を学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第 3 回	犯罪・非行に関する基礎知識②	社会学的な方法論を基にして、当該現象に接近・観察することの難しさについて学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第 4 回	犯罪・非行に関する基礎知識③	犯罪と非行の区別を意識しながら、処遇の制度の概要や意義、現状や課題について学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第 5 回	逸脱行動論を通じた犯罪・非行の理解①	シカゴ学派以前の犯罪学的研究について学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第 6 回	逸脱行動論を通じた犯罪・非行の理解②	シカゴ学派の成果に基づいて、「社会解体論」について学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第 7 回	逸脱行動論を通じた犯罪・非行の理解③	マクロ要因による影響を意識して、「緊張理論」について学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第 8 回	逸脱行動論を通じた犯罪・非行の理解④	相互作用論的視点を意識して、「学習理論」について学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第 9 回	逸脱行動論を通じた犯罪・非行の理解⑤	1960 年代に見られた刑事政策の転換を踏まえて、「コントロール理論」について学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第 10 回	逸脱行動論を通じた犯罪・非行の理解⑥	新しい逸脱行動論としての「環境犯罪学」について学習すると共に、「安全・安心」をめぐる現代的背景について学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第 11 回	逸脱行動論を通じた犯罪・非行の理解⑦	近時の重要課題とされる「立ち直り」をめぐる理論群について学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む

第12回	犯罪・非行への社会的反応①	各種逸脱行動論への理解を踏まえて、また犯罪・非行に接近・観察することの難しさとも合わせて、「ラベリング論」や逸脱の相互作用性について学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第13回	犯罪・非行への社会的反応②	犯罪報道と世論の関係を踏まえて、社会における犯罪・非行の位置づけを学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第14回	犯罪・非行への社会的反応③	刑事政策領域において等閑視されてきた存在である「被害者」の視点を意識して、社会における犯罪・非行の位置づけを学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
第15回	犯罪・非行への社会的反応④	これまでの学習内容を再帰的に捉え直すものとしての「批判的犯罪学」について学習する	事前：該当する教科書の範囲ならびに事前配付資料を読んでおく 事後：授業時に提示された小課題に取り組む
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

定期試験（55％）と複数回の小テストないしレポート（45％）で評価し、60％以上で合格とする。尚、グループディスカッションなどのワークを実施する場合、それに係る提出物は小レポートに含まれるものとする。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	犯罪・非行の社会学〔補訂版〕	岡邊健（編著）	有斐閣
参考書	別途、指示する		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
仕事とくらしの社会学	3 年次・前期	2 単位 (選択)	山本 圭三 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

〔授業概要・目的〕

現代社会は、日々変化を遂げている人々の仕事と暮らしはその社会の中で営まれるためそうした変化と無関係ではなく、むしろ生じた問題への対応を常に模索しなければならない。こうしたことを念頭に置きつつ、本授業では展開科目として仕事と暮らしに関する現実的な問題、(単純な「正解」のない) 個々人の価値観に基づいた判断を要する問題を主に取り上げる。専門展開科目として講義では、基礎科目において学んだ内容を前提としつつ、当該分野の新たな研究成果なども織り交ぜながらより発展的な議論を展開する。それらを通して、受講生が自身の問題として仕事と暮らしのありようを考え、変わりゆく社会の中での自分の生き方を見定めていけるようになることが、本授業の狙いである。

〔到達目標〕

- ① 仕事とライフスタイル・労働者の内的世界に関わる問題について理解している。
- ② 情報化・高齢化・グローバル化による働き方の変化について理解している。
- ③ 労働に関わる現象を批判的に考察することができる。

〔授業方法〕

授業は、(1) 資料に基づく講義形式、(2) 講義内容に関連する受講生相互のディスカッション、(3) 映像などを含む教材を用いた学習と学習内容の発表と教員からのフィードバックといった種々の方法を織り交ぜて実施する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	イントロダクション	本講義の狙い	事前：シラバスの理解 事後：資料をもとにした復習
第 2 回	仕事とライフスタイル 1	ワークライフバランス	事前：当該回の資料を読む 事後：資料をもとにした復習
第 3 回	仕事とライフスタイル 2	労働と余暇	事前：当該回の資料を読む 事後：資料をもとにした復習
第 4 回	仕事とライフスタイル 3	自営という働き方	事前：当該回の資料を読む 事後：資料をもとにした復習
第 5 回	働くものの内的世界 1	労働者意識	事前：当該回の資料を読む 事後：資料をもとにした復習
第 6 回	働くものの内的世界 2	感情労働	事前：当該回の資料を読む 事後：資料をもとにした復習
第 7 回	働くものの内的世界 3	労働者意識・感情労働とジェンダー	事前：当該回の資料を読む 事後：資料をもとにした復習
第 8 回	変化する社会と仕事のありよう 1	情報化と労働	事前：当該回の資料を読む 事後：資料をもとにした復習
第 9 回	変化する社会と仕事のありよう 2	高齢化と労働	事前：当該回の資料を読む 事後：資料をもとにした復習
第 10 回	変化する社会と仕事のありよう 3	グローバル化と労働	事前：当該回の資料を読む 事後：資料をもとにした復習
第 11 回	変化する社会と仕事のありよう 4	労働と家族	事前：当該回の資料を読む 事後：資料をもとにした復習
第 12 回	「仕事とくらし」の未来に向けて 1	労働における共同の契機	事前：当該回の資料を読む 事後：資料をもとにした復習
第 13 回	「仕事とくらし」の未来に向けて 2	くらしの豊かさと労働	事前：当該回の資料を読む 事後：資料をもとにした復習
第 14 回	「仕事とくらし」の未来に向けて 3	「よい仕事」とは	事前：当該回の資料を読む 事後：資料をもとにした復習
第 15 回	まとめ	職業人として生きるために	事前：当該回の資料を読む 事後：資料をもとにした復習
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

理解度を問う課題（40％）と定期試験など（60％）で評価し、60％以上で合格とする。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	別途、指示する		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
ジェロントロジー	3 年次・後期	2 単位 (選択)	小池 高史 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

【授業概要・目的】

ジェロントロジー（老年学）は、高齢社会において、重要性を増している学問分野である。本授業では、ジェロントロジーの基礎的な概念と現代の高齢社会の課題について学び、高齢者に対する理解を深めるとともに、自分の人生に対する備えを行っていくようになることを目的とする。講義内容は、社会学、社会老年学を中心に、医学・生理学、心理学、社会福祉学、経済学の内容にも及ぶ。学際的な学問としてのジェロントロジーの幅広い分野を学び、社会に出て多様な分野で活かせる高齢社会についての知識を身に付ける。

【到達目標】

- ① 高齢社会の背景と現状について説明できるようになる。
- ② 高齢者の健康の特徴について説明できるようになる。
- ③ 高齢者の経済活動の特徴について説明できるようになる。
- ④ 高齢者の社会関係の特徴について説明できるようになる。

【授業方法】

教科書、配付資料、パワーポイント、板書によって行う。授業の最後に毎回小テストを行う。

【授業計画】

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	ガイダンス・老年学とは	老年学の歴史や目的についての講義	事前：教科書の予習 事後：教科書の復習
第 2 回	高齢化の推移と正しい高齢者像	高齢化の原因、要介護、自立などについての講義	事前：教科書の予習 事後：教科書の復習
第 3 回	高齢者と経済	就業、消費活動、資産などについての講義	事前：教科書の予習 事後：教科書の復習
第 4 回	老化と高齢期の疾病	老年症候群、フレイル、生活機能などについての講義	事前：教科書の予習 事後：教科書の復習
第 5 回	高齢期の心理的健康	高齢期の心理、認知症、うつ病などについての講義	事前：教科書の予習 事後：教科書の復習
第 6 回	世代間の理解	世代効果と加齢効果、エイジズムなどについての講義	事前：教科書の予習 事後：教科書の復習
第 7 回	高齢期の社会関係	家族関係、社会的孤立、ジェンダーなどについての講義	事前：教科書の予習 事後：教科書の復習
第 8 回	高齢期の地域参加	地域デビュー、地域活動の課題などについての講義	事前：教科書の予習 事後：教科書の復習
第 9 回	老化予防	食生活、運動、ストレスなどについての講義	事前：教科書の予習 事後：教科書の復習
第 10 回	介護予防	低栄養、認知症の予防、口腔ケアなどについての講義	事前：教科書の予習 事後：教科書の復習
第 11 回	高齢期の安心な生活のために	居住環境、ライフプラン、保険などについての講義	事前：教科書の予習 事後：教科書の復習
第 12 回	高齢者の権利擁護	介護保険制度、虐待、詐欺被害、成年後見制度などについての講義	事前：教科書の予習 事後：教科書の復習
第 13 回	認知症介護	エンパワメント、アドボカシー、パーソンセンタードケアなどについての講義	事前：教科書の予習 事後：教科書の復習
第 14 回	認知症の人を地域で支えるために	地域包括ケアシステム、見守り活動などについての講義	事前：教科書の予習 事後：教科書の復習
第 15 回	まとめ	これまでのおさらいと総括	事前：教科書の予習 事後：教科書の復習
定期試験			

【評価方法（基準）】

定期試験（70%）と毎回の小テスト（30%）で評価し、60%以上で合格とする。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	ジェロントロジー検定公式テキスト・すぐわかる！ジェロントロジー	日本応用老年学会検定委員会	社会保険出版社
参考書	別途、指示する		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
ビデオ・エスノグラフィー	3 年次・前期	2 単位 (選択)	樫田 美雄 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

【授業概要・目的】

エスノメソドロジーは、1960 年代の米国西海岸に始源を持つ社会学の一潮流である。それは、人々の相互行為を会話や動作の連続体（シークエンス＝連鎖、が定訳＝）であると見なして詳細に検討する学問であり、録音録画機を用いた「会話分析」との組み合わせによって大きく発展した。現在では、医学・看護学・教育学・工学らの諸学問と連携して、大きな成果を上げている。本授業は、この新しい学問を精密化する方向に発展させた方法としての「ビデオ・エスノグラフィー」を講じるとともに演習していく。「ビデオ・エスノグラフィー」は、人々からの聞き取りや資料探索によって得たエスノグラフィックなデータを基盤とした上で、そこにビデオデータの会話分析的解明によって得られた知見を組み合わせることで、エスノメソドロジーの一層の発展を図ろうとする方法である。この「ビデオ・エスノグラフィー」の総合的教示と実践的訓練が本授業の目的である。

【到達目標】

- ① ビデオ・エスノグラフィーの上位概念である「エスノメソドロジー・会話分析」について概要を説明できるようになる。
- ② ビデオ・エスノグラフィーという方法に関して、「エスノグラフィックデータの活用法」の部分の概要を説明できるようになる。
- ③ ビデオ・エスノグラフィーという方法に関して、「ビデオデータの活用法」の部分の概要を説明できるようになる。
- ④ 既存／新規の動画を入手して、簡単なトランスクリプトを作成した上で、初歩的な社会的分析ができるようになる。

【授業方法】

本授業は、前半は講義形式で後半は実践演習形式で行う。授業の前半では、「ビデオ・エスノグラフィー」による研究成果を例示し、その意義を解説するが、「ビデオ・エスノグラフィー」の基盤には「エスノメソドロジー・会話分析」があるので、参与観察だけによる成果や、録音だけによる成果も紹介する。授業の後半では、動画データを記録したデータ DVD を貸与し、「トランスクリプト作成実践」と「分析実践」を行う。また同時並行で、受講者各自がオリジナルな動画データを採取して、分析することも支援する。

【授業計画】

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	導入 1：関心を持とう	ビデオを活用すると何が分かるのか 認知症のエスノメソドロジー（相互行為が可能とする秩序）	事前：シラバスの理解 事後：学習課題の学習
第 2 回	導入 2：敏感になろう	日常における「秩序」に敏感になろう！ 西阪仰ほかに注目 [http://www.ucilab.yrk.co.jp/interview02/02-2.html]	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 3 回	導入 3：観察しよう	日常生活のエスノメソドロジーおよび、座席取りの社会学 [会話の順番取得と「座席取りの社会学」（江原 由美子）]	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 4 回	エスノメソドロジー史 1	ガーフィンケルを中心に（○○らしさの研究） [陪審員裁判のエスノメソドロジー&アグネス論文]	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 5 回	エスノメソドロジー史 2	サックスを中心に（推論実行機械としての人間） [自殺防止電話のエスノメソドロジー&MCDs]	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 6 回	制度的場面研究 1	インフォームドコンセント場面のビデオ・エスノグラフィー [教科書 4 章 患者家族の関与の重要さと笑いの意味]	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 7 回	制度的場面研究 2	法的コミュニケーション場面のビデオ・エスノグラフィー [教科書 3 章 道具の非道具的利用（六法全書の価値）]	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 8 回	制度的場面研究 3	在宅療養場面のビデオ・エスノグラフィー [教科書 7 章 専門家を非専門家として利用する患者]	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 9 回	制度的場面研究 4	遠隔コミュニケーション場面のビデオ・エスノグラフィー [救急電話分析から「エコーショー8」活用実験まで]	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 10 回	転写文作成実践 1	転写文（トランスクリプト）をつくってみよう [ラジオスタジオデータを元に（息吸いの社会学）]	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 11 回	転写文作成実践 2	転写文（トランスクリプト）をつくってみよう [電話録音を元に（トピックの開始、転換、終了）]	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 12 回	データ分析実践 1	視線と動作付き転写文をつくって分析してみよう [アンジャッシュ「お天気お姉さんとの会話」隣接対]	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 13 回	データ分析実践 2	視線と動作付き転写文をつくって分析してみよう [オリジナルデータからの転写文作成と相互批評]	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 14 回	まとめと応用例提示 1	BLM（ブラック・ライブズ・マター）とエスノメソドロジー C.Goodwin の『プロフェッショナルビジョン』と M.リンチ	事前：学習範囲の予習 事後：学習課題の学習
第 15 回	まとめと応用例提示 2	日本の裁判のオンライン化とビデオ・エスノグラフィー 民事と家事と刑事の各裁判の改革状況とエスノメソドロジー	事前：学習範囲の予習 事後：定期レポートの作成

定期試験は実施しない

〔評価方法（基準）〕

定期レポート（70％）と毎回の授業中小レポート（30％）で評価し、60％以上で合格とする。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	ビデオ・エスノグラフィーの可能性（改訂版）	樫田美雄	晃洋書房
参考書	エスノメソドロジーを学ぶ人のために	好井裕明・串田秀也編	世界思想社
参考書	医療者教育のビデオ・エスノグラフィー	樫田美雄ほか編	晃洋書房

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
映画を読み解く社会学	3 年次・後期	2 単位 (選択)	好井 裕明 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

〔授業概要・目的〕

映画は大衆娯楽であり芸術としてもすでに長い歴史がある。社会学においても自らの議論に利用することも多いが、それらはあくまで議論への色付けであり“添え物”として「外から」の映画利用である。そうではなく映画それ自体を「内から」読み解く可能性を本授業では追求する。映画それ自体に焦点を当て、そこで展開される相互行為や人間関係、言葉のやり取りやカテゴリー化の様相などが映画の世界の中でどのような意味をもっているのかを解説する「内から」映画を読み解く社会学の可能性である。映画は確かに娯楽であり芸術だが、同時にさまざまな文化や問題への社会的想像力を鍛えることができる源泉である。映画は個人、他者、状況、関係、多様な社会問題を考えることができる魅力あふれる手がかりを与えてくれる。こうした社会的な映画体験は、常識的規範や世界理解を確認するだけの冗長で退屈な社会学テキストや専門書を何冊読んでも得られない驚きや直観、センスが得られる。本授業では、受講生各自が自らの問題関心に響き合うこうした社会的想像力、直感、センスを獲得することを目指す。

〔到達目標〕

- ① 映画がもつ社会的読み解きの可能性を感得する。
- ② 大衆文化や芸術としてだけでなく、社会的素材として映画の意味を理解する。
- ③ 映画の具体的なシーンから相互行為や人間関係、カテゴリー化の営みを解説できる力をつける。
- ④ 受講生各自の問題関心に響きあう形で「映画を読み解く社会学」を実践できる力をつける。

〔授業方法〕

講義と映画の視聴により授業を進める。本授業は映像作品をきちんと視聴し理解し味わうことが必須である。そのため毎回遅れることなく出席することが非常に重要である。授業計画には現段階での視聴作品をあげているが、今後作品の面白さなどを勘案し私の判断でテーマや作品を入れ替える可能性がある。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	社会的素材としての映画	映画やドキュメンタリーを社会的に読み解くとはどのような営みなのか。映像で描かれる「日常の政治」とは何かを説明する	事前：これまでの映画体験を思い起こしておく 事後：講義内容を整理し、復習しておく
第 2 回	ミュージカルから社会問題を読み解く①	『RENT』前半を視聴する。その後作品の解説とどのような社会的読み解きが可能かを説明する	事前：これまでに見たミュージカル映画を思い起こしておく 事後：視聴した映画内容を理解しておく
第 3 回	ミュージカルから社会問題を読み解く②	『RENT』後半を視聴する。その後課題①を提示し説明する	事前：前回視聴した映画内容を思い出しておく 事後：課題①を作成する
第 4 回	多様な性を生きる人のリアルを読み解く①	『彼らが本気で編むときは、』前半を視聴する。その後作品の解説とどのような社会的読み解きが可能かを説明する	事前：性的多様性とは何かを考えておく 事後：視聴した映画内容を理解しておく
第 5 回	多様な性を生きる人のリアルを読み解く②	『彼らが本気で編むときは、』後半を視聴する。その後課題②を提示し説明する	事前：前回視聴した映画内容を思い出しておく 事後：課題②を作成する
第 6 回	管理社会の問題性を読み解く①	『未来世紀ブラジル』前半を視聴する。その後作品の解説とどのような社会的読み解きが可能かを説明する	事前：あなたが好きな SF 映画を思い起こしておく 事後：視聴した映画内容を理解しておく
第 7 回	管理社会の問題性を読み解く②	『未来世紀ブラジル』後半を視聴する。その後課題③を提示し説明する	事前：前回視聴した映画内容を思い出しておく 事後：課題③を作成する
第 8 回	障害ある人の現実や人生を読み解く①	『ジョゼと虎と魚たち』前半を視聴する。その後作品の解説とどのような社会的読み解きが可能かを説明する	事前：障害者問題とは何かを考えておく 事後：視聴した映画内容を理解しておく
第 9 回	障害ある人の現実や人生を読み解く②	『ジョゼと虎と魚たち』後半を視聴する。その後課題④を提示し説明する	事前：前回視聴した映画内容を思い出しておく 事後：課題④を作成する
第 10 回	被爆体験を読み解く①	『父と暮せば』前半を視聴する。その後作品の解説とどのような社会的読み解きが可能かを説明する	事前：被爆問題で理解していることを整理しておく 事後：視聴した映画内容を理解しておく
第 11 回	被爆体験を読み解く②	『父と暮せば』後半を視聴する。その後課題⑤を提示し説明する	事前：前回視聴した映画内容を思い出しておく 事後：課題⑤を作成する
第 12 回	民族問題を読み解く①	『GO』前半を視聴する。その後作品の解説とどのような社会的読み解きが可能かを説明する	事前：在日朝鮮人問題で理解していることを整理していく 事後：視聴した映画内容を理解しておく

第13回	民族問題を読み解く②	『GO』後半を視聴する。その後課題⑥を提示し説明する	事前：前回視聴した映画内容を思い出しておく 事後：課題⑥を作成する
第14回	ジェンダー、家族を読み解く①	『ハッシュ！』前半を視聴する。その後作品の解説とどのような社会的読み解きが可能かを説明する	事前：家族やジェンダーで理解していることを整理しておく 事後：視聴した映画内容を理解しておく
第15回	ジェンダー、家族を読み解く②	『ハッシュ！』後半を視聴する。その後課題⑦を提示し説明する	事前：前回視聴した映画内容を思い出しておく 事後：課題⑦を作成する
定期試験は実施しない			

〔評価方法（基準）〕

視聴した映像作品の読み解き課題（1000～1200字）7回で評価し、60%以上で合格とする。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	別途、指示する		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
経済学入門	2 年次・前期	2 単位 (選択)	郭 進 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「社会学、経済学」 ・「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		

[授業概要・目的]

この講義は経済学の基礎を学ぶことによって、様々な経済現象を自ら分析できることを目的とする。前半では、消費者はどのように考えて消費行動をするのか、企業はどのようにして生産量を決めるのか、といった消費者や企業の行動を中心に、需要と供給、そして価格決定のメカニズムを学習する。後半では、マクロ経済学の基礎、とりわけ、国民所得、利子率、物価水準等主要なマクロ経済変数がどのように決定され、どのように変動するかについて学習する。

[到達目標]

日本経済と世界経済は大きく変動している中、経済学的重要性を実感させることが大切である。経済学の基礎を習得するため、ミクロ経済学とマクロ経済学の考え方を身につけることを目標とする。具体的な目標は、経済学の専門用語を理解すること、経済の仕組みを理解すること、さらに様々な市場のメカニズムについて理解することである。

[授業方法]

授業は基本的に、**Review**（前回の復習と練習問題の解説）、本日のポイント、内容（ポイントについて解説）、練習問題（内容に対応する課題）の形式で進めていく。さらに、経済学における重要な諸概念の理解を深めるため、数値例を用いた例題を解きながら講義を進める。

[授業計画]

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	経済学への招待	経済学はどのような学問か、経済学を学ぶ意義について解説する	授業アンケートを実施
第 2 回	市場における需要と供給	市場の概念及び需要と供給の法則について解説する	授業内容に関する課題を配布
第 3 回	価格の弾力性	需要の価格弾力性と供給の価格弾力性について解説する	授業内容に関する課題を配布
第 4 回	完全競争市場	完全競争市場で価格の決定と調整について解説する	授業内容に関する課題を配布
第 5 回	消費者の行動	消費者の予算制約と効用最大化について解説する	授業内容に関する課題を配布
第 6 回	生産の費用	企業の生産関数や様々な費用について解説する	授業内容に関する課題を配布
第 7 回	企業の行動	企業の利潤最大化と供給曲線について解説する	授業内容に関する課題を配布
第 8 回	市場の効率性	消費者余剰・生産者余剰・市場の効率性について解説する	授業内容に関する課題を配布
第 9 回	国内総生産に関する基礎知識	国内総生産の計算方法と三面等価の原則について解説する	授業内容に関する課題を配布
第 10 回	有効需要と乗数メカニズム	有効需要原理と乗数効果について解説する	授業内容に関する課題を配布
第 11 回	財市場の均衡と国民所得の決定	均衡国民所得の決定及び完全雇用国民所得について解説する	授業内容に関する課題を配布
第 12 回	中央銀行と貨幣の供給	中央銀行の機能と貨幣供給について解説する	授業内容に関する課題を配布
第 13 回	貨幣市場の均衡と利子率の決定	貨幣市場の均衡と利子率の決定について解説する	授業内容に関する課題を配布
第 14 回	IS－LM 分析（Ⅰ）	財市場と貨幣市場との関係を考える IS-LM 分析について解説する	授業内容に関する課題を配布
第 15 回	IS－LM 分析（Ⅱ）	IS-LM 分析に基づく財政政策と金融政策について解説する	授業内容に関する課題を配布
定期試験			

[評価方法（基準）]

課題提出 20%、小テスト 30%、期末テスト 50%の割合で総合的に評価する。授業態度などによる平常点も考慮する。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	特に指定なし、レジュメを配布する		
参考書	入門経済学 [第 4 版]	伊藤 元重	日本評論社

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
思春期・若者論	3 年次・前期	2 単位 (選択)	竹端 佑介 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		

〔授業概要・目的〕

多様な現代にあって、人の生き方もさまざまと言われながらも、どこか“生きにくさ”を感じることはないだろうか。この生きにくさは果たして何であろうか。「若者」や「大人」が抱える生きにくさの問題とは何か。本授業では、主に「若者」を心理・社会学的視点から捉えた場合、どのような諸問題があるかを考える。すなわち、「若者」が抱える心身の諸問題について考え、現代社会の生きにくさについて理解を深めること、そして、社会における自分自身について見つけ、自分の良さを発見していけることを目的とする。

〔到達目標〕

- ① 「若者」を心理発達の捉え、理解することができる。
- ② 現代社会における若者が抱える心身の問題についての知識を得ることができる。
- ③ 「自己分析」に関する知識を得ることができる。
- ④ 自己の強みや良さを分析できる。

〔授業方法〕

授業はパワーポイントにて行い、文字情報および静止画・動画の資料などを提示する講義形式となるが、単に知識の提供だけでなく、さまざまなワークを通して他者と関わることが求められる。そのため、本授業においては、事前学習では授業テーマに関するキーワードを調べ、前週のノートを復習すること、事後学習では授業で提示された資料や紹介された図書をもとに自身のノートに加筆することなどの主体的学習が必要となる。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第1回	現代の若者問題とは	本授業の概要および授業計画・方法についての説明、現代における「若者」の“問題”を考える	事前：シラバス確認と理解 事後：授業資料をもとに内容の復習
第2回	ライフサイクルについて	人間の発達段階と課題を考え、思春期、青年期の「アイデンティティ」について理解する	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第3回	ストレスと人間関係	ストレスとは何かを考えると共に、人間関係におけるストレスの問題について考え、議論する	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第4回	対人関係①	「若者」が他者との関わることにについて議論し、考える	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第5回	対人関係②	他者との関わりから、不安、恐怖へ変化することについて考え、理解を深める	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第6回	自己理解①	自己を成長させるとは何かを議論しながら、自分自身をどう理解するかを考える	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第7回	自己理解②	「性格」について考え、心理学的視点から自身の性格を分析する	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第8回	劣等感①	コンプレックスとは何かを考え、議論する	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第9回	劣等感②	コンプレックスと劣等感との違いを考え、議論する	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第10回	劣等感③	対人関係における自己の在り方を今一度理解する	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第11回	集団の中における自分	「信頼」とは何かを考え、議論する	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第12回	若者と恋愛①	人はなぜ、恋をするのか、若者の恋愛について考え、議論する	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第13回	若者と恋愛②	恋愛と恋愛依存との違いを考え、議論する	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第14回	文化と心身の問題	摂食障害の事例から文化的要因について考え、社会が及ぼす心身の影響について理解する	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第15回	現代の「若者」における諸問題の再考	授業のまとめ	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

提示した課題（60％）と定期試験（40％）で評価し、60％以上を合格とする。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	嫌われる勇気	岸見一郎・古賀史健	ダイヤモンド社
参考書	健康心理学・入門 健康なこころ・身体・社会づくり	島居哲志他編	有斐閣アルマ

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
差別の社会学	3 年次・前期	2 単位 (選択)	好井 裕明 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		

〔授業概要・目的〕

現代日本社会においては、男性同性愛、女性同性愛、トランスジェンダーなど性的マイノリティの問題、障害者問題、ジェンダーに関わる差別、在日朝鮮人問題、在日外国人問題、部落差別問題、外見による差別や排除など、さまざまな差別問題が起きている。本授業では、まず社会学的発想のもとで、差別とはどのような現象であり、どのように定義され、どのように現象自体を解釈し分析できるのかを、現象学的社会学やエスノメソドロロジーという現代社会学の最先端を用いて講義する。その後、個別の差別問題についても講義しながら現状を説明し、差別を考えることが他者理解であり、他者理解がいかに困難であるのかを実感しつつも他者と繋がりを続けようとする営みの中にこそ「差別を考える文化」創造の契機があり、私たち自身がもつ「差別する可能性」と向き合えることができることを考えていく。

〔到達目標〕

- ① 社会学的現象として差別を理解する。
- ② 日常さまざまな場面で実践している「カテゴリー化」が持つ問題性を理解する。
- ③ 自らがもつ「差別する可能性」と向き合える余裕を創造する。
- ④ 「差別しない身体やこころ」をどうすれば創造できるかを考える日常を創造する。

〔授業方法〕

基本的には必要事項などを板書しながら、講義形式で進めます。ただ個々の差別問題をより身近な出来事として実感してもらうために、講義中に数回、関連する映画やドキュメンタリーなどの映像を視聴し、映像を解説する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	差別とは何か	差別とはどのような現象をいうのだろうか。日常的現象としての差別を説明する	事前：これまで受けてきた人権教育について思い出しておく 事後：教科書①第 1 章を読む
第 2 回	差別を考える二つの基本	差別—被差別の関係性と「差別する可能性」という、社会的に差別を考える二つの基本的な見方を説明する	事前：講義内容を反芻し教科書①第 1 章を今一度読み直す 事後：受講生各自の日常にある「差別する可能性」について考えてみる
第 3 回	カテゴリー化という問題	他者のカテゴリー化は日常私たちが生きていくうえで必須であり必然である。ただこのカテゴリー化が差別を生み出す源であることを説明する	事前：差別を考えることができる映画やアニメを考えておく 事後：教科書②第 3 章を読む
第 4 回	人間の見方について	人間に序列をつけられるのだろうか。能力主義や業績主義、属性主義など差別に繋がりが得る人間の見方について説明する	事前：世の中で「特別」とされる人間について考えていく 事後：教科書②第 4 章を読む（1 時間）
第 5 回	ジェンダーをめぐる知と規範	「女らしさ」「男らしさ」は本当に必要なのだろうか。性差別を維持しているジェンダーをめぐる知や規範を説明する	事前：参考書第 3 章を読み、性差別とは何かを考える 事後：教科書①第 4 章、教科書②第 5 章を読む
第 6 回	多様な性の在り方と「生きづらさ」：男性同性愛	ゲイスタディーズとはどのような実践なのだろうか。男性同性愛の社会学を説明する	事前：男性同性愛について理解していることを整理しておく 事後：教科書①第 7 章を読む
第 7 回	多様な性の在り方と「生きづらさ」：女性同性愛	レズビアンスタディーズとはどのような実践なのだろうか。女性同性愛の「見えにくさ」を考える	事前：女性同性愛について理解していることを整理しておく 事後：教科書①第 8 章を読む
第 8 回	障害者問題を考える二つの基本①：ノーマライゼーション	障害者問題を考える世界的流れの基本の一つが「ノーマライゼーション（「あたりまえ」の社会づくり）」である。この思想と実践について説明する。	事前：現在社会にどのようなバリアフリーが実現できているのかを整理しておく 事後：教科書①第 9 章を読む
第 9 回	障害者問題を考える二つの基本②：メインストリーミング	障害者問題を考える世界的流れの基本の一つが「メインストリーミング（社会の主要な流れの中へ）」である。当事者がどのような運動してきたのか、その歴史と論理を説明する	事前：障害者の自立生活について知っていることを整理しておく 事後：講義内容を整理し理解する
第 10 回	障害者の自立生活を考える	障害者の自立生活をめぐるドキュメンタリーを視聴し、当事者たちの「生きる意志」と「生きる環境」の落差を理解する	事前：教科書②第 6 章を読む 事後：ドキュメンタリーを見て感じ考えたことを 1000 字でまとめる

第11回	異なる人種・民族の人々との共生	在日朝鮮人問題、在日外国人問題について説明し、異なる言語や文化をもつ他者との共生を考える	事前：教科書①第3章・第11章を読む 事後：教科書②第7章を読む
第12回	外見をめぐる差別について：ユニークフェイスと見た目問題	外見に対する差別や排除とは何か。「ユニークフェイス」という当事者運動の意義や限界、「見た目問題」などを説明し、他者を外見で判断することの危うさを考える	事前：教科書②第8章を読む 事後：教科書①第10章を読む
第13回	日本社会固有の差別を考える：部落差別問題	日本社会には部落差別が存在する。部落差別とは何だろうか。歴史や運動の変遷を説明し、今考えるべきことを示す	事前：教科書②第4章を今一度読む 事後：教科書①第2章を読む
第14回	社会啓発・市民啓発のどこが問題なのか	部落差別問題、在日朝鮮人問題などをとりあげたかつての市民啓発用ドキュメンタリーを視聴し、どのような意味や問題があるのかを説明する	事前：教科書③第4章を読む 事後：教科書③第3章を読む
第15回	まとめ：「差別を考える文化」の創造へ	道徳や倫理としての反差別だけでなく、今後「ちがひ」がある他者と共に生きていくうえで「差別を考える文化」の創造が必須であることを説明する	事前：教科書②第9章を読む 事後：これまでの授業内容を今一度整理し理解する
定期試験は実施しない			

〔評価方法（基準）〕

授業中に提示する課題レポート（1000字程度）5回で評価し、60%以上で合格とする。いつ課題を提示するのかは事前に告知はしない。そのため毎回授業に出席することは必須となる。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書①	排除と差別の社会学（新版）	好井裕明編	有斐閣
教科書②	他者を感じる社会学	好井裕明	筑摩書房
教科書③	差別原論	好井裕明	平凡社
参考書	差別の現在	好井裕明	平凡社

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
身体とコミュニケーション	3 年次・後期	2 単位 (選択)	堀田 裕子 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		

【授業概要・目的】

いつ・どこで・どんな人が・どのようにメッセージを伝えるかによって、受け手へのその伝わり方は異なることがあるように、非言語の諸要素はコミュニケーションの基盤として位置づけられる。本授業では、非言語の中でも身体に注目し、さまざまな角度からコミュニケーションにおけるその働きや、その性質ゆえに生じる諸問題について学習する。具体的には、自己にとつての身体の意義にはじまり、身体それ自体あるいは身体装飾に向けられるまなざしとコミュニケーションにおける意味、ジェスチャや視線、他者との距離や接触などといった動的身体の諸相について学ぶ。また、身体およびその動きは、意図せずあるいは本意に解読されたり、意識として働いたりする性質ももつということの理解も重要である。さまざまな事例に基づくこれらの学びによって、コミュニケーションに見出せる身体の客体性（社会性）および主体性を理解することを目的としている。

【到達目標】

- ① コミュニケーションにおける身体の働きについての知識を得ることができる。
- ② 差別や排除につながることもある、身体と身体装飾の記号性についての知識を得ることができる。
- ③ 身体それ自体がコミュニケーションの中で主体的に働く性質に関する知識を得ることができる。
- ④ これらの知識をもとに、実際のコミュニケーション場面における身体およびその動きの意味について自分自身で考えることができる。

【授業方法】

配付資料（テキスト兼ノートとして使用）、パワーポイントによって行う。授業内容の理解を深めるために、授業内で課題を実施し、次の回において解説・総評・質疑応答を行う。事前学習課題としての「配付資料」は、読んできてもらうものや用語の意味を調べてきてもらうものを含む。事後学習課題としての「確認シート」は、毎回の授業の理解度を自己確認するために利用してもらう。

【授業計画】

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第1回	イントロダクションー身体とコミュニケーション	ガイダンスと授業計画・授業方法の説明、コミュニケーションの構造、コミュニケーションにおける記号の働き、記号としての身体の諸相	事前：シラバスの閲読 事後：確認シートへの取り組み
第2回	こころ・からだ・わたし (1) 身心関係	わたしとからだの関係、こころとからだの関係（心身二元論と心身一元論）	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第3回	こころ・からだ・わたし (2) 社会化と身体	社会化以前の「生きられる身体」と間身体性、社会化における身体の働き	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第4回	身体変工・衣服・ファッション (1) 記号としての身体変工・衣服	身体変工・衣服の記号性と社会性、身体変工の意義、痛みの意味、身体変工・衣服のもつさまざまな両義性	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第5回	身体変工・衣服・ファッション (2) ジェンダーの観点	女性と男性に特有の身体変工・衣服およびその記号性と社会性、コミュニケーションにおけるファッションの働き、ファッションと性、衣服からの身体あるいは性の解放？	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第6回	身体変工・衣服・ファッション (3) ファッションとしての身体変工	ファッションとしての身体変工、イレズミ（タトゥー）を考える【課題の実施（20分）】	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第7回	ノンバーバル・ランゲージ (1) 周辺言語と表情	【課題の解説など（15分）】コミュニケーションにおける周辺言語（パラランゲージ）・沈黙と間合い・表情（視線など）とそれらの社会性	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第8回	ノンバーバル・ランゲージ (2) ジェスチャと動作	意識的動作と無意識的動作、動作（表象動作・例示動作・感情表出動作・発話調整動作・適応動作）、「聞き手性（受け手性）」の観点	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第9回	ノンバーバル・ランゲージ (3) 対人空間と身体接触	個人的なわばりと社会的なわばり、プロクセミクスにおける対人空間の諸類型とその社会性、身体接触【課題の実施（20分）】	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第10回	顔と外見 (1) 外見と内面	【課題の解説など（15分）】化粧の歴史の変遷と美意識の変化、身体資本の観点、外見と内面は関係するのか、観相学を考える	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第11回	顔と外見 (2) 外見差別を考える	醜形恐怖、「ユニークフェイス」と顔学の視点、若さと老い、肥満と痩せ、シミュラクルとしての身体	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み

第12回	意識としての身体(1) 日常的コミュニケーション場面を読む	相互行為分析という手法、身体の主体性、ハビトゥスとコミュニケーション	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第13回	意識としての身体(2) ディスココミュニケーション	発話もしくは動作に困難を伴う人のコミュニケーション、相互行為分析を通じた他者理解の事例	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第14回	意識としての身体(3) モノを介したコミュニケーション	モノと身体との関係、メディア・コミュニケーション、CSCW(Computer Supported Cooperative Work)の事例【課題の実施(20分)】	事前：配付資料の閲読 事後：確認シートへの取り組み
第15回	あなたとわたしの「あいだ」―間身体性	【課題の解説など(15分)】自他の「あいだ」と共感、授業のまとめ、質疑応答(30分)	事前：配付資料の閲読、質問事項の整理 事後：確認シートへの取り組み
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

定期試験（70％）と全3回の課題（30％）で評価し、60％以上で合格とする。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	講義内容に関するプリント（書き込み式）を配付		
参考書	非言語（ノンバーバル）コミュニケーション	マジョリー・F.ヴァーガス	新潮社
参考書	社会的身体―ハビトゥス・アイデンティティ・欲望	ニック・クロスリー	新泉社
参考書	意識としての身体―在宅療養現場のビデオ・エスノグラフィー	堀田裕子	東信堂

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
哲学Ⅰ	2 年次・前期	2 単位 (必修(中学校)) (選択(高等学校))	有馬 善一 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		

〔授業概要・目的〕

哲学的な知の営みは、他の学問と比較してどのような独自性、特徴を持つであろうか。本講義では哲学の本質は、徹底的かつ厳密に問うことであることを明らかにしつつ、具体的にいくつかの哲学的問題を取り上げ、受講生と共に考えていく。哲学Ⅰでは、人間存在と知識を中心テーマとする。

〔到達目標〕

哲学的に考えるとはどういうことであるかを理解する。
授業で取り上げる個々の哲学・倫理学のテーマに関して、自分なりによく考える。さらに、それを論理的に文章にまとめる力をつける。

〔授業方法〕

- ・事前に次の授業を理解する上でのキーワードをいくつか提示するので、受講者はそれについて調べてくること。
- ・授業は PPT を元に行うので、受講生は Moodle からダウンロードしておくこと。
- ・授業内でディスカッションの時間を設ける。
- ・授業後は取り上げた問題についての哲学者の議論を資料として配付する。受講生は資料を読んだ上で課題に答えること。
- ・一つのテーマが終わった後にレポート課題を出す。
- ・提出された課題に対しては授業の中でコメント、ないしは、フィードバックをする。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	講義への導入	哲学とは何か 古代ギリシアにおける哲学 現代哲学の諸問題	授業をまとめる
第 2 回	知識について (1)	私たちは何を知っているだろうか 常識について 確実性をめぐる科学と哲学の違い (ホワイトヘッド)	キーワードについての予習 配付資料の課題に解答
第 3 回	知識について (2)	哲学的な懐疑について 古代の懐疑論 方法的懐疑 (デカルト)	キーワードについての予習 配付資料の課題に解答
第 4 回	知識について (3)	アプリオリとアポステオリ カントの認識論 (コペルニクスの転回)	キーワードについての予習 配付資料の課題に解答
第 5 回	知識について (4)	現象学の方法とその限界 (フッサール、ハイデガー、M・ポンティ) 再び、哲学と科学の対決	キーワードについての予習 第 1 回レポート課題
第 6 回	私の存在について (1)	人間に対するさまざまなアプローチ 「私」とは何か 近代哲学における自我の問題 (デカルトとカント)	キーワードについての予習 配付資料の課題に解答
第 7 回	私の存在について (2)	「脳」としての人間 心脳問題について (心の哲学)	キーワードについての予習 配付資料の課題に解答
第 8 回	私の存在について (3)	独在性をめぐる問題 (永井均)	キーワードについての予習 配付資料の課題に解答
第 9 回	私の存在について (4)	「私が死ぬ」ということについて (ヤスパース、ハイデガー)	キーワードについての予習 第 2 回レポート課題
第 10 回	人間について (1)	「生き物」としての人間 進化論と人間観の「革命」(ダメット)	キーワードについての予習 配付資料の課題に解答
第 11 回	人間について (2)	脳と心をめぐる問題 (心の哲学) 脳科学の「成果」に対する批判的検討	キーワードについての予習 配付資料の課題に解答
第 12 回	人間について (3)	人間と動物の「境界」について 動物の共感、自己認識、創発的行動	キーワードについての予習 第 3 回レポート課題
第 13 回	身体について (1)	身体としての人間 (M・ポンティ、市川浩)	キーワードについての予習 配付資料の課題に解答
第 14 回	身体について (2)	アンドロイドとロボットの可能性をめぐって	キーワードについての予習 第 4 回レポート課題
第 15 回	講義のまとめ		授業をまとめる
定期試験は実施しない			

〔評価方法（基準）〕

授業後の配付資料の課題、ディスカッションの報告などの平常点（40％）と 4 回のレポート課題（60％）

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	なし		
参考書	哲学ってどんなこと？	ネーゲル著 岡本・若松訳	昭和堂
参考書	子供ための哲学	永井均	講談社現代新書

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
哲学Ⅱ	2 年次・後期	2 単位 (必修(中学校)) (選択(高等学校))	有馬 善一 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学」 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		

〔授業概要・目的〕

哲学的な知の営みは、他の学問と比較してどのような独自性、特徴を持つであろうか。本講義では哲学の本質は、徹底のかつ厳密に問うことであることを明らかにしつつ、具体的にいくつかの哲学的問題を取り上げ、受講生と共に考えていく。哲学Ⅱでは、世界、自由、正義、言語、美といった人間を取り巻く事象をテーマとする。

〔到達目標〕

哲学的に考えるとはどういうことであるかを理解する。
授業で取り上げる個々の哲学・倫理学のテーマに関して、自分なりによく考える。さらに、それを論理的に文章にまとめる力をつける。

〔授業方法〕

- ・事前に次の授業を理解する上でのキーワードをいくつか提示するので、受講者はそれについて調べてくること。
- ・授業は PPT を元に行うので、受講生は Moodle からダウンロードしておくこと。
- ・授業内でディスカッションの時間を設ける。
- ・授業後は取り上げた問題についての哲学者の議論を資料として配付する。受講生は資料を読んだ上で課題に答えること。
- ・一つのテーマが終わった後にレポート課題を出す。
- ・提出された課題に対しては授業の中でコメント、ないしは、フィードバックをする。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	講義への導入	哲学とは何か 古代ギリシアにおける哲学 現代哲学の諸問題	授業をまとめる
第 2 回	世界について (1)	宇宙（物理学）と世界（哲学）との差異と同一 世界は実在するか	キーワードについての予習 配付資料の課題に解答
第 3 回	世界について (2)	世界と時間の問題 過去や未来の存在について	キーワードについての予習 配付資料の課題に解答
第 4 回	世界について (3)	生活世界と歴史の問題（フッサール、ハイデガー、シュッツ）	キーワードについての予習 第 1 回レポート課題
第 5 回	自由と因果性をめぐって (1)	自由と神をめぐる問題（スピノザ）	キーワードについての予習 配付資料の課題に解答
第 6 回	自由と因果性をめぐって (2)	決定論と自由意志 カントのアンチノミー（二律背反）	キーワードについての予習 配付資料の課題に解答
第 7 回	自由と因果性をめぐって (3)	実存と自由（サルトル） 自由と運命	キーワードについての予習 第 2 回レポート課題
第 8 回	正義と悪について (1)	正義をめぐる 3 つの立場（サンデル）	キーワードについての予習 配付資料の課題に解答
第 9 回	正義と悪について (2)	悪とは何か 悪と自由	キーワードについての予習 第 3 回レポート課題
第 10 回	言語について (1)	言語に対する様々な見方 個物と普遍をめぐる問題	キーワードについての予習 配付資料の課題に解答
第 11 回	言語について (2)	コミュニケーションと言語 言語と言語以前	キーワードについての予習 第 4 回レポートかだし
第 12 回	美について (1)	美についての様々な見方 アイデアとしての美（プラトン）	キーワードについての予習 配付資料の課題に解答
第 13 回	美について (2)	自然美と芸術美（カント）	キーワードについての予習 配付資料の課題に解答
第 14 回	美について (3)	美と世界制作（グッドマン）	キーワードについての予習 第 5 回レポート課題
第 15 回	講義のまとめ		授業をまとめる

定期試験は実施しない

〔評価方法（基準）〕

授業後の配付資料の課題、ディスカッションの報告などの平常点（40％）と 4 回のレポート課題（60％）

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	なし		
参考書	私・今・そして神	永井均	講談社現代新書
参考書	これからの「正義」の話をしよう	サンデル著 鬼澤訳	ハヤカワ文庫
参考書	哲学ってどんなこと？	ネーゲル著 岡本・若松訳	昭和堂

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
社会科教育法Ⅰ（地歴分野）	3 年次・前期	2 単位 （必修）	田中 曜次 （担当形態：単独）
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

〔授業概要・目的〕

本授業では、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業等の作業を組み込みながら、地理的分野・歴史的分野を中心とした「社会認識」形成をめざす実践的な授業づくりを行う。その過程で、社会科基礎学習指導案をさらにレベルアップする形で、本学標準学習指導案を作成するための演習を行う。

〔到達目標〕

- 1. 知識分類および、知識分類をもとにした教科書分析・授業分析等を通して、より質の高い授業をつくる必要性と可能性を知る。
- 2. 地理的・歴史的分野を中心に、「社会認識」形成をめざす授業のための授業や評価が効果的に作成できる。
- 3. 「1」「2」に基づいた実際的な単元展開や具体的な学習指導が構想できる。

〔授業方法〕

授業実践の探究、検討（第 9.～12 回）では協働的な作業学習を行う。授業設計（第 13. 14 回）においては簡単な模擬授業とその相互評価、振り返りを行う。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	オリエンテーション、社会科について	あゆみから考える社会科のめざすもの（1） （昭和の社会科教育・地理教育）	配布資料の確認
第 2 回	社会科・地理歴史科の歴史、目標	あゆみから考える社会科のめざすもの（2） （令和以後の社会科教育・地理教育）	配布資料の確認
第 3 回	社会科の内容（1）	学習指導要領に基づく学習内容の確認と解説 地理的分野の内容 小学校や高等学校との違い	学習指導要領を読む
第 4 回	社会科の内容（2）	学習指導要領に基づく学習内容の確認と解説 今求められている地理学習	学習指導要領を読む
第 5 回	社会科の内容（3）	学習指導要領に基づく学習内容の確認と解説 歴史的分野の内容 小学校や高等学校との違い	学習指導要領を読む
第 6 回	社会科の内容（4）	学習指導要領に基づく学習内容の確認と解説 今求められている歴史学習	学習指導要領を読む
第 7 回	授業の設計(1)	授業の設計（1） 授業づくりのための「問い」と「知識の分類」「目標」と「評価」	中学校の教科書の内容の整理
第 8 回	授業の設計(2)	授業の設計（2） 社会を知るための授業と学習指導案の作成	中学校の教科書の内容の整理
第 9 回	授業研究(1)	（教室で社会を） グループでの探究活動 地理的・歴史的な見方・考え方をもとに「考察する」授業	授業実践の調査、整理
第 10 回	授業研究(2)	（教室から社会へ） グループでの探究活動 地理的・歴史的な観察や調査とその結果を、情報通信技術を活用して発信する授業	授業実践の調査、整理
第 11 回	授業研究(3)	（教室に社会を） グループでの探究活動 地理的・歴史的な事象を、情報通信技術を活用してシミュレーションする授業	授業実践の調査、整理
第 12 回	授業研究(4)	（教室に社会を） グループでの探究活動 今日的な地理的・歴史的課題について議論・構想する授業	授業実践の調査、整理
第 13 回	模擬授業(1)	研究した授業実践を各自が実践する（簡単な模擬授業）	学習指導案の作成 模擬授業の準備
第 14 回	模擬授業(2)	相互評価と振り返り	模擬授業の整理
第 15 回	まとめ	中等社会科教育Ⅰ全体のまとめと振り返り	全体の振り返り
定期試験は実施しない			

〔評価方法（基準）〕

グループ作業の成果等	40%	授業・グループ討議・模擬授業などに積極的に参加しているか。
中間レポート	20%	授業設計 目標と展開を意識した授業設計案の作成
期末レポート	40%	学習指導案などの作成 授業を通して獲得した内容など

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	『中学校学習指導要領解説（社会編）』	文部科学省編	東洋館出版社（2018/3/1）

参考書	『高等学校学習指導要領 解説 地理歴史編』 『社会科教育のルネサンス』 その他、参考書は授業時に紹介するとともに、必要に応じてプリント資料を配布する。 "	文部科学省編 原田智仁編	東洋館出版社（2019/4/19） 保育出版社（2016）
-----	--	---------------------	--------------------------------------

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
社会科教育法Ⅱ（地歴分野）	3 年次・後期	2 単位 （必修）	田中 曜次 （担当形態：単独）
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

〔授業概要・目的〕

中等社会科・地理歴史科教育の応用として、中学校、高校における社会科、地理歴史科の目標・内容についての理解を深めるとともに、授業の設計・実施・評価・改善に関する方法や手順を実践的に学ぶ。

そのためにまず、新学習指導要領が求める新しい地理・歴史教育に関する、資質・能力、見方・考え方の捉え方と、社会系教科教育全体に関わる理念や方法論を学ぶ。次いで、地理・歴史的内容を中心とする模擬授業を設計、実施するとともに、授業を振り返る。

〔到達目標〕

- (1) 現行の学習指導要領が求める新しい社会科教育、地理・歴史教育に関する「資質・能力」「見方・考え方」の捉え方がわかる。
- (2) 地理・歴史的内容の「認識」を中心とする授業を構想、設計、実施するとともに、評価・改善することができるようになる。
- (3) 社会科教育、地理教育、歴史教育に関する今日的な実践上の課題の認識のもと、授業設計の向上に取り組もうとする意欲を持つ。

〔授業方法〕

学習指導案の作成、検討（第 7～9 回）では協働的な作業学習を行う。授業設計（第 10～13 回）においては簡単な模擬授業とその相互評価、振り返りを行う。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	オリエンテーション	新しい地理・歴史教育が求める資質・能力、見方・考え方	配布資料の確認
第 2 回	社会科・地理歴史科の歴史	教育実習の授業分析 地理的・歴史的内容で行われた教育実習の紹介と省察	配布資料の確認
第 3 回	地理学習の理論 (1)	新しい地誌学習 地誌的方法（動態地誌と静態地誌）	学習指導要領、中学校教科書を読む
第 4 回	地理学習の理論 (2)	地理学習に関する先行研究 課題解決や合意を重視した授業	配布資料の確認
第 5 回	歴史学習の理論 (1)	知識重視の反省とこれからの授業 資料の活用など「見方、考え方を育てる」歴史の授業	学習指導要領、中学校教科書を読む
第 6 回	歴史学習の理論 (2)	歴史学習に関する先行研究 日本の歴史と世界の歴史の関係	配布資料の確認
第 7 回	授業の設計(1)	地理・歴史教育教材・資料の収集法・作成法 情報機器の利用法	学習指導案の作成 模擬授業の準備
第 8 回	授業の設計(2)	学習指導案の書き方 単元や授業の目標と評価	学習指導案の作成 模擬授業の準備
第 9 回	授業の設計(3)	発問や板書計画を学習指導案から考える 個に応じた指導と集団としての活動 情報機器を利用した活動	学習指導案の作成 模擬授業の準備
第 10 回	模擬授業(1)	模擬授業 (1) 「世界の様々な地域」の内容に関する受講生による模擬授業と討議	模擬授業の準備、整理
第 11 回	模擬授業(2)	模擬授業 (2) 「日本の様々な地域」の内容に関する受講生による模擬授業と討議	模擬授業の準備、整理
第 12 回	模擬授業(3)	模擬授業 (3) 古代から中世までの内容に関する受講生による模擬授業と討議	模擬授業の準備、整理
第 13 回	模擬授業(4)	模擬授業 (4) 近世以降の内容に関する受講生による模擬授業と討議	模擬授業の準備、整理
第 14 回	評価	中等地理・歴史教育に関する評価の基礎と手続き	配布資料の確認
第 15 回	まとめ	中等社会科教育Ⅲ全体のまとめと振り返り 小中高の連携をふまえたカリキュラム・マネジメント	全体の振り返り
定期試験は実施しない			

〔評価方法（基準）〕

- | | | |
|------------|-----|-------------------------------|
| グループ作業の成果等 | 40% | 授業・グループ討議・模擬授業などに積極的に参加しているか。 |
| 中間レポート | 20% | 授業設計 目標と展開を意識した授業設計案の作成 |
| 期末レポート | 40% | 学習指導案などの作成 授業を通して獲得した内容など |

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	『中学校学習指導要領解説（社会編）』	文部科学省編	東洋館出版社（2018/3/1）

参考書	『高等学校学習指導要領 解説地理歴史編』 『社会科教育のルネサンス』 その他、参考書は授業時に紹介するとともに、必要に応じてプリント資料を配布する。 "	文部科学省編 原田智仁編	東洋館出版社（2019/4/19） 保育出版社（2016）
-----	---	---------------------	--------------------------------------

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
社会科教育法Ⅲ（公民分野）	3 年次・前期	2 単位 （必修）	大野 順子 （担当形態：単独）
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

〔授業概要・目的〕

本講義は、中学校社会科（公民的分野）、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を行い、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるようにしていきます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。

〔到達目標〕

- 本講義の到達目標は以下の通りです。
- （１）中学社会科（公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」「技術・スキル」を確実に身につける。
 - （２）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。
 - （３）社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。

〔授業方法〕

まず本授業では社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲・方法で履修者全員に模擬授業を行ってもらおうよう「実践的な授業」を目指します。模擬授業の実践では、授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってもらいます。本講義では教師としての自覚もあわせて養成するため、授業への積極的な参加、そして各々の模擬授業の準備やそのふりかえりに積極的に取り組んでください。第一回目の授業への課題を出しているの、各自事前に文部科学省ホームページから中学社会科学習指導要領、及び高校公民科学習指導要領をダウンロードしておくこと。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	事前課題：学習指導要領の総則部分を読み、社会科・公民科教育の課題について考えてくる。
第 2 回	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	事前課題：各自事前に入手及びダウンロードした学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の読了、及び指導要領概要部分の要約
第 3 回	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント：中学社会科（公民：現代社会、国際社会）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評のためのグループワーク等の実施。具体的には、「私たちと現代社会」「私たちと国際社会の諸問題」をテーマにした授業展開について考える。	事前課題：事前配布資料の要約
第 4 回	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント：中学社会科（公民：経済、政治）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評のためのグループワーク等の実施。具体的には、「私たちと経済」、「私たちと政治」をテーマにした授業展開について考える。	事前課題：事前配布資料の要約
第 5 回	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント：高校公民科	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評のためのグループワーク等の実施。具体的には、「現代社会」、「倫理」、「政治経済」をテーマにした授業展開について考える。	事前課題：事前配布資料の要約
第 6 回	教育方法と技術（授業方法及び教材研究）：ミニ模擬授業案作成	板書の方法・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。さらに、ICT の活用、コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業の方法について。また、パワーポイントを用いた授業のミニ模擬授業案の作成について。	事前課題：新聞記事等の検索、及びミニ模擬授業指導案の作成。
第 7 回	教育方法と技術（ICT 等の活用）：ミニ模擬授業案作成案作成	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民分野に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら実践的に学ぶ。ディベートを取り入れたミニ模擬授業案を作成する。	事前課題：事前配布資料の要約
第 8 回	学習指導案の書き方（中学社会科）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（中学社会科）：各自が作成した学習指導案をもとに、作成のヒントを説明する。	事前課題：各自、中学社会科における授業実施単元を選択し、学習指導案を作成。事後課題：本時を受けての指導案のさらなる修正。

第 9 回	学習指導案の書き方（高校公民科）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（高校公民科）：各自が作成した学習指導案をもとに、作成する上での留意点について説明する。	事前課題：高校公民科における授業実施単元の指導案の作成。 事後課題：本時を受けての指導案のさらなる修正。
第 10 回	模擬授業（中学社会科公民的分野）	模擬授業の実践と指導（単元：中学社会科公民的分野）	事前課題：模擬授業実施に向けての準備。
第 11 回	模擬授業（高校公民科）	模擬授業の実践と指導（単元：高校公民科＜政治経済＞）	事前課題：模擬授業実施に向けての準備。
第 12 回	模擬授業（高校公民科）	模擬授業の実践と指導（単元：高校公民科＜現代社会＞）	事前課題：模擬授業実施に向けての準備。
第 13 回	模擬授業（高校公民科）	模擬授業の実践と指導（単元：高校公民科＜倫理＞）	事前課題：模擬授業実施に向けての準備。
第 14 回	成績評価の方法、及び社会科試験の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の内容を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験の作成についても学ぶ。	事前課題：全員共通の単元部分について定期試験実施に向けての問題用紙を作成してくる。
第 15 回	総括：中高社会科、公民科の指導について	授業全体をふりかえって、社会科教師としての課題と責務を確認する。グループディスカッション及び全体での発表の実施。	事後課題：各自、社会科教師としての自分の課題について考え、まとめる。
定期試験は実施しない			

[評価方法（基準）]

事前学習課題の提出状況（30%）、模擬授業の実践（50%）、各種課題の提出（20%）等により、総合的に評価する。
但し、出席率が 80%に満たない者は成績評価の対象外となる場合があります。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	中学校学習指導要領解説社会編(平成 29 年告示)	文部科学省	日本文教出版 ※インターネットでもダウンロード可能
教科書	高等学校学習指導要領解説公民編(平成 30 年告示)	文部科学省	日本文教出版 ※インターネットでもダウンロード可能
参考書	適宜指示、配布する。		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
社会科教育法Ⅳ（公民分野）	3 年次・後期	2 単位 （必修）	大野 順子 （担当形態：単独）
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 社会、高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

〔授業概要・目的〕

本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が 18 歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育（主権者教育）の重要性が改めて問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育（市民性教育、シティズンシップ教育）をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを行います。

〔到達目標〕

- 本講義の到達目標は以下の通りです。
- （１）中学社会科（公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。
 - （２）中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。
 - （３）授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。
 - （４）政治教育、市民性教育（シティズンシップ教育）についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。

〔授業方法〕

まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、履修者全員に模擬授業（各 50 分）を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。本講義では教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席については厳しく対応します。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。グループワーク等の実施、および全体での発表、意見交換。	事前課題：現代の社会科教育の課題について考え、まとめてくる。
第 2 回	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	事前課題：前期に入手した学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）、社会科（公民科）の目的部分の要約
第 3 回	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（中学社会科）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践例の発表、解説と批評。 テーマ：中学社会科（公民的分野）の実践例	事前課題：各自、実際に中学高校で実践されている授業例について調べ、まとめてくる。
第 4 回	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（高校公民科）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の発表、解説と批評。 テーマ：高校公民科の実践例（政治の主体として意識を涵養するための市民性教育、シティズンシップ教育を含む）	事前課題：前回と同じ。
第 5 回	教育方法と技術（授業方法及び教材研究）：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど教育実践の基本的技術について学ぶ。また、授業方法としてのグループワークやディスカッション、ディベート等の活用について実践例を参考にしながら学ぶ。	事前課題：事前配布資料の要約
第 6 回	教育方法と技術（ICT 関連）：ミニ模擬授業	ICT、コンピューター等を活用した授業方法について学び、実際の授業例を参考にしながらミニ模擬授業で実演する。	事前課題；ICT 活用実践例について調べてくる。
第 7 回	学習指導案の書き方：ミニ模擬授業	学習指導案の作成について、現職教員の方が実際に作成した指導案等を用いて、作成のポイントについて説明する。	事前課題：学習指導案の作成。 事後課題：事前課題で作成した指導案の修正。
第 8 回	模擬授業（中学社会科：公民：現代社会）	模擬授業（50 分間）の実践と指導、及び全体でのふりかえり（単元：中学社会科公民分野「私たちと現代社会」）	事前課題：模擬授業の準備。
第 9 回	模擬授業（中学社会科：公民：経済、政治）	模擬授業（50 分間）の実践と指導、及び全体でのふりかえり（単元：中学社会科公民分野「私たちと経済・政治」）	事前課題：模擬授業の準備。
第 10 回	模擬授業（中学社会科：公民：国際社会）	模擬授業（50 分間）の実践と指導、及び全体でのふりかえり（単元：中学社会科公民分野「私たちと国際社会の諸問題」）	事前課題：模擬授業の準備。
第 11 回	模擬授業（高校公民科：倫理）	模擬授業（50 分間）の実践と指導、及び全体でのふりかえり（単元：高校公民科「倫理」）	事前課題：模擬授業の準備。

第 12 回	模擬授業（高校公民科：政治経済）	模擬授業（50 分間）の実践と指導、及び全体でのふりかえり（単元：高校公民科「政治経済」）	事前課題：模擬授業の準備。
第 13 回	模擬授業（高校公民科：現代社会）	模擬授業（50 分間）の実践と指導、及び全体でのふりかえり（単元：高校公民科「現代社会」）	事前課題：模擬授業の準備。
第 14 回	模擬授業（中高社会科：政治）	模擬授業（50 分間）の実践と指導、及び全体でのふりかえり（単元：政治教育）	事前課題：模擬授業の準備。
第 15 回	模擬授業（中高社会科：市民性教育）と総括	模擬授業（50 分間）の実践と指導、及び全体でのふりかえり（単元：中高社会科「市民性・シティズンシップ」）及び、授業全体（特に模擬授業）をふりかえり、社会科教師として授業を実践する上での重要なポイントや課題について考える。	事前課題：模擬授業の準備。 事後課題：社会科授業の実践上での自分自身の課題について考え、まとめる。
定期試験は実施しない			

[評価方法（基準）]

事前学習課題の提出状況（30%）、模擬授業の実践（50%）、各種課題の提出（20%）等により、総合的に評価する。
但し、出席率が 80%に満たない者は成績評価の対象外となる場合があります。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	中学校学習指導要領解説社会編(平成 29 年告示)	文部科学省	日本文教出版 ※インターネットでもダウンロード可能
教科書	高等学校学習指導要領解説公民編(平成 30 年告示)	文部科学省	日本文教出版 ※インターネットでもダウンロード可能
参考書	適宜指示、配布する。		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
社会心理学	1 年次・前期	2 単位 (選択)	田中 晶子 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		

〔授業概要・目的〕

社会心理学は、私たちが暮らす社会の中で、人と人で行われるやりとりの法則や生じやすい問題、集団や社会の中での個人の行動について、心理学的観点から明らかにすることを目的としている。幅広い社会心理学の分野の中から本授業では、社会的認知、社会的影響、対人コミュニケーション、集団の中での個人の行動について基礎的なトピックスを取り上げ、概説する。本講義を履修することにより、社会心理学で扱われる事象についての基本的知識を得ること、日常生活における自分や他者の行動について社会心理学的な視点から理解することを目指す。

〔到達目標〕

- ① 社会心理学の基本的知識や考え方を理解することができる。
- ② 日常生活における自分の行動や人とのやりとりを、社会心理学的な視点から理解し、説明できる。

〔授業方法〕

配付資料、パワーポイントによって行う。授業内容の理解を深めるため、適宜受講生が相互に考えや意見を共有できる機会を持つ。また、理解の定着を促すため、ミニクイズや小テストを実施する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	社会心理学とは何か	ガイダンスと授業計画・授業方法、評価基準の説明、社会心理学の概要と研究方法	事前：シラバスの確認 事後：授業内容の確認
第 2 回	印象形成①	対人認知を規定する要因、初頭効果、中心特性などに関する知見の概説	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 3 回	印象形成②	ステレオタイプや偏見の影響、責任帰属などに関する知見の概説	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 4 回	自己認知・自己評価	自己スキーマや自己評価の維持に関する知見の概説	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 5 回	社会的比較・自己呈示	社会的比較や自己呈示に関する知見の概説	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 6 回	攻撃行動	メディアと攻撃行動、個人差に関する知見の概説	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 7 回	援助行動	援助行動の規定要因、傍観者効果などに関する知見の概説	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 8 回	同調と少数派の影響①	同調の規定要因に関する知見の概説	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 9 回	同調と少数派の影響②	少数派の影響、服従の心理に関する知見の概説	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 10 回	説得コミュニケーション①	態度形成と説得に関する知見の概説	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 11 回	説得コミュニケーション②	要請と受諾に関する知見の概説	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 12 回	うわさと流言	うわさと流言の規定要因、都市伝説や SNS に関する知見の概説	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 13 回	集団意思決定①	社会的な手抜きやリスクシフトなどに関する知見の概説	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 14 回	集団意思決定②	リーダーシップを規定する要因に関する知見の概説	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
第 15 回	まとめ	授業のまとめ	事前：配付資料の確認 事後：授業内容の確認
定期試験は実施しない			

〔評価方法（基準）〕

授業時のミニクイズ（45%）と複数回の小テスト（55%）で評価し、60%以上で合格とする。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	まんがでわかる社会心理学	北村英哉	カンゼン
参考書	すばらしきアカデミックワールド	越智啓太	北大路書房

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
臨床心理学	2 年次・後期	2 単位 (選択)	竹端 佑介 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		

〔授業概要・目的〕

複雑な世の中にある昨今において、悩みや不安を抱えることが多くなる。そのような中で、他者を支援するものに臨床心理学という学問がある。臨床心理学とは、実際にどのような学問なのだろうか。また、複雑化された現代にあっては、人と人との関わりはますます重要になってくるように思われる。このような中で臨床心理学の知識や技法は他者と関わる際に私たちにヒントを与えてくれる。本授業では臨床心理学の基礎知識をもとに、さまざまな臨床心理における技法を実際に行いながら、臨床心理学の基礎的な理論およびその具体的な基礎技法の習得を目的とする。

〔到達目標〕

- ① 臨床心理学の成り立ちを理解し、基本的な概念についての知識を得ることができる。
- ② 臨床心理学における「アセスメント」の理論を理解することができる。
- ③ 臨床心理学における代表的な理論を理解することができる。
- ④ 臨床心理学における「傾聴」などの基本技法を理解し、活用できる。

〔授業方法〕

授業はパワーポイントにて行い、文字情報および静止画・動画の資料などを提示する講義形式となるが、単に臨床心理学の理論を学ぶだけでなく、他者との関わりを通して臨床心理学における基礎技法について習得することも求められる。そのため、事前学習では授業テーマに関するキーワードを調べ、前週のノートを復習すること、事後学習では講義で提示された資料や紹介された図書あるいは論文をもとに自身のノートに加筆すること、などの主体的学習が必要となる。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	臨床心理学の必要性	本授業の概要および授業計画・方法についての説明、臨床心理学の知識が現代において何故必要かを考える	事前：シラバス確認と理解 事後：授業資料をもとに内容の復習
第 2 回	臨床心理学とは？	そもそも「臨床心理学」とは何か、その「定義」や「歴史」を辿る	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第 3 回	心理アセスメント①	「心理アセスメント」について概観し、具体的な心理アセスメントの方法の活用され方について考える	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第 4 回	心理アセスメント②	実際の心理アセスメントにおける技法を使い、心理アセスメントについてさらに考え、議論する	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第 5 回	臨床心理学の理論	臨床心理学における代表的な理論と技法について理解する	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第 6 回	臨床心理学技法の活用	実際の心理療法を実施し、実施したことで考えたことを互いに議論する	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第 7 回	臨床心理学の実際①	実際の心理臨床場面における「倫理」について考え、理解する	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第 8 回	臨床心理学の実際②	子どもの心理療法について事例を通して考え、子どもの心理支援について議論する	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第 9 回	集団療法について	集団（グループ）療法について考え、実際にグループワークを通して理解する	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第 10 回	臨床心理学基礎技法①	「傾聴」や「受容」とは何を考え、実際に他者と関わりながら傾聴、受容を技法的に活用する	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第 11 回	臨床心理学基礎技法②	ヴァーバルなコミュニケーションとノン・ヴァーバルなコミュニケーションの違いについて理解する	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第 12 回	臨床心理学基礎技法③	他者との「ラポール」をどう形成できるか議論しながら、「ラポール形成」について考える	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第 13 回	臨床心理学応用技法①	第 10 回～第 12 回をベースにして、臨床心理学応用技法を知る	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第 14 回	臨床心理学応用技法②	第 10 回～第 13 回をベースにして、「面接記録」、「守秘義務」の意味について理解する	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
第 15 回	臨床心理学の基礎理論と技法の確認	授業のまとめ	事前：学習範囲の予習 事後：授業資料をもとに内容の復習
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

提示した課題（60％）と定期試験（40％）で評価し、60％以上を合格とする。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	別途、指示する		
参考書	臨床心理学入門 -- 多様なアプローチを越境する	岩壁茂 他	有斐閣アルマ
参考書	臨床心理学原論	大塚義孝	誠信書房

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
心理学 I	2 年次・前期	2 単位 (選択)	牧野幸志 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		

〔授業概要・目的〕

心理学は、心と行動の科学であるといわれる。人間の心と行動との関係について、知覚、認知、教育、社会など多側面から考えていく。授業では、他者との相互作用の原点であるコミュニケーションを軸として、人間を概説していく。コミュニケーションは、他者理解のみならず自己理解にとっても不可欠である。

〔到達目標〕

1)心理学とは何かを理解することができる。2)人間関係についての知識を得る。3)社会の中での心理学の応用を知ることができる。

〔授業方法〕

毎回、担当者がパワーポイントによるプレゼンテーション形式で授業を行う。資料を DL し、ノートを取る。新型コロナウイルスが完全に終息している場合には、学生同士の話し合いなどを行う。授業の連絡は、teams で行う。毎週必ず授業開講前に確認すること。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	ガイダンス・心理学とは？	ガイダンス 授業内容、授業方法について説明します。 心理学とは何か？	事前学習課題：心理学とはどんな学問か？現在理解していることをまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：心理学の方法にはどのようなものがあったか？心理学の現状はどのようなものか？についてレポートを作成すること(2 時間)
第 2 回	心理学の手法	心理学の目的、心理学の方法、心理学の現状	事前学習課題：心理学とはどんな学問か？現在理解していることをまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：心理学の方法にはどのようなものがあったか？心理学の現状はどのようなものか？についてレポートを作成すること(2 時間)
第 3 回	対人コミュニケーション	人と人とのコミュニケーション	事前学習課題：コミュニケーションについて、これまで感じたこと、難しかったことなどについてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：コミュニケーションの重要性、コミュニケーションの効果について調べること(2 時間)
第 4 回	コミュニケーションの基本要素	コミュニケーションの構成要素	事前学習課題：コミュニケーションの構成要素について調べてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：コミュニケーションが円滑に行われるために必要なことをまとめること(2 時間)
第 5 回	人間の記憶	覚えたいのに覚えられないこと、忘れたいのに忘れられないこと	事前学習課題：自分の記憶について、最も古いものについて思い出しまとめること(1 時間) 事後学習課題：人間の記憶システムについてまとめること(2 時間)
第 6 回	自己開示①	自己開示の個人的機能 悩みを打ち明けるとき	事前学習課題：自己開示とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：自己開示の個人的機能について自分の経験をまとめておくこと(2 時間)
第 7 回	自己開示②	自己開示の対人的機能 気になる人と仲良くなる方法	事前学習課題：自己開示の対人的機能について調べること(1 時間) 事後学習課題：自己開示の対人的機能についてこれまでの経験をまとめておくこと(2 時間)

第 8 回	自己呈示①：防衛的自己呈示	悪い印象をもたれないためには？	事前学習課題：自己呈示とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：防衛的自己呈示の機能について、自分の経験についてまとめておくこと(2 時間)
第 9 回	自己呈示②：主張的自己呈示	立派な大人になるために	事前学習課題：主張的自己呈示について事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：主張的自己呈示の経験とその効果についてまとめておくこと(2 時間)
第 10 回	説得的コミュニケーション	説得テクニックとその効果	事前学習課題：説得とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：効果的な説得的テクニックについてレポートを作成すること(2 時間)
第 11 回	リーダーシップ	三隅の PM 理論	事前学習課題：リーダーにとって何が必要か考えて、まとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：リーダーシップの理論について、経験も含めてまとめること(2 時間)
第 12 回	ウソのコミュニケーション	ウソをつく人，ウソをつかない人	事前学習課題：これまで自分がついた嘘について、書き出しておくこと(1 時間) 事後学習課題：嘘の種類と効果についてまとめること(2 時間)
第 13 回	交渉術	交渉術と心理	事前学習課題：交渉についてこれまでの自分の経験をまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：交渉術の定義と効果をまとめ、実践する方法をまとめること(2 時間)
第 14 回	流行	流行と人間心理	事前学習課題：これまで自分の周りで流行ったもの・ことについてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：流行の特徴とその効果についてまとめること(2 時間)
第 15 回	心理学の応用(まとめ)	心理学の応用分野	事前学習課題：これまでの心理学の内容について、各まとめを総復習しておくこと(1 時間) 事後学習課題：人間力について学んだことをまとめておくこと(2 時間)
定期試験			

[評価方法（基準）]

定期試験(80%)、毎回の授業の最後に提出する小レポート(20%)

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	インターパーソナル・コミュニケーション	深田博己著	北大路書房
参考書	コミュニケーション心理学	深田博己著	北大路書房

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
心理学Ⅱ	2 年次・後期	2 単位 (選択)	牧野幸志 (担当形態：単独)
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		

〔授業概要・目的〕

心理学は、心と行動の科学であるといわれる。人間の心と行動との関係について、知覚、認知、教育、社会など多側面から考えていく。「心理学Ⅱ」では、特に現代社会や社会情勢と人の行動との関わりについて解説していく。社会で活躍するために必要な幅広い教養を身につける。

〔到達目標〕

- 1)社会が個人に与える影響を理解する。
- 2)個人が社会に与える影響を理解する。
- 3)社会の中のコミュニケーションについて理解を深める。
- 4)幅広い教養を身につける。

〔授業方法〕

毎回、担当者がパワーポイントによるプレゼンテーション形式で授業を行う。資料を DL し、ノートを取ること。
新型コロナが完全に終息指定場合には、学生同士の話し合いなどを行う。
授業の連絡は、teams で行う。毎週必ず授業開講時刻に確認すること。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	ガイダンス・心理学の応用とは？社会心理学とは？	授業内容、授業方法について説明します。 社会と心理との関係	事前学習課題：社会心理学について事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：個人が社会に影響を受ける事例についてまとめておくこと(2 時間)
第 2 回	社会と心理学	社会心理学の歴史と課題	事前学習課題：社会心理の歴史について事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：社会心理学の今後の課題についてまとめておくこと(2 時間)
第 3 回	社会的認知と集団心理	原因帰属	事前学習課題：社会的認知について事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：人が行動を起こしたときの原因帰属の理論についてまとめること(2 時間)
第 4 回	自己の社会化と動機づけ	自己知覚理論	事前学習課題：自己知覚理論について事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：人が社会に適応するメカニズムについてまとめること(2 時間)
第 5 回	社会的態度と態度変容	説得と態度変化	事前学習課題：態度変化とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：説得の効果とその理論についてまとめること(2 時間)
第 6 回	対人行動の明暗	攻撃と援助行動	事前学習課題：自分のこれまでの攻撃行動の内容についてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：人が他者を助ける条件についてまとめること(2 時間)
第 7 回	社会の中の対人関係	印象形成、関係維持、関係崩壊	事前学習課題：自分が他人から持たれる第一印象についてまとめておくこと(1 時間) 事後学習課題：関係維持をするために必要な要因についてまとめること(2 時間)

第 8 回	対人関係と健康	ストレッサーとコーピング	事前学習課題：現在自分が感じているストレスについてあげること(1 時間) 事後学習課題：ストレスのコーピング法について、具体例も含めてまとめること(2 時間)
第 9 回	対人関係と幸福	ソーシャル・サポート	事前学習課題：人が幸福を感じる瞬間について調べること(1 時間) 事後学習課題：周りの人からのソーシャル・サポートの種類とその効果についてまとめること(2 時間)
第 10 回	社会的影響	同調と服従	事前学習課題：自分が周りに同調した例をあげておくこと(1 時間) 事後学習課題：人が誰かに服従するときに心理状態についてまとめておくこと(2 時間)
第 11 回	集団の影響	社会的促進と社会的手抜き	事前学習課題：社会的促進について事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：社会的手抜きの具体例とその防止策についてまとめておくこと(2 時間)
第 12 回	集団過程	集団における意思決定	事前学習課題：最近自分が行った意思決定について、あげておくこと(1 時間) 事後学習課題：個人の意思決定と集団の意思決定の違いについてまとめておくこと(2 時間)
第 13 回	集合と群衆	群衆行動の生起メカニズム	事前学習課題：群衆とは何か？事前に調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：群衆行動の具体例とその効果についてまとめておくこと(2 時間)
第 14 回	流言と流行	噂の心理，流行の心理	事前学習課題：最近流行ったこと、モノについて調べておくこと(1 時間) 事後学習課題：噂の心理、効果について具体例を含めてまとめること(2 時間)
第 15 回	社会情勢と人間の心理	社会問題の中での人間の心理	事前学習課題：これまでの内容について総復習を行うこと(1 時間) 事後学習課題：心理と社会との関係についてまとめておくこと(2 時間)
定期試験			

[評価方法（基準）]

定期試験(80%)、毎回の授業の最後に提出する小レポート(20%)

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	ミニマムエッセンス社会心理学	和田実編著	北大路書房
参考書	男と女の対人心理学	和田実編著	北大路書房

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
地域連携教育活動Ⅰ	2 年次・通年	2 単位 (選択)	吉田佐治子・朝日素明・ 松浦正典・大野順子・谷口雄一 (担当形態：複数)
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

[授業概要・目的]

大学近隣の学校で、年間を通じて授業補助、学習支援、学校行事、課外活動等幅広く体験し、自己の適性を把握する機会をもち、人間的成長や社会意識の向上、教員としての愛情と使命感を深めることを目指す。

[到達目標]

- ① 実際の教育現場を知る。
- ② 自身の能力や適性を考え課題を自覚する。
- ③ 社会的倫理観を確立する
- ④ 相手に合わせたコミュニケーションがとれる。

[授業方法]

本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。

活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ、年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週 1 回 90 分行う。

原則として、履修申請が可能な学生は、特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を初めて履修する学生を対象とする。

[授業計画]

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	事前指導 1	活動についての心構え，活動内容の確認，活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3 時間程度)
第 2 回	事前指導 2	学校という教育現場，現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3 時間程度)
第 3 回	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3 時間程度)
第 4 回	活動準備	受け入れ校と協議し，活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3 時間程度)
第 5 回 ～ 第 29 回	学外での活動	受け入れ校にて活動（70 時間以上） 活動の目安としては、次のとおり 7 時間×10 日間（月～金×2 週間） ※時間や日数については、受入先によって異なる。 ※毎回，出席簿と日誌に記入する。	
第 30 回	活動報告会	学外での活動をまとめ，報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備 (3 時間程度)
定期試験は実施しない			

[評価方法（基準）]

活動計画書、日誌、最終レポート、活動報告を総合的に評価する。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	特に指定しない		
参考書	授業中に適宜資料を配布する		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
地域連携教育活動Ⅱ	2 年次・通年	2 単位 (選択)	吉田佐治子・朝日素明・ 松浦正典・大野順子・谷口雄一 (担当形態：複数)
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等			

[授業概要・目的]

「地域連携教育活動Ⅰ」と異なる、あるいは同じ大学近隣の学校で、年間を通じて授業補助、学習支援、学校行事、課外活動等幅広く体験し、自己の適性を把握する機会をもち、人間的成長や社会意識の向上、教員としての愛情と使命感を深めることを目指す。

[到達目標]

- ① 「地域連携教育活動Ⅰ」を受け、その体験をもとにさらに学びを深める。
- ② 実際の教育現場を知る。
- ③ 自身の能力や適性を考え課題を自覚する。
- ④ 社会的倫理観を確立する
- ⑤ 相手に合わせたコミュニケーションがとれる。

[授業方法]

本科目はサービ斯拉ーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。
活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ、年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回 90 分行う。
原則として、履修申請が可能な学生は、特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を初めて履修する学生を対象とする。

[授業計画]

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	事前指導 1	活動についての心構え，活動内容の確認，活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3 時間程度)
第 2 回	事前指導 2	学校という教育現場，現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3 時間程度)
第 3 回	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3 時間程度)
第 4 回	活動準備	受け入れ校と協議し，活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3 時間程度)
第 5 回 ～ 第 29 回	学外での活動	受け入れ校にて活動（70 時間以上） 活動の目安としては、次のとおり 7 時間×10 日間（月～金×2 週間） ※時間や日数については、受入先によって異なる。 ※毎回，出席簿と日誌に記入する。	
第 30 回	活動報告会	学外での活動をまとめ，報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備 (3 時間程度)
定期試験は実施しない			

[評価方法（基準）]

活動計画書、日誌、最終レポート、活動報告を総合的に評価する。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	特に指定しない		
参考書	授業中に適宜資料を配布する		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
道徳教育論	3 年次・前期	2 単位 (必修(中学校)) (選択(高等学校))	谷口 雄一 (担当形態：単独)
科 目	・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校） ・大学が独自に設定する科目（高等学校）		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・道徳の理論及び指導法（中学校）		

〔授業概要・目的〕

中学校において「特別の教科 道徳」（以下、道徳科）の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としている。

〔到達目標〕

- ① 道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付ける。
- ② 中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになる。

〔授業方法〕

本授業は、毎回、ペアや小グループ、全体での対話などを通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていく。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者による模擬授業等を実施する。

毎回授業の終わりに受講者にはコメントペーパー（OPP シート：One Page Portfolio シート）を書いてもらう。それらの中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の受講者の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができるように配慮する。

以上の授業方法により、道徳科の授業における「主体的・対話的で深い学び」について体感的な学びを展開する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	ガイダンス： 道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める 4 つのアプローチについて概観する。	（事前）自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 （事後）教科書 2.の P.8～17 を精読しておく。
第 2 回	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	（事前）教科書 1.の P.6～12 を精読しておく。 （事後）日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
第 3 回	よい道徳教育とは何か	・よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	（事前）教科書 1.の P.12～25 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
第 4 回	道徳科の授業の 多様な指導方法の特徴	・道徳科の授業のねらいに基づく 8 類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	（事前）教科書 1.の P.26～35 及び教科書 2.の P.26～29 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業のねらいに基づく 8 類型について整理しておく。
第 5 回	道徳科の授業の 発問の構成法	・道徳科の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	（事前）教科書 1.の P.36～48 及び教科書 2.の P.30～33 を精読しておく。 （事後）ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
第 6 回	道徳科の授業の 学習指導案の作成法	・道徳科のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	（事前）教科書 1.の P.49～58 及び教科書 2.の P.34～37 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
第 7 回	道徳科の授業の評価	・道徳科における評価の内容や方法について考える。	（事前）教科書 1.の P.59～68 及び教科書 2.の P.38～41 を精読しておく。 （事後）道徳科の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
第 8 回	各授業類型のねらいと 発問の特徴	・教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	（事前）教科書 1.の P.71～85 及び教科書 2.の P.42～45 を精読しておく。 （事後）教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。

第 9 回	教材分析の視点	・教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	(事前)教科書 1.の P.86～95 及び教科書 2.の P.46～49 を精読しておく。 (事後)教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
第 10 回	発問分析による授業づくりの視点	・発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	(事前)教科書 1.の P.96～106 及び教科書 2.の P.50～53 を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
第 11 回	授業づくりの実際①： カリキュラム・マネジメント、テーマ発問	・カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	(事前)教科書 1.の P.107～130 及び教科書 2.の P.54～57 を精読しておく。 (事後)カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳科の授業について整理しておく。
第 12 回	授業づくりの実際②： 問題解決的な学習、探究型学習	・問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	(事前)教科書 1.の P.131～152 及び教科書 2.の P.58～61 を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習を取り入れた道徳科の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
第 13 回	学習指導案の作成	・これまでの学修内容をふまえ、第 9 回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。	(事前)教科書 2.の P.62～65 を精読しておく。 (事後)模擬授業の準備をしておく。
第 14 回	模擬授業と事後検討会①	・模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	(事前)教科書 2.の P.66～69 を精読しておく。 (事後)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
第 15 回	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について 再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	(事前)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 (事後)「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。
定期試験			

[評価方法（基準）]

毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（30%）、作成した道徳科学習指導案（20%）、学期末試験の結果（50%）等をもとに、総合的に評価する。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書 1.	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版
教科書 2.	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版
参考書 1.	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき
参考書 2.	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
日本国憲法	1 年次・後期	2 単位 (必修)	笛木 淳 (担当形態：単独)
科目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・ 日本国憲法		

[授業概要・目的]

憲法は、国の「かたち」と「はたらき」についての基本的な原理・ルールを定めたものです。これらの原理・ルールを大きく分けると、統治の仕組みに関するものと人権に関するものがあります。

この授業では、これらの重要な原理・ルールを解説し、私たちの社会における身近なトピックや問題にあてはめて考えるきっかけを提供します。また、実際に裁判で争われた事件も参照して、それについて裁判所がどのように判断したのかも検討していきます。

[到達目標]

- この授業を通じて学生には、次の 3 点を達成することが期待されます。
- (1) 憲法の原理やルールの基本的事項を理解し、分かりやすく説明できる。
 - (2) 具体的な事件について、裁判所が下した判断を踏まえた基礎的な検討ができる。
 - (3) 社会における様々なトピックに存在する憲法上の問題を発見できる。

[授業方法]

- ・ 反転授業
予め事前資料に目を通し、基礎知識を身に着けた上で授業に臨んでください。授業ではこれらの基礎知識を問う問題と、発展的な課題を扱います。
- ・ 授業資料
レジュメは事前にパワーポイントをアップしますので、そちらをあらかじめダウンロードした上で受講してください（授業中の配布はありません）。
- ・ その他
授業中は、質疑応答を通じて受講生との双方向型のコミュニケーションを図り、皆さんの理解を助けるようにします。間違いをおそれずに積極的に発言することを望んでいます。

[授業計画]

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	ガイダンス・イントロダクション	授業方法の説明 憲法とはなにか (Unit 0) ＊ () 内は教科書該当箇所。	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
第 2 回	憲法の意義	・ 形式的意味の憲法と実質的身の憲法，立憲主義 (Unit 1)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
第 3 回	統治機構総論	・ 権力分立 (Unit 2) ・ 国民主権 (Unit 3)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
第 4 回	国会	国会の地位と役割，組織 (Unit 6, 7)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
第 5 回	内閣	内閣の地位と役割，組織 (Unit 8)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
第 6 回	裁判所	裁判所の地位と役割，組織 (Unit 9, 10)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
第 7 回	基本的人権各論 (1)	職業選択の自由と規制，公共の福祉 (Unit 21, 13)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
第 8 回	基本的人権各論 (2)	プライバシー権と防犯カメラ (Unit 28, 29)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
第 9 回	基本的人権総論	人権の歴史，権利能力 (享有主体性)，人権の分類 (Unit 13)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
第 10 回	基本的人権各論 (3)	表現の自由の意義，二重の基準，名誉毀損 (Unit 17, 18)	事前学習：教科書をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。

第 11 回	基本的人権各論 (4)	集会・結社の自由，公の施設，パブリック・フォーラム (Unit 20)	事前学習：教科書をあらかじめ 読んでおくこと（2 時間）。 事後学習：講義・教科書の内容 を整理，要約する（2 時間）。
第 12 回	基本的人権各論 (5)	信教の自由と政教分離原則 (Unit 16, 17)	事前学習：教科書をあらかじめ 読んでおくこと（2 時間）。 事後学習：講義・教科書の内容 を整理，要約する（2 時間）。
第 13 回	基本的人権各論 (6)	思想良心の自由，日の丸・君が代訴訟 (Unit 14)	事前学習：教科書をあらかじめ 読んでおくこと（2 時間）。 事後学習：講義・教科書の内容 を整理，要約する（2 時間）。
第 14 回	基本的人権各論 (7)	生存権，生活保護，受給者の自動車利用 (Unit 24)	事前学習：教科書をあらかじめ 読んでおくこと（2 時間）。 事後学習：講義・教科書の内容 を整理，要約する（2 時間）。
第 15 回	平等原則	平等原則の意義，合理的な区別，差別 (Unit 27)	事前学習：教科書をあらかじめ 読んでおくこと（2 時間）。 事後学習：講義・教科書の内容 を整理，要約する（2 時間）。
定期試験は実施しない			

[評価方法（基準）]

毎回の授業で予習課題，復習課題を課し，授業の理解度（課題の提出内容）を評価します（100％）。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	一步先への憲法入門 [第 2 版]	片桐直人ほか	有斐閣
参考書	START UP 憲法判例 50 [第 2 版]	上田健介・尾形健・片桐直人	有斐閣
参考書	授業中に適宜指示します		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
スポーツ科学実習Ⅰ	1 年次・前期	1 単位 (必修)	瀬川 智広、横山 喬之 (担当形態：クラス分け・単独)
科目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
免許法施行規則に定める科目区分	・ 体育		

〔授業概要・目的〕

生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。

本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。

〔到達目標〕

- ①健康・体力の維持増進
- ②技能を向上させることができる
- ③スポーツのルールやマナーを理解することができる
- ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる

〔授業方法〕

実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。

開講種目は、以下のとおりである。

- ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど）
- ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど）

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める
第 2 回	体力測定①	屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える 事後：自身の体力についての振り返り
第 3 回	体力測定②	屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える 事後：自身の体力についての振り返り
第 4 回	種目の概要 基礎知識について	種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る
第 5 回	・ 基本技術 （導入編） ・ 簡易ゲーム	・ 種目におけるルール・マナーの説明 ・ 種目の導入につながる運動 ・ 簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り
第 6 回	・ 基本技術 （基礎編 1） ・ 簡易ゲーム	・ 体力および技術の向上に必要な基礎運動を個人で行う ・ 簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
第 7 回	・ 基本技術 （基礎編 2） ・ 簡易ゲーム	・ 体力および技術の向上に必要な基礎運動を複数人で行う ・ 簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
第 8 回	・ 基本技術 （応用編 1） ・ 簡易ゲーム	・ 体力および技術の向上に必要な基礎運動を個人で実践する ・ 基礎技術を応用した運動を行う ・ 簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
第 9 回	・ 基本技術 （応用編 2） ・ 簡易ゲーム	・ 体力および技術の向上に必要な基礎運動を複数人で実践する ・ 基礎技術を応用した運動 ・ 簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
第 10 回	・ ゲーム （導入編Ⅰ）	・ ゲームを計画し、協調性を育む ・ ゲームを通じてスポーツの楽しさを体験する	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
第 11 回	・ ゲーム （導入編Ⅱ）	・ ゲームを計画し、協調性を育む ・ ゲームを通じてスポーツの達成感を体験する	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
第 12 回	・ ゲーム （基本編Ⅰ）	・ ゲームを計画し、リーダーシップを育む ・ ゲームを通じて主体的に動くことの重要性を学ぶ	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
第 13 回	・ ゲーム （基本編Ⅱ）	・ ゲームを計画し、リーダーシップを育む ・ ゲームを通じて他者に働きかけることの重要性を学ぶ	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
第 14 回	・ ゲーム （実践編Ⅰ）	・ ゲームを計画し、チームワークを育む ・ ゲームを通じてチームとしてまとまることの重要性を学ぶ	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り

第 15 回	・ ゲーム （実践編Ⅱ）	・ ゲームを計画し、チームワークを育む ・ ゲームを通じてチーム全体の達成感を体験する ・ これまでの授業で体験したことのまとめ	事前：ルール・技術等の確認 と健康管理 事後：全授業の総括
定期試験は実施しない			

[評価方法（基準）]

活動点 50%、態度点 25%、技能点 25%として、総合評価する。
なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	なし		
参考書	各競技のルールブック（授業中に指示する）		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
スポーツ科学実習Ⅱ	1 年次・ 後期	1 単位 (必修)	瀬川 智広、横山 喬之 (担当形態：クラス分け・単独)
科目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
免許法施行規則に定める科目区分	・ 体育		

〔授業概要・目的〕

「スポーツ科学実習Ⅰ」で培った学修内容を応用し、心技体のさらなる向上を目標とする。①<心>スポーツ活動を通じた成功体験や規範遵守、主体性、自己統制、表現力、協調性、他者受容意識の向上など人間力の醸成を目指す。②<技>スポーツ科学Ⅰよりも高度なスポーツ技術の獲得を目指す。③<体>運動やスポーツが身体へ及ぼす影響やそのメカニズムについて理解し、自らの生活行動の中にスポーツを実践できる能力の育成を目指す。

本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。

〔到達目標〕

- ①健康・体力の維持増進
- ②技能を向上させることができる
- ③スポーツのルールやマナーを理解することができる
- ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになる

〔授業方法〕

実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。

開講種目は、以下のとおりである。

- ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど）
- ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど）

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める
第 2 回	・ 種目の概要 ・ 基礎知識について	・ 種目の概要、基礎知識の説明	事前：運動を行い体力測定に備える 事後：自身の体力についての振り返り
第 3 回	・ 基本技術（導入編） ・ 簡易ゲーム	・ 種目におけるルール・マナーの説明 ・ 種目の導入につながる運動 ・ 簡易ゲーム	事前：運動を行い体力測定に備える 事後：自身の体力についての振り返り
第 4 回	・ 基本技術（基礎編 1） ・ 簡易ゲーム	・ 体力および技術の向上に必要な基礎運動を個人で行う ・ 簡易ゲーム	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る
第 5 回	・ 基本技術（基礎編 2） ・ 簡易ゲーム	・ 体力および技術の向上に必要な基礎運動を複数人で行う ・ 簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り
第 6 回	・ 基本技術（応用編 1） ・ 簡易ゲーム	・ 体力および技術の向上に必要な基礎運動を個人で実践する ・ 基礎技術を応用した運動を行う ・ 簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
第 7 回	・ 基本技術（応用編 2） ・ 簡易ゲーム	・ 体力および技術の向上に必要な基礎運動を複数人で実践する ・ 基礎技術を応用した運動 ・ 簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
第 8 回	・ ゲーム（導入編Ⅰ）	・ ゲームを計画し、協調性を育む ・ ゲームを通じてスポーツの楽しさを体験する	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
第 9 回	・ ゲーム（導入編Ⅱ）	・ ゲームを計画し、協調性を育む ・ ゲームを通じてスポーツの達成感を体験する	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
第 10 回	・ ゲーム（基本編Ⅰ）	・ ゲームを計画し、リーダーシップを育む ・ ゲームを通じて主体的に動くことの重要性を学ぶ	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
第 11 回	・ ゲーム（基本編Ⅱ）	・ ゲームを計画し、リーダーシップを育む ・ ゲームを通じて他者に働きかけることの重要性を学ぶ	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
第 12 回	・ ゲーム（実践編Ⅰ）	・ ゲームを計画し、リーダーシップ、チームワークを育む ・ ゲームを通じてチームとしてまとまることの重要性を学ぶ	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
第 13 回	・ ゲーム（実践編Ⅱ）	・ ゲームを計画し、リーダーシップ、チームワークを育む ・ ゲームを通じてチーム全体の達成感を体験する	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り

第 14 回	・ ゲーム （応用編Ⅰ）	・ ゲームを計画し、チームワークを育む ・ ゲームを通じて自分の意見を他者に伝えることの重要性を学ぶ	事前：ルール・技術等の確認 と健康管理 事後：内容の振り返り
第 15 回	・ ゲーム （実践編Ⅱ）	・ ゲームを計画し、チームワークを育む ・ ゲームを通じて他者の意見を受け入れることの重要性を学ぶ ・ これまでの授業で体験したことのまとめ	事前：ルール・技術等の確認 と健康管理 事後：全授業の総括
定期試験は実施しない			

[評価方法（基準）]

活動点 50%、態度点 25%、技能点 25%として、総合評価する。
なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	なし		
参考書	各競技のルールブック（授業中に指示する）		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
英語基礎会話 I	1 年次・ 前期	1 単位 (必修)	松田早恵、田浦アマンダ、高橋真理子、 マイケルハーキー、フーパートッド (担当形態：クラス分け・単独)
科目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
免許法施行規則に定める科目区分	・ 外国語コミュニケーション		

〔授業概要・目的〕

本科目では、基本的な英会話力の向上を目指す。日常における様々なシーンを想定し、会話がスムーズにできるように練習する。ペアワークやグループワークなどを通じて、自分のことを一方的に話すだけでなく、相手の話を聞いてそれに受け答えできるように訓練をする。また様々な英語表現に触れ、会話の幅を広げることも目的の一つとしている。

〔到達目標〕

- ① 日常的な英会話のスキルを磨く。
- ② スムーズな会話ができるようになる。
- ③ 語彙や慣用句の知識の増強。

〔授業方法〕

授業やグループワークへの積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。多少の間違いがあっても、自分の考えを述べようとする方学生に対して評価する。

- ①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。
- ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。
- ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	イントロダクション	・授業の進め方、評価の方法などの説明 ・簡単な自己紹介	事前：Vocabluary の単語を覚える 事後：会話例の発音、文法の確認
第 2 回	Unit 1: 自己紹介 (be 動詞、Yes/No の答え方)	・単語テスト ・自己紹介の表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前：Vocabluary の単語を覚える 事後：会話例の発音、文法の確認
第 3 回	Unit 2: 物事の説明 (命令文)	・単語テスト ・説明の仕方の表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前：Vocabluary の単語を覚える 事後：会話例の発音、文法の確認
第 4 回	Unit 3: 物の配置 (There is/are)	・単語テスト ・場所の表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前：Vocabluary の単語を覚える 事後：会話例の発音、文法の確認
第 5 回	Unit 4: 習慣 (Do/Does を使った疑問文)	・単語テスト ・日々の習慣の表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前：Vocabluary の単語を覚える 事後：会話例の発音、文法の確認
第 6 回	Unit 5: 家族 (Wh-を使った疑問文)	・単語テスト ・自分の家族を紹介する表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前：Vocabluary の単語を覚える 事後：会話例の発音、文法の確認
第 7 回	中間テスト	これまで学んだことより中間テスト (ペア・グループの発表＋筆記)	事前：ペア・グループで発表内容の打ち合わせ 事後：Unit1～5 の総復習
第 8 回	Unit 6: ショッピング (Some と Any)	・単語テスト ・ショッピングでの表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前：・Vocabluary の単語を覚える 事後：会話例の発音、文法の確認
第 9 回	Unit 7: 週末 (時制)	・単語テスト ・週末の過ごし方の表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前：Vocabluary の単語を覚える 事後：会話例の発音、文法の確認
第 10 回	Unit 8: 食事 (可算名詞/不可算名詞)	・単語テスト ・食事に関する表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前：Vocabluary の単語を覚える 事後：会話例の発音、文法の確認
第 11 回	Unit 9: スポーツ (現在進行形)	・単語テスト ・スポーツに関する表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前：Vocabluary の単語を覚える 事後：会話例の発音、文法の確認
第 12 回	Unit 10: 家・部屋 (前置詞)	・単語テスト ・家や部屋に関する表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前：Vocabluary の単語を覚える 事後：会話例の発音、文法の確認

第 13 回	Unit 11: 過去 (過去形)	・単語テスト ・過去に行ったことに関する表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前:Vocabluary の単語を覚える 事後: 会話例の発音、文法の確認
第 14 回	Unit 12: 将来の こと (未来)	・単語テスト ・将来のことに関する表現について リスニング、会話例、グループ・ペアワーク、文法の確認を通して学ぶ	事前:Vocabluary の単語を覚える 事後: 会話例の発音、文法の確認
第 15 回	発表	これまで学んだことより発表 (ペア・グループの発表＋筆記)	事前: ペア・グループで発表内容 の打ち合わせ 事後: Unit6～12 の総復習
定期試験は実施しない			

[評価方法 (基準)]

TOEIC Bridge 20%、単語テスト 20%、中間テスト＋発表 40%、平常点：20%
注意：原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。平常点とは、課題へ取り組む姿勢、授業態度
(投げかける質問に対する呼応、積極性、集中度など) を総合的に評価するものであり、出席点ではない。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	『English Firsthand Access (5th Edition)』	Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier	Pearson and Longman
参考書	なし		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
英語基礎会話Ⅱ	1 年次・ 後期	1 単位 (必修)	松田早恵、田浦アマンダ、高橋真理子、 マイケルハーキー、フーパートッド (担当形態：クラス分け・単独)
科目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
免許法施行規則に定める科目区分	・外国語コミュニケーション		

〔授業概要・目的〕

本科目では、英語基礎会話Ⅰに引き続き、基本的な英会話力の向上を目指す。様々なシチュエーションを想定し、より深い内容の会話ができるように練習をする。ペアワークやグループワークなどを通じて、会話のキャッチボールがスムーズにできるように訓練を行う。文法の再確認も目的の一つとしている。

〔到達目標〕

- ① 日常的な英会話のスキルを磨く。
- ② スムーズな会話ができるようになる。
- ③ 語彙や慣用句の知識の増強。
- ④ 文法力の強化。

〔授業方法〕

授業やグループワークへの積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。多少の間違いがあっても、自分の考えを述べようとする方学生に対して評価する。

- ①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。
- ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象とする。
- ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	イントロダクション	・授業の進め方、評価方法の説明 ・夏休みの過ごし方	事前：シラバス内容の確認 事後：今後の学習計画
第 2 回	Unit 1: The Woman in the Picture (分詞 1)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表	事前：Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後：会話例の発音、文法の確認
第 3 回	Unit 2: Back to Titanic (受動態)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表	事前：Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後：会話例の発音、文法の確認
第 4 回	Unit 3: Leaving Port(助動詞)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表	事前：Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後：会話例の発音、文法の確認
第 5 回	Unit 4: Don't Do It (仮定法)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表	事前：Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後：会話例の発音、文法の確認
第 6 回	Unit 5: Do You Love Him? (進行形)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表	事前：Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後：会話例の発音、文法の確認
第 7 回	中間テスト	これまでの内容より中間テスト (ペア・グループワーク＋筆記)	事前：ペア・グループで発表内容の打ち合わせ 事後：Unit1～5 の総復習
第 8 回	Unit 6: I Can't See You (関係詞 1)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表	事前：Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後：会話例の発音、文法の確認
第 9 回	Unit 7: I'm Flying (関係詞 2)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表	事前：Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後：会話例の発音、文法の確認
第 10 回	Unit 8: Iceberg Right Ahead!(完了形)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表	事前：Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後：会話例の発音、文法の確認
第 11 回	Unit 9: An Honest Thief (分詞 2)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表	事前：Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後：会話例の発音、文法の確認
第 12 回	Unit 10: Goodbye, Mother (未来形)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表	事前：Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後：会話例の発音、文法の確認

第 13 回	Unit 11: Get in the Boat (代名詞)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表	事前：Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後：会話例の発音、文法の確認
第 14 回	Unit 12: Two Tragic Bullets (動名詞)	・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表	事前：Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後：会話例の発音、文法の確認
第 15 回	発表	これまでの内容より発表 (ペア・グループワーク＋筆記)	事前：ペア・グループで発表内容の打ち合わせ 事後：Unit6～12 の総復習
定期試験は実施しない			

[評価方法（基準）]

単語テスト 20%、中間テスト＋発表 50%、平常点：30%
注意：原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。平常点とは、課題へ取り組む姿勢、授業態度（投げかける質問に対する呼応、積極性、集中度など）を総合的に評価するものであり、出席点ではない。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	『Learn English with TITANIC(映画『タイタニック』で学ぶ総合英語)』	Teruhiko Kadoyama, Simon Capper	SEIBIDO（成美堂）
参考書	なし		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
データサイエンス基礎	1 年次・前期	1 単位 (必修)	橋本 はる美 (担当形態：単独)
科目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・ 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		

〔授業概要・目的〕

大学生活および卒業後の生活において要求される情報やデータを取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。

〔到達目標〕

情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。データサイエンスに関するエントリーレベルの知識を有すること。

〔授業方法〕

大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	オリエンテーション 摂南大学の ICT 環境 コンピュータの基礎 関連資格の紹介 データサイエンス	出欠管理システム メールシステム ポータルサイト Moodle への登録 OneDrive の使い方 用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 e-learning の方法	事前：シラバスの確認（30 分） 事後：大学の ICT 環境の確認（60 分）
第 2 回	データサイエンスとは 【Word】 Word の基礎スキル	1 データサイエンスとは（イントロ） 文書の新規作成と保存 表示モード・倍率の変更 Window の分割と利用 文字列の削除、コピー、貼付け 文字列の書式設定 段落の書式設定 文書の書式（テーマ等） 文字列の検索、編集記号の表示、隠し文字	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出（20 分） E-第 1 回（60 分）視聴・テスト
第 3 回	社会で起きている変化 【Word】 文書の管理 文字、段落の挿入と書式設定	2 社会で起きている変化（イントロ） 文書のページ設定を行う スタイルセットを適用する ヘッダーやフッターを挿入する、変更する 印刷の設定を変更する 記号や特殊文字を挿入する 文字列を検索する、置換する 文字の効果を適用する 行間、段落間隔、インデントを設定する 書式のコピー/貼付け	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出（20 分） E-第 2 回（60 分）視聴・テスト
第 4 回	社会で活用されているデータ 【Word】 セクションの挿入と設定 表やリストの作成と設定	3 社会で活用されているデータ（イントロ） ページ区切りを挿入する 段組みを設定する セクション区切りを設定する 行や列を指定して表を作成する 表のデータを並べ替える セルの余白と間隔を設定する セルを結合する、分割する 列の幅を設定する 箇条書きや段落番号を設定する リストのレベルを変更する 開始する番号の値を設定する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出（20 分） E-第 3 回（60 分）視聴・テスト
第 5 回	データ・AI の活用領域 【Word】 グラフィック要素の挿入と書式	4 データ・AI の活用領域（イントロ） 図形を挿入する 図を挿入する テキストボックスを挿入する SmartArt グラフィックを挿入する 3D モデルを挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスにテキストを追加・変更する 図形にテキストを追加・変更する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出（20 分） E-第 4 回（60 分）視聴・テスト

第 6 回	【Word】 テスト課題演習	Word 演習テスト	事前：Word の復習 事後：Word の振り返り（30 分）
第 7 回	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：PowerPoint の機能を調べる（30 分） 事後：事後課題の完成・提出（60 分）
第 8 回	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備（60 分） 事後：PowerPoint 機能の振り返り（30 分）
第 9 回	データ・AI 利活用のための技術 【Excel】 Excel の基礎スキル	5 データ・AI 利活用のための技術（イントロ） ブックの作成とテーマの適用 表示倍率の設定 データの移動、コピー、検索、置換 列や行の挿入、削除、コピー、表示設定 ワークシートの編集（追加、削除、移動、コピー、名称、見出し色） ブック内のデータを検索する ページ設定を変更する 行の高さや列の幅を調整する	事前：授業内容の確認（10 分） 事後：演習課題の完成・提出（20 分） E-第 5 回（60 分）視聴・テスト
第 10 回	【Excel】 ワークシートやブックの管理 シートのデータを操作する	ブックの表示を変更する ワークシートの行や列を固定する 印刷設定を行う 印刷範囲を設定する オートフィル機能でセルにデータを入力する 形式を選択してデータを貼り付ける 複数の列や行を挿入する、削除する セルを挿入する、削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
第 11 回	【Excel】 セルやセル範囲の表示と操作 データを視覚的にまとめる	セルの配置、文字の方向、インデントの変更 セル内のテキストを折り返して表示する セルを結合する、セルの結合を解除する 数値の書式を適用する 書式のコピー/貼り付け スパークラインを挿入する 組み込みの条件付き書式を適用する 条件付き書式を削除する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
第 12 回	【Excel】 数式や関数を使用した演算の実行	セルの相対参照、絶対参照、複合参照 SUM, AVERAGE, MAX, MIN 関数の利用 COUNT, COUNTA, COUNTBLANK 関数の利用 IF 関数を使用して条件付きの計算を実行する RIGHT, LEFT, MID 関数の利用 UPPER, LOWER 関数の利用 CONCAT 関数の利用	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
第 13 回	【Excel】 グラフの管理	グラフの種類と用途 グラフを作成する ソースデータの行と列を切り替える グラフにデータ範囲（系列）を追加する グラフの要素を追加する、変更する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
第 14 回	【Excel】 テスト課題演習	Excel 演習テスト	事前：Excel の復習（60 分）
第 15 回	データサイエンス・AI 演習	9 データを読む（1） データの代表値 データのばらつき 10 データを読む（2） 相関と因果 母集団と抽出 統計情報の正しい理解	事前：E-第 9 回(60 分) 視聴・テスト E-第 10 回(60 分) 視聴・テスト
定期試験は実施しない			

[評価方法（基準）]

授業中の実習課題（40%）、模擬試験や総合課題などの演習（40%）、プレゼンテーション（10%）、e-learning(10%)を総合的に評価する。この授業は演習中心のため、出席（課題提出）が単位取得の必要条件となる。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	『よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集（FPT1913）』	富士通 FOM	FOM 出版
教科書	『よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集（FPT1912）』	富士通 FOM	FOM 出版
参考書	なし		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
情報リテラシー	1 年次・後期	1 単位 (必修)	塚田 義典 (担当形態：単独)
科目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・ 数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		

〔授業概要・目的〕

大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成およびデータの取り扱いを行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。

〔到達目標〕

Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できること。情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の応用的な使い方と、それらの連携作業を実施できるようになること。 データサイエンスの次ステップにつながる知識を有すること。

〔授業方法〕

大学の ICT 環境を利用して、アプリケーションツールの使い方を実践的課題を通して演習形式で学ぶ。また、データサイエンスの基礎レベルを e-learning による自主学習とミニ講義、演習形式で学ぶ。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	オリエンテーションと復習	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル Word と Excel の連携	事前：情報リテラシーI の復習(50 分) 事後：演習課題の完成・提出(40 分)
第 2 回	データ活用とは 【Word 応用】 効率的な文書の作成と管理 文書の共有と検査	6 データ活用とは（イントロ） 文書内の他の場所にリンクする 文書内の特定の場所やオブジェクトに移動する ページの背景要素を設定する 別のファイル形式で文書を保存する 基本的な文書プロパティを変更する ページの背景色を印刷する 電子文書を共有する 文書を検査する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 6 回 (60 分) 視聴・テスト
第 3 回	データ・AI 利活用の現場 【Word 応用】 表やリストの変換と調整	7 データ・AI 利活用の現場（イントロ） 文字列に組み込みスタイルを適用する 書式をクリアする 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表全体のサイズを設定する 表を分割する タイトル行の繰返しを設定する 新しい行頭文字や番号書式を定義する アウトラインレベルに応じた番号書式を設定する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 7 回 (60 分) 視聴・テスト
第 4 回	データ・AI 利活用の最新動向 【Word 応用】 参考資料の作成と管理	8 データ・AI 利活用の最新動向（イントロ） 脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する、変更する 引用文献を挿入する 参考文献一覧を挿入する 目次を挿入する ユーザー設定の目次を作成する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 8 回 (60 分) 視聴・テスト
第 5 回	データ・AI を扱う上での留意事項(1) 【Word 応用】 グラフィック要素の変更と設定	13 データ・AI を扱う上での留意事項(1)（イントロ） アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果やスタイルを適用する グラフィック要素を書式設定する SmartArt グラフィックを書式設定する 3D モデルを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を追加する、変更する オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出(20 分) E-第 13 回 (60 分) 視聴・テスト
第 6 回	【Word 応用】 文書の共同作業の管理	コメントを追加する コメントを閲覧する コメントに返答する、対処する コメントを削除する 変更履歴を記録する、削除する 変更履歴を閲覧する 変更履歴を承諾する、元に戻す 変更履歴を設定する	事前：授業テーマの予習 (60 分) 事後：演習課題の完成・提出(30 分)
第 7 回	【Word 応用】 テスト応用課題演習	Word 応用演習テスト	事前：Word の復習 (90 分)

第 8 回	データ・AI を扱う上での留意事項(2) 【Excel 応用】 名前の定義 テーブルとデータの管理	14 データ・AI を扱う上での留意事項(2) (イントロ) 名前付き範囲を定義する テーブルに名前を付ける セル範囲から Excel のテーブルを作成する テーブルにスタイルを適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルに行や列を追加する、削除する テーブルスタイルのオプションを設定する 集計行を挿入する、設定する 複数の列でデータを並べ替える レコードをフィルタする	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 14 回 (60 分) 視聴・テスト
第 9 回	【Excel 応用】 数式における名前の利用 グラフの書式設定	数式の中で名前付き範囲やテーブル名を参照する LEN、RIGHT 関数を利用する TEXTJOIN 関数を利用する グラフシートを作成する グラフのレイアウトを適用する グラフのスタイルを適用する アクセシビリティ向上のため、グラフに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
第 10 回	データを説明する	11 データを説明する データを比較するためのグラフ 時間の推移を見せるためのグラフ データ相互の関係を示すためのグラフ データの偏りを示すためのグラフ データの比較 適切なグラフ表現 優れた可視化事例	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：E-第 11 回(60 分)視聴・テスト
第 11 回	データを扱う	12 データを扱う 売り上げを予測する 顧客層を分析する 顧客満足度を把握する 顧客の不満の要因を探る	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：E-第 12 回(60 分)視聴・テスト
第 12 回	データを守る上での留意事項とまとめ 【Excel 応用】 名前の利用と表示のカスタマイズ	15 データを守る上での留意事項とまとめ (イントロ) 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ヘッダーやフッターをカスタマイズする ウィンドウの表示を変更する ブックの基本的なプロパティを変更する 数式を表示する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする	事前：授業テーマの予習(10 分) 事後：演習課題の完成・提出 (20 分) E-第 15 回 (60 分) 視聴・テスト
第 13 回	【Excel 応用】 共同作業のための設定 セルのスタイルや書式設定	別のファイル形式でブックを保存する ブック内の問題を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する テキストファイルからデータをインポートする .csv ファイルからデータをインポートする セル内文字方向の傾き設定 セルの書式設定ダイアログボックスから設定する セルのスタイルを適用する セルの書式設定をクリアする	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
第 14 回	【Word/Excel 応用】 アウトライン文書作成 Excel データの文書利用	スタイルの適用と設定 アウトラインの表示と利用 文書への Excel 表や Excel グラフの挿入と設定	事前：授業テーマの予習(30 分) 事後：演習課題の完成・提出 (60 分)
第 15 回	【Excel 応用】 テスト応用課題演習	Excel 応用演習テスト	事前：出題範囲の復習 (90 分)
定期試験は実施しない			

[評価方法 (基準)]

授業中の実習課題 (40%)、模擬試験や総合課題などの演習 (40%)、e-learning(20%)を総合的に評価する。
この授業は演習中心のため、出席 (課題提出) が単位取得の必要条件となる。

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	『よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1913)』	富士通 FOM	FOM 出版
教科書	『よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 & 2019 対策テキスト&問題集 (FPT1912)』	富士通 FOM	FOM 出版
参考書	なし		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
教育原理	1 年次・後期	2 単位 (必修)	谷口 雄一 (担当形態：単独)
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		

〔授業概要・目的〕

「教育とは一体何だろう？」という本質的な問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察する。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていく。

これらの学修を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを批判的に吟味し、再構築していくことを目的とする。

〔到達目標〕

教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解すること等を通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とする。

〔授業方法〕

「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者一人一人が考え、自身の教育観を批判的に吟味し再構築していけるようにする。そのために、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して教育についての学びを進めていく。

毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパー（OPP シート：One Page Portfolio シート）を書いてもらう。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の受講者の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるようにする。

以上の授業方法により、「主体的・対話的で深い学び」について体感的に学んでいけるように配慮する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	ガイダンス：教育について考える	・本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	（事前）教科書 P.3 を精読しておく。 （事後）「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
第 2 回	教育の基礎理論①：教育の必要性	・なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	（事前）教科書 P.59～63 を精読しておく。 （事後）教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
第 3 回	教育の基礎理論②：教育の目的	・前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどうか、教育の目的について考える。	（事前）教科書 P.59～63 を精読しておく。 （事後）教育の目的について自分の考えを整理しておく。
第 4 回	教育の基礎理論③：子どもの発見	・「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	（事前）教科書 P.76～85 を精読しておく。 （事後）子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
第 5 回	教育の基礎理論④：教師とは何か	・教師という職業や、その教育的役割について考える。	（事前）教科書 P.69～73 を精読しておく。 （事後）教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
第 6 回	教育の基礎理論⑤：近代の学校の誕生	・近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	（事前）教科書 P.93～97 を精読しておく。 （事後）近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
第 7 回	教育の基礎理論⑥：家庭と教育	・家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	（事前）教科書 P.86～90 を精読しておく。 （事後）家庭における教育について整理しておく。
第 8 回	近代の教育思想①：コメニウスの教育思想	・コメニウスの教育思想について概観し、考察を加える。	（事前）教科書 P.20～22 及び P.94～95 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
第 9 回	近代の教育思想②：ルソー、ペスタロッチの教育思想	・ルソー、ペスタロッチらの教育思想について概観し、考察を加える。	（事前）教科書 P.23～25 及び P.77 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
第 10 回	近代の教育思想③：ヘルバルト、フレーベルの教育思想	・ヘルバルト、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	（事前）教科書 P.26～27 及び 81～82 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。

第 11 回	現代の教育理論①： デューイの教育思想	・デューイの教育思想について概観し、考察を加える。	（事前）教科書 P.28～29 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
第 12 回	現代の教育理論②： 20 世紀の教育理論	・20 世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	（事前）教科書 P.29～32 を精読しておく。 （事後）授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
第 13 回	現在の教育課題①： 学力問題	・現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	（事前）教科書 P.50～54 を精読しておく。 （事後）学力問題について整理しておく。
第 14 回	現在の教育課題②： 生涯学習の思想	・現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	（事前）教科書 P.147～151 を精読しておく。 （事後）生涯学習の思想について整理しておく。
第 15 回	まとめ： 今後の教育について考える	・教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	（事前）教科書 P.169～178 を精読しておく。 （事後）「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（60％）や学期末試験の結果（40％）等をもとに総合的に評価する。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	教育情報出版
参考書	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	東山書房
参考書	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	東山書房
参考書	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
教師論	1 年次・前期	2 単位 (必修)	朝日 素明 (担当形態：単独)
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		

〔授業概要・目的〕

「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深める。

〔到達目標〕

教職のあり方は教育の成否の鍵を握る。変化の激しい時代・社会における教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について理解を深め、教職への自己の適性を見つめ直し、教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための機会を得る。

〔授業方法〕

講義を中心に、事前学習に基づくディスカッション（LTD；Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進める。事前学習は必須である。

「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題である。事後学習課題については別途、指示する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明、自らの学校・生徒体験、心に残る教師等についてのふりかえり、教職課程の履修動機、教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
第 2 回	教職の成立とその意義	公教育の成立と教職の誕生、その意義、戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
第 3 回	教師教育と教職の専門性(1)	教員への道、戦後教員養成の原則と制度、教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
第 4 回	教師教育と教職の専門性(2)	教員免許制度の新たな展開、教員採用の動向と採用選考の方法	教員免許制度に関する配布資料、教員採用選考に関する配布資料
第 5 回	教師教育と教職の専門性(3)	教員の研修の意義、研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
第 6 回	教師教育と教職の専門性(4)	法定研修、教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
第 7 回	文献・映像に基づく教師像の探究(1)	戦前・戦後の教師像、憧れの教師	教師像に関する配布資料
第 8 回	文献・映像に基づく教師像の探究(2)	「不良教師」と「熱血教師」、レポートに基づくグループワーク	「不良教師」「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
第 9 回	文献・映像に基づく教師像の探究(3)	「人間教師」と「プロ教師」、レポートに基づくグループワーク	「人間教師」「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
第 10 回	文献・映像に基づく教師像の探究(4)	教師としての資質能力のあり方	資質能力のあり方に関する配布資料を読みレポート提出
第 11 回	教員の役割・職務(1)	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
第 12 回	教員の役割・職務(2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
第 13 回	教員の役割・職務(3)	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務(チーム学校運営への対応を含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
第 14 回	教員の役割・職務(4)	教員の任用、身分と服務、身分保障、勤務条件	教員の任用・服務等に関する配布資料
第 15 回	教員の役割・職務(5)	教員の勤務条件と勤務実態、メンタルヘルス、バーンアウト 教育改革と教員	教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

定期試験 60%、レポート 30%、グループワーク・ピア評価 10%

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	授業中に適宜資料を配布する。		
参考書	教師の条件〔改訂版〕	小島弘道・北神正行・水本徳明・平井貴美代・安藤知子	学文社

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
教育経営論	2 年次・後期	2 単位 (必修)	朝日 素明 (担当形態：単独)
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		

〔授業概要・目的〕

公教育システムに関してなじみの深い事象について、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討することを通して、私たちにとっては自明に過ぎるような公教育システムを対象化し、その経営のあり方について考え、理解を深める。

〔到達目標〕

- ① 現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身に付ける。
- ② ①を経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解する。

〔授業方法〕

プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション（LTD ; Learning Through Discussion）等のグループワークも織り交ぜて授業を進める。事前学習は必須である。
ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがある。
「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題である。事後学習課題については別途、指示する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	オリエンテーション・公教育システム経営とは	シラバス記載事項の確認と補足、授業方法としての LTD について説明、公教育システムの構造とその経営	シラバス、テキスト第 1 章を読んでくる。
第 2 回	公教育の成立と発展	社会における「公－私」の関係と教育、公教育の成立前史、近代公教育の成立動因とその本質	テキスト第 2 章を読んでくる。
第 3 回	公教育制度の確立・展開と公教育システム経営	近代公教育制度の確立・展開過程、民主主義・福祉国家と公教育システム経営、ボーダーレス社会化と公教育システム経営の課題	テキスト第 3 章を読んでくる。
第 4 回	公教育制度の構造と原理	学校体系の類型と発展、公教育の組織化原理	テキスト第 4 章を読んでくる。教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
第 5 回	公教育の意思決定システム	教育政策形成のメカニズム、法制面から捉えた教育政策形成、公教育の意思決定システム構築の課題	テキスト第 5 章を読んでくる。
第 6 回	教育法制の構造	教育法制の構造、憲法、教育基本法、学校教育法、地方教育行政法	テキスト第 7 章を読んでくる。
第 7 回	教育権の構造と教育意思	教育権論争の展開、教育権の構造、「教育を受ける権利」の保障	テキスト第 6 章を読んでくる。教育権についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
第 8 回	教育行政の全体構造と中央教育行政組織	教育行政の全体構造、教育行政の意義、文部科学省の組織と役割、中央と地方の関係構造	テキスト第 8 章を読んでくる。
第 9 回	教育行政の地方分権と教育委員会制度	地方教育行政の理念、教育委員会の組織、地方教育行政における職務権限、教育委員会と学校	テキスト第 9 章を読んでくる。
第 10 回	学校の組織特性と組織経営の理論	学校の組織特性、学校の組織経営の理論システム経営	テキスト第 14 章を読んでくる。学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
第 11 回	学校の組織構造とその経営	校長の職務権限、学校の組織構造、教職員の協働と参加、学年・学級経営	テキスト第 16 章を読んでくる。
第 12 回	教育内容行政と教育課程経営	教育の目的・目標、学習指導要領、教科書行政、教育課程の編成・実施、教育課程の評価と改善	テキスト第 11・15 章を読んでくる。学力論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
第 13 回	教職員の構成・配置と学級編制	教職員配置、学級編制と学年・学級経営、教員の労務管理と職能開発	テキスト第 17 章を読んでくる。
第 14 回	保護者・地域社会との連携と学校参加	学校と保護者・地域社会との接面、公教育経営における学校と保護者・地域社会との関係の課題	テキスト第 19 章を読んでくる。
第 15 回	学校の安全管理と安全教育	学校の管理下における事件・事故・災害、安全管理の領域、地域との連携・協働と安全教育	テキスト第 18 章を読んでくる。
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

定期試験 70%、レポート 20%、グループワーク・ピア評価 10%

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	公教育経営概説 （改訂版）	堀内孜	学術図書出版社
参考書	必要に応じて適宜、指示する。		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
教育心理学	1 年次・前期	2 単位 (必修)	吉田 佐治子 (担当形態：単独)
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		

〔授業概要・目的〕

学校での教育活動において、教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。

〔到達目標〕

- ① 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につける。
- ② 各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
- ③ 教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。
- ④ 日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができる。

〔授業方法〕

講義中心で行う。必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
また、授業の理解度や到達目標の達成度を測るため小テストを実施する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	発達と教育と心理学と 1	教育に対して心理学ができること，発達と教育	テキスト第 0 章 1，配付資料による本時の予習と復習
第 2 回	発達と教育と心理学と 2	発達の要因，主な発達理論の概観	テキスト第 8 章 1，配付資料による本時の予習と復習
第 3 回	こどもの発達 1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第 8 章 2・第 9 章，配付資料による本時の予習と復習
第 4 回	こどもの発達 2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第 8 章 2・第 10 章・第 11 章，配付資料による本時の予習と復習
第 5 回	こどもの発達 3	青年期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第 8 章 2・第 10 章・第 11 章・第 12 章，配付資料による本時の予習と復習
第 6 回	学習を支える認知機能 1	思考.....人間の思考の特徴，メタ認知の機能と発達	テキスト第 7 章 1，配付資料による本時の予習と復習
第 7 回	学習を支える認知機能 2	言語.....言語の機能，言語理解と言語産出とその発達	テキスト第 11 章，配付資料による本時の予習と復習
第 8 回	学習を支える認知機能 3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第 4 章・第 5 章，配付資料による本時の予習と復習
第 9 回	こどもの学び 1	さまざまな学習①.....学習とは何か，主な学習理論の概観，条件づけ	テキスト第 1 章，配付資料による本時の予習と復習
第 10 回	こどもの学び 2	さまざまな学習②.....観察学習，自己制御学習	テキスト第 1 章・第 6 章，配付資料による本時の予習と復習
第 11 回	学習を支える動機づけ 1	意欲とは何か.....動機づけ過程，動機づけ理論	テキスト第 2 章・第 3 章，配付資料による本時の予習と復習
第 12 回	学習を支える動機づけ 2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ，その他の視点，意欲の発達	テキスト第 2 章・第 3 章，配付資料による本時の予習と復習
第 13 回	学習を支える動機づけ 3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲，意欲を育む教育のあり方，学習と評価	テキスト第 2 章・第 3 章，配付資料による本時の予習と復習
第 14 回	学校における人間関係	教師・生徒の関係，生徒・生徒の関係，教師・教師の関係，集団としての学級	テキスト第 0 章 2・第 10 章，配付資料による本時の予習と復習
第 15 回	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....A T I，学習方略	テキスト第 0 章 3・第 6 章・第 7 章 2，配付資料による本時の予習と復習
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

小テスト（30%）、定期試験（70%）

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	絶対役立つ教育心理学―実践の理論，理論 を実践―	藤田哲也(編著)	ミネルヴァ書房
参考書	授業中に適宜資料を配布する		

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
特別支援教育論	3 年次・前期	2 単位 (必修)	松浦 正典 (担当形態：単独)
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		

[授業概要・目的]

教職課程「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」に対応する科目である。
障害をはじめ、性的マイノリティや日本語指導や貧困、被虐待等による特別な教育ニーズのある児童生徒が、安心安全のうちに、楽しく、達成感を持って学び、生きる力を身に付けることができるよう、教員として必要な知識及び支援の方法について学ぶ。
「障害」理解が一面的なものにならないよう、また、「障害」の概念について再構成することと併せて、特別支援教育の理念・制度・方法・教育課程の歴史的変遷及び現状と課題について整理し、インクルーシブな教育の今後の在り方について展望する。

[到達目標]

- ① インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。
- ② 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。
- ③ 発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、身体的・心理的特性及び学習の過程を理解している。
- ④ 個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。
- ⑤ 管理職・特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解している。
- ⑥ 貧困・LGBT などの理由により、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。

[授業方法]

- ① グループ演習の形式も取り入れながら、講義形式を中心に行う。

[授業計画]

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	オリエンテーション	なぜ特別支援教育論を学ぶのか。インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育と何か。	教科書の第 1 章を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
第 2 回	特別支援教育の歴史と現行制度	特殊教育・特別支援教育の歴史の概要、特別支援教育を支える仕組み	教科書の第 2 章を事前に読んでおく。第 4 回目の授業での発表準備をする。
第 3 回	支援システムの構築と法的整備	校内支援システムの構築や他職種等との連携、チーム学校	教科書の第 3 章を事前に読んでおく。第 4 回の授業での発表資料を提出する。
第 4 回	視覚障害・聴覚障害について	視覚障害・聴覚障害の概要・必要な支援と教育	教科書第 11 章を事前に読んでおく。第 7 回の授業での発表資料の準備をする。
第 5 回	肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複について	肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複の概要と、必要な支援と教育	教科書の第 10 章を事前に読んでおく。第 7 回の授業での発表資料を提出する。
第 6 回	情緒障害・言語障害について	情緒障害・言語障害の概要と、必要な支援と教育	教科書の第 8 章を事前に読んでおく。講義の内容を自分なりにまとめる。
第 7 回	知的障害・発達障害（1）	知的障害・発達障害の概要と必要な支援と教育についてグループで発表を行い、質疑応答をする。障害別に教え合い、お互いの内容を補完し合う。	教科書の該当部分をよく読んで質問をまとめておく。補充しあったことをまとめ、提出する。
第 8 回	知的障害・発達障害（2）	第 7 回授業後に提出した資料をもとに 2 回目のグループ発表を行う。まとめの講義を受ける。	教科書該当部分をよく読んでおく。講義と発表の内容を自分なりにまとめる。
第 9 回	LGBT 等特別な教育的支援が必要な子どもの理解と指導・支援	学習困難。不登校・ギフテッド LGBT など教育的支援が必要な子ども、学級での支援の方法	教科書第 12 章を事前に読んでおく。講義や資料を基にまとめる。
第 10 回	個別の指導計画と個別の教育支援計画	ICF モデル、合理的配慮、個別の指導計画・個別の教育支援計画	教科書第 5 章を事前に読んでおく。講義や資料を基にまとめる。
第 11 回	通常学級での特別支援教育（1）	場の教育とニーズによる教育、アセスメント、授業で起きやすいつまづきと支援	講義資料を事前に読んでおく。講義や資料を基にまとめる。
第 12 回	通常学級での特別支援教育（2）	学校のユニバーサルデザイン、授業・学校教室・人的環境の各ユニバーサルデザイン・視覚化・共有化・焦点化	講義資料を事前に読んでおく。講義や資料を基にまとめる。
第 13 回	保護者との連携、専門機関・地域との連携	特別支援教育を支える専門的機関の種類と内容・地域での生活・支援と課題	教科書の 13・14 章事前に読んでおく。講義や資料を基にまとめる。
第 14 回	早期支援と就労支援	早期発見システム・早期支援・進路支援・就労支援	教科書の第 15・16 章を事前に読んでおく講義や資料を基にまとめる。

第 15 回	発達障害等に対する指導技法・まとめ	応用行動分析、全体のまとめ	配付した資料に目を通して おく。講義や資料を基にま とめる。
定期試験は実施しない			

〔評価方法（基準）〕
最終レポート（50%）、中間レポート（20%）、毎回の授業への参加状況及び課題（30%）を総合的に評価する。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	特別支援教育 多様なニーズへの挑戦	柘植雅義著	中公新書
参考書	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説		文部科学省
参考書	特別支援教育資料		文部科学省

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
教育課程論	2 年次・前期	2 単位 (必修)	大野 順子 (担当形態：単独)
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		

〔授業概要・目的〕

本講義は教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような過程で編成されているのかについてのまずその歴史的経緯を考察する。同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。そして、わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の将来像と、その課題について考える。

〔到達目標〕

- ① 学校教育における教育課程の意義について理解できる。
- ② 将来、教職に就いた際、適切な教育課程（カリキュラム）を計画・編成し、かつ、実践、評価できる資質が身につく。

〔授業方法〕

テキストや資料を中心に授業を進める講義形式が基本となる。扱うテーマによってはグループワークを導入するなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められる。

授業準備として各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を読み、それぞれの免許取得教科の学習指導要領を入手し、全体に目を通しておくことが望ましい。

また、授業でレジュメを配布する予定ではあるが、板書内容やパワーポイント資料の内容を記述するため本授業専用のノートを一冊準備すること。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	教育課程とは何か	オリエンテーション 学校教育のもつ機能について	課題：シラバスに挙げている教科書の該当する分を読んでおくこと
第 2 回	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後、経験主義～系統主義：高度経済成長期の教育課程変遷について	課題：教科書の該当する部分と授業（第 1 回目）で配布する資料を事前に読んでくること
第 3 回	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970 年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について	課題：教科書の該当する部分と授業（第 1 回目）で配布する資料に目を通しておくこと
第 4 回	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素〈内部要因と外部要因〉について	課題：シラバスに挙げている教科書の該当する分を読んでおくこと
第 5 回	教育評価 その 1	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと
第 6 回	教育評価 その 2	教育課程評価について	課題：本時テーマについて調べてくる（A4 一枚程度、詳細は授業で伝える）
第 7 回	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて〈学生グループによるワーク、発表を予定〉	課題：本時テーマについて調べてくる（A4 一枚程度、詳細は授業で伝える）
第 8 回	新しい教育課程 その 1	「キャリア教育」について事例分析と学生グループによるワーク、および発表を予定	課題：本時テーマについて調べてくる（A4 一枚程度、詳細は授業で伝える）
第 9 回	新しい教育課程 その 2	「アクティブラーニング」について、その意義・目的と実践事例について	課題：本時テーマについて調べてくる（A4 一枚程度、詳細は授業で伝える）
第 10 回	新しい教育課程 その 3	「社会に開かれた教育課程」と地域との連携について	課題：本時テーマについて調べてくる（A4 一枚程度、詳細は授業で伝える）
第 11 回	教育課程と教育改革 その 1	特色のある学校づくり＝小中高編〈学生グループによるワーク、および発表を予定〉	課題：本時テーマについて調べてくる（A4 一枚程度、詳細は授業で伝える）
第 12 回	教育課程と教育改革 その 2	カリキュラム・マネジメントについて、その意義と目的	課題：本時テーマについて調べてくる（A4 一枚程度、詳細は授業で伝える）
第 13 回	教育課程と教育格差 その 1	学力格差と学力低下問題について〈学生グループによるワーク、および発表を予定〉	課題：本時テーマについて調べてくる（A4 一枚程度、詳細は授業で伝える）
第 14 回	教育課程と教育格差 その 2	教育格差に抗する学校の取り組みについて（学生グループによるワーク、および発表を予定）	課題：本時テーマについて調べてくる（A4 一枚程度、詳細は授業で伝える）
第 15 回	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー（OECD）について	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと
定期試験			

[評価方法（基準）]

定期試験（60％）、中間試験(予定)・課題・レポート等（40％）

[教 材]

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	「新しい時代の教育課程（第４版）」 その他、適時、レジュメ、資料を配布する	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名 恵	有斐閣アルマ
参考書	新教育課程ライブラリ Vol.1～Vol.12	ぎょうせい（編集）	ぎょうせい
参考書	教育課程・方法論 コンピテンシーを育て る授業デザイン	松尾知明	学文社

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	1 年次・後期	2 単位 (必修)	松浦 正典 (担当形態：単独)
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・総合的な学習の時間の指導法 ・特別活動の指導法		

[授業概要・目的]

特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

総合的な学習の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えるための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。

[到達目標]

- ① 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。
- ② 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。
- ③ 合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができている。
- ④ 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解している。
- ⑤ 主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。

[授業方法]

- ① 講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。
- ② 「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見いだし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネート・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。

[授業計画]

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第 1 章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
第 2 回	特別活動の目標・内容・方法	学級活動に役立つワーク① 教科外活動としての位置づけ、特別活動の 3 つの内容、方法としての集団活動・体験活動・社会参画のもととなる地域との連携	特別活動テキスト第 2 章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
第 3 回	学級活動・ホームルーム活動①	学級活動に役立つワーク② 学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画	特別活動テキスト第 3 章第 1 節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
第 4 回	学級活動・ホームルーム活動②	学級活動に役立つワーク③ 人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直	特別活動テキスト第 3 章第 1 節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
第 5 回	生徒会活動・児童会活動、学級行事	学級活動に役立つワーク④ 生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点	特別活動テキスト第 3 章第 2・3 節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
第 6 回	体験活動の意義	学級活動に役立つワーク⑤ 特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通した学びの重要性と計画的な指導の重要性	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
第 7 回	特別活動の歴史・領域・方法	学級活動に役立つワーク⑥ 学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがい	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
第 8 回	特別活動と学級経営	ワーク⑦メディアリテラシー 〈グループ討議、交流〉 学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
第 9 回	特別活動と生徒指導	学級活動に役立つワーク⑧ 生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
第 10 回	特別活動の指導計画と評価	学級活動に役立つワーク⑨ 全体計画・年間指導計画と配慮事項、1 単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用	特別活動テキスト第 4 章第 1・2・5 節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする

第 11 回	特別活動と総合的な学習の時間	学級活動に役立つワーク⑩ 特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
第 12 回	総合的な学習の時間の目標・内容・方法	学級活動に役立つワーク⑪ 総合的な学習の時間（探究の時間）の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理	総合的な学習の時間のテキスト第 1・2・3 章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。
第 13 回	総合的な学習の時間の学習指導	学級活動に役立つワーク⑫ 生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び	総合的な学習の時間のテキスト第 2・7 章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。
第 14 回	総合的な学習の時間の指導計画と評価	学級活動に役立つワーク⑬ 全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価	総合的な学習の時間のテキスト第 5・6・8 章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。
第 15 回	補足とまとめ	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 特別活動の指導の配慮事項及び担当する教師、国旗・国歌の取扱い 総合的な学習の時間の体制づくり	特別活動のテキスト第 4 章第 2・3・4 節、総合的な学習の時間のテキスト第 9 章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習する。
定期試験は実施しない			

〔評価方法（基準）〕

最終レポート（50%）、中間レポート（20%）、毎回の授業への参加状況及び課題（30%）を総合的に評価する。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編	文部科学省	東山書房
教科書	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房
参考書	高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 特別活動編	文部科学省	東京書籍
参考書	高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 総合的な探究の時間編	文部科学省	学校図書

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
教育方法論	2 年次・前期	2 単位 (必修)	澤田 俊也 (担当形態：単独)
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		

〔授業概要・目的〕

教員に求められる教育の方法と技術に関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけさせる。そのために、教育の方法と技術に関する歴史的変遷に触れるとともに、現在求められている「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学びと協働的な学び」についての理解を深めさせる。また、それぞれが理想とする授業像・教師像を探究し、反省的実践家として求められる基礎的省察力を身につけさせる。

授業形式としては、講義のほかに、ペア・グループワークを適宜行う。また、受講者が学習指導案を作成し、模擬授業を行う活動も取り入れる。

〔到達目標〕

- ① 教育方法の基礎的理論と実践を理解している
- ② これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方（主体的・対話的で深い学びの実現、個別最適な学びと協働的な学び）を理解する
- ③ 多様な授業のあり方を踏まえた上で、授業をデザインできる
- ④ 子どもたちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解する
- ⑤ 他者の授業や意見を踏まえながら、授業について省察できる

〔授業方法〕

- ① 講義・ワークを中心に授業を進めるが、インタラクティブ（双方向的）な授業構成となるように、必要に応じてペア・グループワークを取り入れる。
- ② 毎回、授業の最後にコメントペーパーを配付する。次回の授業において、共有すべき点についてコメントする。
- ③ 第 12 回から第 14 回の授業では、受講者一人ひとりが学習指導案を作成する活動を行う。また、第 15 回の授業では、グループごとに模擬授業を行い、検討会を設けて省察する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	教師の仕事と教育方法	デザイナーとしての教師を理解する	教育方法に関する自分の考えを整理しておく・授業内容を踏まえ、自分の考えを整理する
第 2 回	欧米における授業の歴史	近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開、科学技術の進歩と教育改革について理解する	関連文献を読み、内容を整理する・授業の内容について整理する
第 3 回	日本における授業の歴史	近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、新教育の受容と戦後改革、現代の教育改革について理解する	関連文献を読み、内容を整理する・授業の内容について整理する
第 4 回	授業づくりと「しかけ」	授業を構成する基礎的な要件と「しかけ」の意義を理解する	関連文献を読み、内容を整理する・授業の内容について整理する
第 5 回	教師個人の学び	教師の専門性と省察の理論について理解する	関連文献を読み、内容を整理する・授業の内容について整理する
第 6 回	教師集団の学び	教師集団のあり方について理解する	関連文献を読み、内容を整理する・授業の内容について整理する
第 7 回	授業研究の意義	授業研究の意義と現状を理解する	関連文献を読み、内容を整理する・授業の内容について整理する
第 8 回	主体的・対話的で深い学びの現状	主体的・対話的で深い学びの意義と現状を理解する	関連文献を読み、内容を整理する・授業の内容について整理する
第 9 回	個別最適な学びと協働的な学びの現状	個別最適な学びと協働的な学びの意義と現状を理解する	関連文献を読み、内容を整理する・授業の内容について整理する
第 10 回	学力論・学習評価論	学力観と学習評価論の変遷について理解する	関連文献を読み、内容を整理する・授業の内容について整理する
第 11 回	ICT を活用した授業づくり	教育の情報化と今日的課題、教育情報化の加速、ICT を活用した学びの実践、GIGA スクール構想について理解する	関連文献を読み、内容を整理する・授業の内容について整理する
第 12 回	学習指導案の作成①	子ども観・教材観・指導観を検討する	どの単元で学習指導案を作成するのかを検討する・子ども観、教材観、指導観を適宜修正する
第 13 回	学習指導案の作成②	単元計画を検討する	単元計画の構想を練る・単元計画を適宜修正する

第 14 回	学習指導案の作成③	本時の学習過程・評価規準・板書計画・ICT 活用を検討する	本時の学習過程、評価規準、板書計画の構想を練る・本時の学習過程、評価規準、板書計画を適宜修正する
第 15 回	模擬授業と検討会	模擬授業を行うとともに、他の受講者の模擬授業に対するコメントを相互評価シートに記入し、検討会を設けて省察する	学習指導案を完成させる・他者からのコメントを踏まえて、自身の目指す授業像・教師像について整理する
定期試験は実施しない			

〔評価方法（基準）〕

学習指導案と模擬授業の内容（30%）、相互評価の取り組み内容（20%）、最終レポートの内容（30%）、毎回の授業への参加状況及び課題の内容（20%）を総合的に評価する。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
参考書	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣
参考書	中学校学習指導要領解説 総則編（平成 29 年）		文部科学省
参考書	高等学校学習指導要領解説 総則編（平成 30 年）		文部科学省

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
教育における情報通信技術の活用	2 年次・前期	1 単位 (必修)	橋本 はる美 (担当形態：単独)
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		

〔授業概要・目的〕

教育現場における情報通信技術の活用について、その歴史的経緯と今後のあり方について理解し、情報モラルと情報活用能力を活用した指導方法、評価方法などについて学修することで、担当教員に必要な基礎的知識や資質を養う。また、情報通信技術を用いて模擬授業を行い、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。

〔到達目標〕

教育現場における情報通信技術の活用と意義を理解し、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに、情報通信技術を活用した教育指導技術の向上を図る。また、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。

〔授業方法〕

授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	イントロダクション	情報通信技術の歴史的経緯 教育現場における情報通信技術の活用のあり方	事前：情報通信技術とは何かを調べる（120 分） 事後：これまでに受けた授業で情報通信技術を使った例と簡単な説明を考える（120 分）
第 2 回	教育分野で情報通信技術を活用するための意義と役割	デジタル教材や遠隔授業などの活用事例の紹介 情報セキュリティとデータの活用、校務の活用への推進	事前：情報通信技術を活用した授業事例のメリットと課題を書き出す（120 分） 事後：デジタル教材や遠隔授業についてまとめる（120 分）
第 3 回	情報セキュリティ、情報モラル、情報活用能力の内容	ICT 環境と情報セキュリティ 情報モラルの教育 オフィスソフトの活用	事前：大学の ICT 環境と教育ツールについてまとめる（120 分） 事後：授業で出された課題の取り組み（120 分）
第 4 回	ICT 環境の整備と教育データの活用	学習者の多様性に対応するためのツールや機能の活用 教育データ等を使った指導や学習評価への活用	事前：アクセシビリティについて調べる（120 分） 事後：授業で出された課題の取り組み（120 分）
第 5 回	デジタル教材と遠隔授業の研究	情報通信技術を活用した教材と指導法の作成 遠隔授業への活用	事前：デジタル教材の内容を計画する（120 分） 事後：作成したデジタル教材の修正をする（120 分）
第 6 回	デジタル教材の研究（グループ）	情報通信技術を活用した教材と指導法の検討	事前：指導法を作成する（120 分） 事後：作成した指導法の見直しをする（120 分）
第 7 回	模擬授業（グループ）	情報通信技術を活用した指導の実践	事前：模擬授業の練習をする（120 分） 事後：模擬授業を振り返る（120 分）
第 8 回	模擬授業の振り返り	情報通信技術を活用した教材と模擬授業の評価	事前：模擬授業の課題を考える（120 分） 事後：模擬授業の振り返りと課題（120 分）
定期試験は実施しない			

〔評価方法（基準）〕

授業中の課題とレポート（60%）、授業中に作成した教材と模擬授業（40%）をもとに総合して評価する

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	なし		
参考書	「情報モラル&情報セキュリティ」	㈱富士通ラーニングメディア	FOM 出版

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
生徒指導論(進路指導を含む)	2 年次・後期	2 単位 (必修)	朝日 素明 (担当形態：単独)
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		

〔授業概要・目的〕

生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めている。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されている。生徒指導も進路指導も、諸問題への対症療法としてではなく、学校の教育活動の中核として実践されていく必要がある。本科目では、多くの具体的な問題事象に通底する基本的で普遍的な原理を学び、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、教職員や関係機関と協力して解決・改善を目指そうとする素養を涵養する。

〔到達目標〕

- ① 生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義と原理を理解し、学校の教育活動の核にこれを据え、全ての教職員および関係機関等と協力し、組織的に実践を進めていくために必要な知識やスキル、素養を獲得する。
- ② 生徒指導、進路指導の方法に関する基本的な事柄について必要最低限の知識を獲得し、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につける。

〔授業方法〕

プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐって簡単なディスカッション等も織り交ぜて授業を進める。また、時折、レポートを課す。

「事前・事後学習課題」はすべて事前課題で、事後課題については別途、指示する。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	オリエンテーション	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり	シラバスを読んでもくる
第 2 回	生徒指導の目標と意義	教育課程と生徒指導・進路指導 生徒指導の目標と意義	テキスト pp.3-17、 pp.25-32、pp.80-100
第 3 回	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp.17-24
第 4 回	生徒指導の理論	理論の重要性、発達に関する理論 生徒指導における治療的支援に関する理論	テキスト pp.32-42
第 5 回	生徒理解の進め方（1）	生徒理解の意義と目的、生徒理解の方法	テキスト pp.43-52
第 6 回	生徒理解の進め方（2）	生徒の自己理解の支援、教師の生徒認知のありよう	テキスト pp.52-62
第 7 回	学級経営の進め方（1）	学級経営の意義、学級集団の役割・機能	テキスト pp.63-68
第 8 回	学級経営の進め方（2）	学級集団の力学、学級経営の方法	テキスト pp.68-79
第 9 回	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは、最近の諸問題の動向 諸問題への対応方法	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
第 10 回	学校の生徒指導・進路指導体制と連携・協力	学校における指導体制、家庭との連携、 専門機関・団体との連携	テキスト pp.116-131
第 11 回	生徒の進路・キャリアに関する実態と課題	進路選択の実態と課題、キャリア適応、青少年の勤労観・職業観、 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp.176-195
第 12 回	進路指導・キャリア教育の目標と意義	進路指導・キャリア教育の意義 進路指導・キャリア教育の現代社会的課題	テキスト pp.135-159
第 13 回	進路指導・キャリア教育の理論	キャリア発達に関する諸理論 キャリアカウンセリングに関する理論	キャリア発達理論に関する配布資料
第 14 回	進路指導の実践（1）	進路指導における「ガイダンスの機能」	テキスト pp.196-223
第 15 回	進路指導の実践（2）	進路指導実践の展開モデル	テキスト pp.223-234
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

定期試験 60%、レポート 40%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	生徒指導・進路指導	高橋超・石井真治・熊谷信順	ミネルヴァ書房
参考書	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編		文部科学省
参考書	高等学校学習指導要領解説 総則編 （平成 30 年 7 月）		文部科学省
参考書	生徒指導提要（平成 22 年 3 月）		文部科学省

科 目 名	配当年次・開講期	単位数	担 当 者
教育相談(カウンセリングの基礎を含む)	3 年次・後期	2 単位 (必修)	吉田 佐治子 (担当形態：単独)
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		

〔授業概要・目的〕

教育相談は、幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。

学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識及びその実践的な手法を紹介する。併せて生徒理解と“問題”への対応について、実践的な取り組み方を考える。

〔到達目標〕

- ① 幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を身に付ける。
- ② 教育相談の基本的な考え方、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。
- ③ その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。

〔授業方法〕

講義と演習を組み合わせで行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	イントロダクション 教育相談とは何か	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	シラバスを読む
第 2 回	カウンセリングの基礎	教育相談の意義、教師としての立場、カウンセリングマインド カウンセリングの基本的な考え方、カウンセリングの技法	テキスト第 1 章、第 2 章を読む
第 3 回	グループ発表の準備	グループワーク（アイスブレイクを含む）	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備
第 4 回	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第 12 章、第 13 章を読む グループ発表の準備
第 5 回	学校におけるカウンセリング活動 1	カウンセリング活動のいろいろ(1) 治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第 10 章を読む グループ発表の準備
第 6 回	学校におけるカウンセリング活動 2	カウンセリング活動のいろいろ(2) 開発的カウンセリング活動	テキスト第 10 章を読む グループ発表の準備
第 7 回	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	グループ発表の準備
第 8 回	“問題”の対応と理解 1	“問題”とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第 3 章を読む グループ発表の準備
第 9 回	“問題”の対応と理解 2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第 3 章、第 4 章を読む グループ発表の準備
第 10 回	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	教育心理学の復習 グループ発表の準備
第 11 回	相談援助活動の実際 1	不登校－その理解と対応（グループ発表）	テキスト第 5 章を読む
第 12 回	相談援助活動の実際 2	いじめ－その理解と対応（グループ発表）	テキスト第 6 章を読む
第 13 回	相談援助活動の実際 3	授業崩壊・学級崩壊－その理解と対応（グループ発表）	テキスト第 7 章を読む
第 14 回	相談援助活動の実際 4	反社会的行動－その理解と対応（グループ発表）	テキスト第 8 章を読む
第 15 回	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために、教員への対応	テキスト第 14 章を読む
定期試験			

〔評価方法（基準）〕

グループ発表 50％ 定期試験 50％。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	よくわかる！教職エクササイズ 3 教育相談	森田健宏・吉田佐治子（編著）	ミネルヴァ書房
参考書	授業中に適宜資料を配布する		

科 目 名		配当年次・開講期	単位数	担 当 者
教職実践演習（中・高）		4 年次・後期	2 単位 (必修)	吉田佐治子・朝日素明・ 松浦正典・大野順子・谷口雄一 (担当形態：オムニバス)
科 目		教職実践に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等		教職実践演習		
履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取		×
受講者数 10 人（総履修者数は50 人 5 クラスに分割して1 クラス10 人で実施する）				

〔授業概要・目的〕

教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題、グループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。

中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。

教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。

教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。

〔到達目標〕

- ① 免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。

〔授業方法〕

- ① 教職課程の専任教員 5 名による全体指導と、専任教員ごとにグループ学習を中心に進める。1 グループは 10 名程度。
- ② さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。
- ③ 大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。
- ④ 授業にあたっては、資料の配付や課題の提出などを、主に WEB 上で行う。場合によっては、授業自体をオンラインで行う場合もある。Teams や Moodle など、教員に指定された方法についてよく理解しておくこと。

〔授業計画〕

回 数	テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
第 1 回	「教職実践演習」の全体ガイダンス	科目の目的、内容、方法についての確認。 受講者各自の教育実習後の課題についての確認。 3 回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。 (担当：吉田・朝日・大野・谷口・松浦)	教育実習ノートの点検と再確認
第 2 回	教科における実践上の課題 1	教科ごとに分かれ、その教科の専門分野に関するについて考える。 教科ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する個々の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。 (担当：吉田・朝日・大野・谷口・松浦，教科担当教員)	専攻教科における分野ごとの課題を整理
第 3 回	教科における実践上の課題 2	教科ごとに分かれ、その教科の実践上の課題について考える。 その際、I C T の活用についても実態に即して理解する。 (担当：吉田・朝日・大野・谷口・松浦，教科教育法担当教員)	専攻教科における分野ごとの課題を整理
第 4 回	生徒指導・進路指導（中学校現場での実地学習）	市教育委員会との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。 (担当：吉田・朝日・大野・谷口・松浦)	中学生における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
第 5 回	教科指導（中学校現場での実地学習）	市教育委員会との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、教科指導上の実践課題や I C T 活用の実際を知る。 (担当：吉田・朝日・大野・谷口・松浦)	中学生における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる
第 6 回	今日的な教育問題に関する学習 1 いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。 (担当：朝日)	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
第 7 回	今日的な教育問題に関する学習 2 いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う (担当：朝日)	(事前)配布資料の熟読 (事後)小レポートの提出
第 8 回	今日的な教育問題に関する学習 3 ジェンダーと教育（1）	ジェンダーと教育に関する視聴覚教材の視聴、及び、問題点についてまとめる。 (担当：大野)	(事前) 各自事前にジェンダーに関する問題について身の回りの問題、ネットや新聞記事等から見つけ出ししておく。

第 9 回	今日的な教育問題に関する学習 4 ジェンダーと教育（2）	第一回目のまとめを全体で共有し、そこからジェンダーに関する問題点をひとつ取り上げ全体で議論する。（担当：大野）	（事前）各自事前にジェンダーに関する問題について身の回りの問題、ネットや新聞記事等から見つけ出しておく。
第 10 回	今日的な教育問題に関する学習 5 学校の危機管理①：学校管理下の事件・事故	学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。 （担当：谷口）	（事前）学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。 （事後）ミニレポートを課す。
第 11 回	今日的な教育問題に関する学習 6 学校の危機管理②：災害	災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。 （担当：谷口）	（事前）災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。 （事後）二回分の講義内容を踏まえたうえでの論述試験を課す。
第 12 回	今日的な教育問題に関する学習 7 通常学級での特別支援教育（1）	場の教育とニーズによる教育の違いを整理する。 個別支援とアセスメント・個別支援の最適化について理解する。 （担当：松浦）	（事前）前時の授業内容を復習しておく。 （事後）講義や教科書を元に学習内容をまとめる。
第 13 回	今日的な教育問題に関する学習 8 通常学級での特別支援教育（2）	前時の授業を踏まえ、「授業のユニバーサルデザイン」の概要・目指すものについて理解する。 （担当：松浦）	（事前）前時の授業内容を復習しておく。 （事後）講義や教科書を元に学習内容をまとめる。
第 14 回	今日的な教育問題に関する学習 9 カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。（担当：吉田）	（事前）カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 （事後）小レポート
第 15 回	今日的な教育問題に関する学習 10 「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。 （担当：吉田）	（事前）「自分」について考える。 （事後）小レポート
定期試験は実施しない			

〔評価方法（基準）〕

グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価 60%以上で合格とする。

〔教 材〕

教材の区分	書 名	著者名	出版社名
教科書	授業中に適宜資料を配布する		
参考書	なし		